

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	現代の国語	現国002-901	東京書籍	新編 現代の国語

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 視聴報告書 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
1 自己を見つめる こそそめスー プリボシカミキリの青 気になるニュースについて話 そう	・筆者自身の考え方を読み取り、人そ れぞれが持つ意識の世界に思いをは せる。 ・筆者の少年時代の体験について書 かれた文章を読み、自分に当てはめ て考える。 ・情報を整理し、内容や構成に注意す る。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。 ・指示語の指す内容に注意し、前後のつな がりを意識しながら読み、関係性を理解し ている。	・「こそそめスープリ」が象徴する筆者独自の 視点を理解し、説明できる。 ・「こそそめスープリのある世界」と「自分の作 りあげた異世界」の関連を把握し、筆者の 主張する「違う現実」で生きる意義について 理解し、説明できる。 ・少年時代の筆者の「興味・関心」と、筆者の 人生におけるそのことの意味を理解し、説 明できる。 ・伝えたい話題に関する情報を収集・比較・ 分類して、立場やその見方を多角的に捉 え、自己の意見や見方を明確に説明でき る。	・筆者と同じような勘違いをしていたことが ないかを思い出して書き出し、「思い込み」 や「勘違い」の背景を探ると同時に「本物の こそそめスープリ」とはどのようなものかを考 え、説明しようとしている。 ・本文の内容を踏まえて自分が夢になっ たものについて、理由とともに説明しようと している。 ・本文の内容を踏まえて、自分自身の興味 や関心について、その魅力と今後への意欲 を説明しようとしている。
2 他者に出会う 未来をつくる想像力 メディアとの付き合い方 水の東西 評論の読み方 文章の要旨をまとめてみよう 集めた情報の内容を検討して 意見文を書こう	・情報と想像力の関係を論じた文章を 読み、意見の根拠を的確に理解して 筆者の主張をつかむ。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比 較を通じて、日本文化の特質につい て理解を深める。 ・情報を集めて検討し、構成を工夫し て意見文を書く。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。 ・接続詞や指示語に注意し、前後のつな がりを意識しながら読みその関連性を理解し ている。	・「イメージの貧困」という事態が起きる原因 を理解し、簡潔に説明できる。 ・「鹿おどし」と「流れてやまないものの存在」 の関係性を理解し、それを説明できる。 ・序論・本論・結論の構成で、読み手が理解 しやすいように、自分の意見を筋道立てて 主張できる。	・本文の理解を踏まえて、「鹿おどし」のよう な日本独自の文化を象徴する事柄や事物 を挙げて、西洋と対比しながら自分独自の 視点で説明しようとしている。
3 言葉と生活 1 分かりやすい説明をしよう 異なる種類の文章を読み比べ よう グラフや写真の読み取り方	・目的や相手に合った分かりやすい説 明ができるようになる。 ・複数の文章を読み比べ、自分の考え を深める。	-	・説明の目的と相手の立場や年齢にふさわ しい構成になるよう、話す詳しさを順序など を工夫し、説明できる。 ・文章を比較しながら読んで、各文章の要 旨を捉え、主張の違いをつかんで説明でき る。	-
4 視野を広げる スキマが育む都市の緑と生命 のつながり 無彩色の色 ハサミ－左利きだからこそ見 えた 世間－ 情報を整理しながら話し合 おう	・身近な植物を観察してきた成果を述 べる文章を読み、提示された新しい、 筆者の価値観と主張をつかむ。 ・色について論じた文章を、具体例の 役割を押さえながら読み、筆者の価 値観と主張をつかむ。 ・ハサミに関する筆者の体験談を読 み、自分のものの見方を検討しよう。 ・話し合いの進め方を工夫し、考えを 深める。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。	・都市部における「スキマ」と「管理下にある 緑地」について具体的にイメージし、その特 徴を説明できる。 ・「ネズミ色」「グレー」「灰色」の持つイメー ジと「灰色の美学」の概念を理解し、説明でき る。 ・灰色に対する筆者の評価とその理由を読 み取り、説明できる。 ・話し合いの進め方や注意点について考 え、よりよい結論を導こうと考察すること ができる。	・生態系という新たな視点から、身近な「ス キマの植物」に改めて目を向けることで、 「都市部の緑の在り方」について考え、説明 しようとしている。 ・筆者の主張を踏まえて、暖色と寒色、有彩 色と無彩色を比較し、それぞれの特徴や自 分の美的感覚について、意見を説明しようと している。 ・
5 社会と関わる 鍋洗いの日々 森で染める人 動きを引き出す言葉の力 憧れの職業について調べ、整 理してまとめよう	・自分の道を切り開いた筆者の体験 談から、仕事に対する思いを読み取 る。 ・自然や社会の中で生きる意味を考え ながら働く筆者の思いに触れ、働くとい うことについて考える。 ・コーチングにおける言葉の役割を踏 まえ、仕事と言葉の関わりについて考 える。 ・調べたことを整理して、考えたことを 分かりやすくまとめる。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。 ・山での草木染めの日々、そこに至るまでの 都会での暮らし、改めて感じる自然や環境 との関わりという文章構成を意識ながら 読んで、その効果を理解している。 ・筆者の実感が表れている描写に注意して 読み、動きを引き出す効果を考えて、説明し ている。	・筆者の理想と現実を読み取り、説明でき る。 ・自然と関わりながら働く筆者の姿を、これ までの経験や別の情報などと照らし合わせ て自分の考えを深め、根拠とともに説明で きる。 ・スポーツや芸術などにおける身体の動きを 取りあげ、経験したことがない人でもその動 きができるように言葉で伝えることができ る。	・職業について、仕事の苦勞や喜びの体験 談など見聞きしたことや調べたことをまと め、自分の理想の職場について、発表しよ うとしている。 ・筆者の体験談を踏まえて、自分のこれまで してきた努力についてまとめ、発表しようと している。 ・筆者の思いを踏まえたうえで、生活と自然 との持続可能な関わりについて深く考察 し、自分の考えを発表しようとしている。 ・本文の理解を踏まえて、働くことの意義や 仕事のやりがいについて考え、説明しようと している。
6 言葉と生活 2 発想を広げる方法を使って話 し合おう 新聞記事を読んで意見文を 書 こう	・発想を広げてアイディアを整理して まとめる。 ・記事の読み取りを踏まえ、根拠を明 確にして意見をまとめる。 ・問いを作って絞り込み、書くための 題材を見つける。	-	・発想を出し合い、改善点を考えるという目 的を踏まえて、問題点に対する共通理解を 図りながら、進行に合わせた話し合いをし ている。 ・意見文にふさわしい構成について理解し、 その特徴を説明できる。	-
7 世界とつながる 美しさの発見 りんごのほっぺ 人生という旅の豊かな人間関 係	・「美」という抽象的な題材について論 じた文章を読み、その展開を論理的 に捉え、筆者の価値観を理解する。 ・出来事の順序に着目しながら、戦時 下の人々の状況と、作品に一貫する 筆者の思いを読み取る。 ・助言をもとに推敲して、よりよい文章 に仕上げる。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。 ・日時を特定できる表現に注意しながら読 んで、文章構成を理解している。 ・タンザニアの道案内の具体例を読み取り、 日本との差異について理解している。	・各具体例に基づく「発見」と「美しさ」の相 違点や共通点を理解し、説明できる。 ・芥川龍之介のエピソードから二通りの「美 しさ」の捉え方について読み取り、説明でき る。 ・各意味段落の内容をキーワードを使って 図示・要約し、説明できる。 ・具体例から筆者の主張やタンザニアの 人々の価値観を読み取り、自分の体験や考 えと比較できる。	・筆者の主張を踏まえたうえで、「美しさ」を 知るために自分の考えを深め、論理的に説 明しようとしている。 ・本文の理解を踏まえて、戦争体験を語り 継ぐ意義について、自分の考えを深め、話 し合おうとしている。 ・普段の移動や旅行に際して自分はどのよ うな準備や下調べをしているか、話し合おう としている。
8 未来に目を向ける 天動説はなぜ「正しかった」 か？ 真の自立とは 資料を活用して発表しよう	・タイトルや具体例に注意して、科学に ついての筆者の考えを理解する。 ・「自立」の在り方について考察する文 章を読み、自分の考えを持ち、視野を 広げる。 ・発表の仕方や話の聞き方を工夫す る。	・本文で使用されている漢字について正し く読み書きができており、本文で使用されて いる以外の読み方や使われ方についても 理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限 らず、それ以外にも自分の分からない語句 を取り上げ、意味や使われ方について理解 している。 ・前後のつながりを意識しながら文章を読 み、その関連性を理解している。	・今までに見聞きした宇宙に関するニュース や文章などから一つを取り上げ、それがど のような内容でなぜ印象に残っているかを 説明できる。 ・現代社会における「できる」「できない」の 構造とその問題点を読み取り、説明できる。 ・第一段と第二段の関連を踏まえ、「生きて いく意味」と「自立」とのつながりを理解し、 説明できる。	・化学的な理論において、かつては正しいと されていたが今では誤りとされていること にはどのようなものがあるかを調べ、説明し ようとしている。 ・「自立」ということについて、現代社会にお ける課題にを踏まえて考え、説明しようと している。 ・「フォロワーシップ」について、自分の考 えをまとめ、説明しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準				
相生学院高等学校				
教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	言語文化	言文002-901	東京書籍	新編 言語文化
学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 視聴報告書 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
現代文編 1 随筆 生きる喜び さくらさくらさくら 心の自由 2 小説1 触れ合う心 とんかつ オレンジの実る中庭	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独自の桜に対する感性について理解を深める。 ・「旅」と「物語」の共通性について理解し、どのようなときに「心の自由」を感じるかを考える。 ・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。 ・場面や人物の設定における特徴を捉え、作中の「オレンジ」が持つ意味について考えよう。	・本文で使用されている漢字について正しく読み書きができており、本文で使用されている以外の読み方や使われ方についても理解している。 ・本文に登場する言葉の意味を理解している。 ・小説の読み方の基本である、登場人物の心情の描写や場面の把握の仕方を理解している。	・短歌三首の内容と詠まれた心情を理解し、その内容を説明できる。 ・筆者の桜への思いを整理し、その内容を説明できる。 ・「美しい」ということについての筆者の経験と分析から、自分のものの見方、感じ方、考え方を説明できる。 ・親子の境遇について読み取り、その内容を説明できる。	・筆者の桜への思いについて考え、発表や討論を通して自分の考えをさらに深めようとしている。 ・筆者の経験と分析について理解し、「美しい」ということについての考えをまとめ、自分の考えをさらに深めようとしている。
3 詩歌 命をうたう 柳あをめる 雪の深さを 冬が来た 少年の日 I was born	・詩や短歌、俳句に親しみ、深く読み味わう力を養う。	・短歌や俳句の作者について知識を深め、その内容を理解している。 ・詩に登場する言葉の意味や使われ方を理解し、さらに本詩で使用されている以外の別の意味や使われ方を理解している。	・それぞれの短歌について、情景や心情を読み取り、その内容を説明できる。 ・俳句の表現技法やその効果について理解し、その内容を説明できる。 ・歌詞にこめられたメッセージについて自分の考えをまとめ根拠をもって説明できる。	・短歌の特徴や表現効果を理解し、それぞれの歌に込められた情景や心情を読み取り、感想文を書こうとしている。 ・俳句の特徴や表現効果を理解し、それぞれの句に込められた情景や心情を読み取り、感想文を書こうとしている。 ・学んだことをもとに俳句を自作し、そこに込めた情景や心情を説明しようとしている。
4 小説2 葛藤する心 羅生門 5 小説3 現実の向こう側 夢十夜 デューク	・描かれている内容から主題を読み取り、小説を深く味わう。 ・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・多彩な小説を読んで、読書の幅を広げ、豊かな感性を養う。 ・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。 ・主人公の心情の変化を読み取り、細かい表現に注意して話の展開を捉える。	・本文で使用されている漢字について正しく読み書きができており、本文で使用されている以外の読み方や使われ方についても理解している。 ・本文に登場する言葉の意味を理解している。 ・小説の読み方の基本(登場人物や場面の把握、心情の変化への着目)を理解している。	・『羅生門』の第一段を読み、下人が抱いている悩みについて理解できる。 ・第二段を読み、下人の心理がどのように変化したかについて理解できる。 ・第三段を読み、老婆の話を受けて下人の心理や行動の変化について読み取ることができる。 ・『夢十夜』の「第六夜」の構成や展開を捉え、その内容を説明できる。 ・『デューク』の「少年」と過ごす「私」の様子や気持ちの変化を理解し、その内容を説明できる。	・下人の置かれた状況と彼のとった行動についてどう思うか文章にまとめ、発表や討論を通して自分の考えをさらに深めようとしている。 ・小説の展開についての自分の考えを文章にまとめようとしている。 ・不思議な夢について自分の体験をまとめ、伝えようとしている。
古文編 1 古文入門 古文の世界へ 古文に親しむ 児のそら寝 検非違使忠明 用光と白波 絵仏師良秀 2 随筆 日々の思い 徒然草 枕草子 3 詩歌 うたの心 折々のうた	・古文と現代文との違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解する。 ・説話の面白さを味わい、古文の世界に親しむ。 ・古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に捉える。 ・作品の内容を踏まえて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を捉えて、内容を解釈する。 特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	・本文中の古文重要語句や用法を理解し、さらに本文で使用されている以外の別の意味や使われ方を理解している。 ・歴史的仮名遣いのきまりについて理解し、さらに本文で使用されている以外の使われ方も理解している。 ・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の文学史上の位置や主な歌人について理解し、構成や内容、後世に与えた影響等の概要も理解している。 ・字余り、句切れについて理解している。	・現代語訳する際の注意点を理解し説明できる。 ・本文における作者の考えを読み取り、その内容を説明できる。 ・作者の処世観から、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 ・本文中での「うつくし」の語義について理解し、その内容を説明できる。 ・歌の内容から、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、それについて根拠をもって説明できる。	・好きな文章について、リズムや調子を意識しつつ正確に暗唱しようとしている。 ・「うつくしきもの」を参考にして、現代版「〇〇もの」を文章にまとめようとしている。 ・学んだことをもとに短歌を自作し、そこに込めた情景や心情を説明しようとしている。
4 物語 伊勢物語 平家物語 5 紀行 旅の心 奥の細道	・物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を味わう。 ・作品の内容を読み取り、作者の思いを捉える。 ・文章の構成や表現の特色を理解し、作品を読み深める。	・本文中の古文重要語句の意味や用法を理解し、さらに本文で使用されている以外の別の意味や使われ方まで理解している。 ・本文中の助動詞の意味や助詞の用法、音便の種類などの文法事項を理解し、さらに本文で使用されている以外の別の意味や使われ方を理解している。	・文法事項等を踏まえた上で、文脈や背景に沿った適切な現代語訳ができる。 ・作者が影響を受けた杜甫らについての知識を獲得し、その内容を説明できる。 ・本文中の三つの句が表す内容を読み取り、説明できる。	・二人の女の人物像について、本文の内容を基に文章にまとめるとともに、その内容を他者に説明しようとしている。 ・芭蕉の句の鑑賞を通じて栄枯盛衰について自分の考えをまとめ、発表しようとしている。
漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ 訓読の基本 故事成語-三編 2 漢詩 漢詩を味わう 絶句と律詩--七首 3 論語 論語のことば 論語-八章 4 史話 史話を楽しむ 史話-三編	・漢文の特色を知り、きまりを理解する。 ・格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。 ・漢詩を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。 ・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取る。 孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えを捉え、ものの見方や考え方を豊かにする。 ・話の展開に即して、内容を理解する力を身に付ける。 ・登場人物の生き方や考え方を読み取り、史話の面白さを味わう。	・中国の古典が日本に輸入され、訓読の仕組みが生まれた歴史について、理解している。 ・漢文の基本的な構造について理解している。 ・送り仮名の付け方および返り点の付け方について理解し、さらに教科書に示されている以外の熟語にも応用している。 ・白文・訓点・訓読・書き下し文についての知識を身につけている。 ・漢文の基本的な構造に慣れて的確な訓点を施し、さらに教科書に示されている以外の熟語にも応用している。 ・中国の漢詩が日本のさまざまな文学作品に影響を与えたことを理解している。	・熟語や格言の意味を理解するとともに、その内容を説明できる。 ・「獣見之皆走」となった理由を文脈から読み取り、根拠とともに説明できる。 ・孔子の学問観について、本文から読み取り、その内容を説明できる。 ・話の展開に即して内容を読み取りその内容を説明できる。	・「登竜門」という故事成語を使って、短文を作成しようとしている。 ・「五十歩百歩」という故事成語が現代の日本語ではどのように使われるのかを確認し、短文を作成しようとしている。 ・孔子の政治観について考え、それについて自分の考えを持ち、根拠をもって説明しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	論理国語a	論国 701	東京書籍	新編論理国語

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント	レポート 視聴報告書	レポート 行動観察 課題プリント
		・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解している。 ・「逆説」「例示」「根拠」を表す接続表現や、譲歩表現を用いて想定される反論に適切な反論を用意していることを整理し、それがもたらす表現の効果について理解している。 ・個々の段落の内容と段落相互の関係を理解している。	・「対話」と「おしゃべり」の違いについて、本文中にある対比的表現を整理して指摘することができる。 ・「他者不在の言語活動」とはどのようなことかを読み取り、説明することができる。 ・「ダイアログとしての対話行為」とはどのような行為であるかを本文の論旨をもとに読み取り、説明することができる。 ・筆者の考える「対話」の意義について読み取り、説明することができる。 ・筆者の主張する「学ぶこと」の「二段階」の内容について具体的に読み取り、説明することができる。	・「おしゃべり」と「対話」の違いについての筆者の主張を踏まえたうえで、自分のこれまでの日常生活におけるコミュニケーションの在り方を振り返ってまとめることができる。
1.広がる風景 ・「対話とは何か」 ・「世界をつくり替えるために」	評論を読んで、表現の特徴に注意して筆者の考えを読み取ることができる。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・写真とそれに関する文章をもとに、筆者が写真から受けた「衝撃」の内実について読み取り、説明することができる。 ・写真とそれに関する文章をもとに、「洋服たち」に対する二つの「視点」について説明することができる。 ・写真とそれに関する文章をもとに、筆者が「彼女たち」を身近な存在として感じた理由を読み取り、説明することができる。 ・「自然科学の方法」と「物語」の違いについて読み取り、筆者の意見を理解し、説明することができる。	・筆者の主張を踏まえ、戦時下の人々の日常やその時代の社会と自分との接点について、自分の考えをまとめることができる。
2.考える手がかり ・「少女たちの「ひろしま」」 ・「「ふしぎ」ということ」	文章の構成や内容を的確に捉えながら読んで、論じられている事柄について考えることができる。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・個々の段落の内容と段落相互の関係を理解している。	・「コンピューター」と「人間」の違いについて、関連する文章や資料を相互に比較・分析して、筆者の主張についての解釈を深め、説明することができる。 ・「ギャンプラーの誤謬」の例から、筆者の述べようとしていることを読み取り、説明することができる。	・筆者の学ぶことの意義についての主張を踏まえたうえで、「コンピューター」と「人間」の違いについて、自分の考えをまとめることができる。
3.人間と知性 ・「学ぶことと人間の知恵」 ・「ラップトップ抱えた「石器人」」	人間と知性を巡る複数の評論を読んで、自分の考えを深める。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。	・「思考」のために必要な「肺活量」とはどのようなものかを読み取り、説明することができる。 ・第一段でのシュルツの言う「安心」の意味とペパーミント パティの不安の内容を読み取り、説明することができる。 ・子供と老人にとっての、それぞれの「安心」とは何かについて、本文の内容を整理してまとめ、説明することができる。	・筆者の主張を踏まえて、「思考」における「本当にだいじなこと」について、比喩表現を理解したうえで、自分の考えをまとめることができる。
4.現実の中で ・「思考の肺活量」 ・「安心について」	表現に注意して評論を読み、提示された問題を的確に把握する。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。	・ハフェーカーの実験結果の資料と筆者の述べる「生態学における強さの概念」および「自然の摂理」との関係について理解し、説明することができる。 ・筆者が問題として提示した、仮定としての「〈弱肉強食論〉」に対する主張について、それを支える根拠が適切な表現や資料であるかを多角的に検討し、筆者の意図を推測し、説明することができる。 ・「アイデンティティ」に対する筆者の考えを、直後の平野啓一郎の議論を踏まえて理解し、説明することができる。 ・ストラザーンの述べる「ハーゲンの人々の人格」の捉え方について、「根拠」の接続表現を用いてまとめることで理解し、説明することができる。	・問いや根拠を提示しながら論を進めていく筆者の意図を推察し、この文章における「問い」と「主張」は何かを考えることができる。
5.ものの見方 ・「弱肉強食は自然の摂理か」 ・「複数の「わたし」」	学問的な見地から書かれた評論を読んで、ものの見方を広げる。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。	・「服」や「建築」と「ファッション」との関係に対する筆者の考えを読み取り、説明することができる。 ・「ふきよせ」という言葉で、筆者が何を表そうとしたのかを読み取り、説明することができる。	・働くよろこびについて、筆者の考えを踏まえたうえで自分の考えをまとめることができる。
6.働く喜び ・「はじめに「言葉」がある」 ・「楽に働くこと、楽しく働くこと」	さまざまな観点から書かれた働く人の文章を読んで、働くことについて考えを深める。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。		

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	論理国語b	論国 701	東京書籍	新編論理国語

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント	レポート 視聴報告書	レポート 行動観察 課題プリント
		・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「最初のペンギン」という言葉について、ペンギンの行動の意味と、人間の置かれた状況を重ね合わせて理解したうえで、この言葉が示すものを読み取り、説明することができる。 ・「質と量」における価値判断を、前提としている社会通念と比較しながら読み取り、筆者の述べる「豊かさの捉え方」を理解し、説明することができる。	・「生物多様性」の重要性と課題について、筆者の主張を踏まえたうえで、自分で収集した資料から読み取って考えたことについてまとめることができる。
1.時代をひらく ・「最初のペンギン」 ・「豊かさと生物多様性」	論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を的確に捉える。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「語り部の男性」の沈黙の意味と「語り」の特質について、筆者の考えを読み取り、説明することができる。 ・「語り部の女性」の様子をまとめ、筆者の考える「語り」の意義と使命を読み取り、説明することができる。 ・「カフェの開店準備」という行為の意味と、その行為と目的 の関係の構造についての筆者の考えを整理して指摘し、説明することができる。	・具体的な体験から導き出されている普遍的な構造を的確に捉え、自分の考えをまとめることができる。
2.新しい視点から ・「物語の外から」 ・「カフェの開店準備」	体験に基づく文章を読み、表現に注意して筆者の考えを捉える。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「人間」と「アンドロイド」との対比を通して、人間が求める「鏡」についての筆者の考えを読み取りまとめ、根拠とともに説明することができる。 ・AI が、ロボットが「自由意志」を持つということを支持する積極的な根拠たりえないとする筆者の考えを読み取り、説明することができる。	・筆者が考えるような「ロボット」の存在について、本文の論証を踏まえたうえで、自分の考えを具体的にまとめることができる。
3.科学と人間 ・「鏡としてのアンドロイド」 ・「ロボットが隣人になるとき」	科学や哲学の見地から書かれた評論を読んで、人間について考えを深める。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「ギリシャ以来の伝統的な言語観」と「ソシュール」の言語観のそれぞれについての筆者の考えを、具体例やたとえをもとに理解し、根拠をもって説明することができる。 ・日本語と英語の場合の具体例から、筆者の述べる「意味の幅」について理解し説明している。 ・「見るということ」と観察者の背景知識の関連性を読み取り、説明することができる。	・科学的『発見』とは」どのようなものかを、事例との関係性から読み取り、自分の考えをまとめることができる。
4.豊かな認識 ・「言葉は「ものの名前」ではない」 ・「科学的「発見」とは」	対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「ネット情報」と「本」の質的な違いについて、「情報」と「知識」の違いや具体例を踏まえて読み取り、説明することができる。 ・「知識の構造」について、「ネット検索」との比較を読み取って理解し、説明することができる。 ・「情報化社会」における「知性」と、筆者の述べる「知性」との違いを、その比較において理解し、説明することができる。	・筆者の主張を踏まえ、今後どのようにインターネット上の情報に向き合い、捉え、活用していくべきかについて、自分の考えをまとめることができる。
5.知のゆくえ ・「知識における作者性と構造的性」 ・「もう一つの知性」	対比に注意して評論を読み、筆者の主張を的確に捉える。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「ニセガネ」の本質について、偽造法の説明を踏まえて理解し、説明することができる。 ・貨幣の歴史の概略を読み取り、筆者の述べる「ホンモノの形而上学」について理解し、説明することができる。 ・「未来」が「現在時の中」にのみ存在するという筆者の主張について、具体例を踏まえて読み取り、説明することができる。 ・「未来のリアリティ」を構成する三つの要素を整理して指摘し、それが社会における「未来」という言葉の意味であることを理解し、説明することができる。	・「未来」についての筆者の考えを踏まえ、「未来」を生みだす社会意識やその前提となる自分の意志や営みの在り方について、考えをまとめることができる。
6.明日をみつめて ・「ホンモノのおカネの作り方」 ・「未来のありか」	具体例と抽象的な説明に着目して、評論の内容を的確に読み取る。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、使われ方についても理解している。 ・文章の構成や表現、接続の仕方を理解し、効果的な組み立て方を説明することができる。	・「ニセガネ」の本質について、偽造法の説明を踏まえて理解し、説明することができる。 ・貨幣の歴史の概略を読み取り、筆者の述べる「ホンモノの形而上学」について理解し、説明することができる。 ・「未来」が「現在時の中」にのみ存在するという筆者の主張について、具体例を踏まえて読み取り、説明することができる。 ・「未来のリアリティ」を構成する三つの要素を整理して指摘し、それが社会における「未来」という言葉の意味であることを理解し、説明することができる。	・「未来」についての筆者の考えを踏まえ、「未来」を生みだす社会意識やその前提となる自分の意志や営みの在り方について、考えをまとめることができる。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	文学国語a	文国701	東京書籍	文学国語

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 視聴報告書 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
1 随筆 光の窓 雨月物語 2 小説1 山月記	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・筆者の考え方の変化を捉え、『雨月物語』が筆者にどのような影響を与えたかを考える。 ・小説に描かれた世界を味わい、そこに表された人間の在り方について考えを深める ・登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	・本文の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。 ・筆者の幼少期の生活環境や外国の絵画作品との出会い方を理解している。 ・筆者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。	・筆者の、言葉と感覚との関係の捉え方を理解し、自分の好きな絵の魅力と自分自身の感覚を関連づけて考えを深め、その内容を説明することができる。 ・子供の頃の筆者が『雨月物語』を読み、何を考え、何を感じたかを読み取り、根拠とともに説明することができる。 ・語り手の変化を踏まえて場面分けをして全体の構成を把握し、その内容を説明することができる。 ・李徴の心情の変化を読み取り、根拠とともに説明することができる。	・自分の好きな絵の魅力と自分自身の感覚を関連づけて考えをまとめ、発表を通して更に考えを深めようとしている。 ・『雨月物語』が筆者に与えた影響を理解し、「物語」に対する自分の考えをまとめ、説明しようとしている。 ・李徴の生き方についての自分の考えをまとめ、話し合いを通して自分の考えを更に深めようとしている。
2 小説1 窓 【言語活動】小説を創作する 文学への扉1 変身ということ 3 評論1 言葉を生きる 詩と感情生活 【言語活動】書評を書く	・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・評論に述べられた内容を的確に理解し、「言葉」の意義と特質について考える。 ・筆者の考えを表現して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・柳宗悦と「妹の死」の内容、書かれた背景について理解し、説明している。	・本文で使用されている漢字について正しく読み書きができており、本文で使用されている以外の読み方や使われ方についても理解している。 ・本文の語句について、指示されたものに限らず、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方について理解している。 ・接続詞や指示語に注意し、前後のつながりを意識しながら読みその関連性を理解している。	・「短編小説」が何を象徴しているかについて自分の考えをもち、根拠とともにその内容を説明することができる。 ・「言葉と交わる」という筆者の考えを読み取り、根拠とともに説明することができる。 ・筆者が、「悲しみの経験」をどのように考えているかを読み取り、根拠とともに説明することができる。 ・筆者は「詩の言葉」と「物事を指示する言葉」をどのようなものだ捉えているか読み取り、根拠とともに説明することができる。	・自分自身の記憶の風景を思い出して文章を書き、発表を通して更に考えを深めようとしている。 ・「生きること」と「言葉」の関係について、自分の考えをまとめ、発表を通して更に考えを深めようとしている。 ・筆者の主張を踏まえて、詩の特質について、自分の考えを深め、説明しようとしている。
4 小説2 山椒魚 沖縄の手記から 文学への扉2 小説は誰のものか	・小説を読み、そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から、生きることへの考えを深める。 ・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。	・作品が書かれた時代背景を理解し、その内容を説明している。 ・作品に込められた寓意を捉えることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解し、根拠をもって説明している。 ・作品の時代背景や当時の沖縄の状況を理解し、その内容を説明している。	・山椒魚と蛙の関係の変化から、蛙が山椒魚に与えた影響を読み取り、根拠とともに説明している。 ・小説に込められた寓意を考察し、自分自身の生き方や考え方に触れながら、解釈し、説明している。 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を理解し、人間の生死について自分の考えをまとめ、説明している。	・小説に込められた寓意について感じたことを、自分自身の生き方や考え方に触れながらまとめ、考察を深めようとしている。 ・登場人物の生き方や考え方から、人間の生死について自分の考えをまとめ、考察を深めようとしている。
5 詩歌 鉢 竹 永訣の朝 参考 宮澤賢治 硝子の駒－短歌抄 モードの変遷 【言語活動】共同で詩を創作する	・詩や短歌と、短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。	・詩の語句について、指示された言葉の意味と働きを理解し、それ以外にも自分の分からない語句を取り上げ、意味や使われ方についても理解している。 ・本文で例示されている短歌の表現の特質と時代の変化の関わりを理解している。	・作者の視点や表現の特色を理解したうえで、共感できる点をまとめ、根拠とともに説明することができる。 ・筆者が「近代および戦後の二大モード」をどのようなものだと考えているかを読み取り、根拠とともに説明することができる。	・作品に共感できる点をまとめ、話し合いを通して更に考えを深めようとしている。 ・最も印象に残った歌について、どのような点にひかれたかを文章にまとめ、歌の表現や解釈についての理解を深めようとしている。
6 小説3 ころ 文学への扉3 櫛という道具	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 ・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。 ・調べたことを整理して、考えたことを分かりやすくまとめる。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解している。 ・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・Kが自殺した理由・原因について、本文から自分の考えをまとめ、根拠をもって説明することができる。 ・「私」についての表現から、そのときの「私」の心理状態を読み取り、説明することができる。 ・Kの言葉から、そのときの心理状態を読み取り、説明することができる。	・「私」とKが散歩する場面の描写から読み取れることについて、自分の考えをまとめ、話し合いを通して更に考えを深めようとしている。
7 評論2 文学のふるさと 文学の未来 【言語活動】評論や解説を参考に論述する	・詩や短歌と、短歌に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・「文学のふるさと」についての筆者の主張から、文学のよりどころについて理解している。	・具体例と筆者の考えとの関係を読み取ることができる。 ・「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』について、それぞれ筆者が着目している点を読み取ることができる。 ・現在の読者が文学作品を読むことの固有の意義について筆者の考えを読み取ることができる。	・筆者が「文学のふるさと」をどのようなものだと考えているか、本文に即して筆者の主張をまとめようとしている。 ・筆者の考える文学の意義を理解し、文学作品を読むことと、読者の関係について考えを深めようとしている。
8 小説4 鞆 参考 安部公房 あの朝 【言語活動】翻案作品を創作する	・物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。 ・寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・場面ごとの設定を押さえて、その転換に伴う登場人物の状況や心情の変化を読み取る。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・作品に込められた寓意を捉えることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。 ・登場人物の状況や心情の変化から、作品の背景を理解している。	・鞆を持って歩く「私」の心情について、読み取ることができる。 ・鞆が象徴するものを手がかりに、作品の主題について考えを深めることができる。 ・場面設定とその転換に伴う、市子の状況や心情の変化の描写の効果について読み取ることが出来る。	・作者がこの作品で何を描きたかったのかを読み取ったうえで、内容紹介文を書こうとしている。 ・市子の場合と比較しながら、自分の「なくすことで好きになったあれこれ」について考えをまとめ、話し合おうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	文学国語b	文国701	東京書籍	文学国語

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 視聴報告書 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
1 随筆1 国語から旅立って 書かれた風景の中へ 2 小説1 檸檬	・随筆を読んで筆者の経験や思いを捉え、言葉と自分との関わりについて考える。 ・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・筆者の読書体験に基づく随筆を読み、言葉と自分の関係について考えを深める。 ・小説における場面の描写を表現に即して捉え、そこに描かれた世界について考える。 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・筆者の読書体験から日本語の特質を理解している。 ・日本語について述べられた二つの随筆から日本語の特質を理解している。 ・作者の経歴や当時の時代背景を認識したうえで、作品への理解を深めている。 ・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・筆者が、自分と日本語との関係が始まったと考える出来事を読み取ることができる。 ・筆者が、自分にとって「日本語を読む」ことがどのように始まったと考えているか読み取ることができる。 ・檸檬を買ってからの「私」の心情を読み取っている。 ・檸檬の存在が、丸善に入る前と後ではどのように変化したか読み取ることができる。	・言葉と自分との関係について考えをまとめようとしている。 ・日本語について述べられた二つの随筆を比べ、日本語の特質について考えをまとめ、話し合おうとしている。 ・当時の「私」をひきつけ慰めたものと、抑えつけ憂鬱にさせたものが、それぞれ「私」にとってどのようなものとして描かれているかをまとめ、話し合おうとしている。
2 小説1 コンビニの母 【言語活動】小説の人称を書き換える 3 詩歌 夏の姿 帰途 小諸なる古城のほとり 金剛の露－俳句抄 平気－正岡子規 【言語活動】アンソロジーを作る	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・詩や俳句と、俳句に関する評論を読み、詩歌の表現の特色を理解して味わう。 ・韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・作品の時代背景や人間関係の在り方を理解している。 ・詩の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・詩の鑑賞を通して、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める意義を理解している。 ・俳句の解釈から人物像の捉え方に違いが生まれることを理解している。	・福平さんがコンビニで働き続けることに対して、和也がどのように考えていたか読み取ることができる。 ・「都会がそれほど単層的に成り立っていない」とは、どのようなことか読み取ることができる。 ・比喻を含む特徴的な表現の意味を理解し、詩の内容を読み取ることができる ・「夏の姿」という題名に込められた作者の思いを捉えることができる。 ・筆者が正岡子規をどのように捉えているか読み取ることができる。	・現代社会における人間関係について考えをまとめ、話し合おうとしている。 ・象徴的な表現が示している内容を理解したうえで、描かれた情景や作者の心情を読み取り、まとめようとしている。 ・作品に表現されている作者の心情について、考えをまとめようとしている。
4 随筆2 空っぽの瓶 クレールという女 5 戯曲 父と暮らせば 【言語活動】小説を脚本に書き換える	・随筆を読んで優れた表現や叙述の仕方を理解し、感性や心情を豊かにする。 ・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・長い時間を書けて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・戯曲によって描かれた世界を捉え、言語表現の多様な在り方と可能性について考える。 ・対話を軸にした構成に注意しながら戯曲を読み、原爆の惨禍と人間の幸福について考える。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・人称を巡る筆者の体験や考えから、日本語の特質を理解している。 ・筆者の読書体験から、作品を読んだ時代の特徴と受け止め方の関連を理解している。 ・戯曲の特質を理解している。 ・筆者の読書体験から、作品を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・筆者が、子供の頃に日本語の一人称を使わないようにしていた理由を読み取っている。 ・「ぼく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取っている。 ・四十年たって、筆者が『人間のしるし』から何を感じているか読み取っている。 ・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方についての自分のものの見方や感じ方、考え方を深めている。 ・登場人物の経験や心情を理解し、「平和」や「生きること」について自分の考えを深めている。	・人称についての筆者の体験や考えを理解することを通して、言葉と存在の関わりについて自分の考えをまとめようとしている。 ・筆者の読書体験を踏まえて、人間の生き方について、自分の考えをまとめようとしている。 ・この戯曲を読んで、「平和」や「生きること」について感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。
6 小説2 舞姫	・文語文で書かれた小説を読み、そこに描かれた内容を理解し、人間の生き方について考えを深める。 ・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。	・作品の時代背景や当時の作者の状況を理解している。 ・文語体で書かれた作品の特徴を理解している。 ・登場人物の考え方や生き方を読み取ることを通して、自分のものの見方や感じ方、考え方を深める意義について理解している。	・回想記形式であることを踏まえ、本文全体の大まかな場面展開を捉えている。 ・回想部分のそれぞれの内容と登場人物の心情を読み取ることができる。 ・豊太郎の葛藤を読み取り、時代背景も踏まえたうえで小説の内容を解釈し、人生の選択について考えを深めることができる。	・明治という時代背景を踏まえ、豊太郎の考えや行動について自分の考えをまとめ、話し合おうとしている。
7 評論 演技する「私」 映画の可能性のために 【言語活動】映画と原作を比較する	・評論に示された筆者の論を精査し、芸術作品のありようについて考える。 ・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・映画と小説を題材にした評論を読み、作品を成立させる視点のありようについて理解を深める。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・筆者の主張から、小説における作者と小説内の「私」についての関係について理解している。 ・映画と小説についての筆者の考えから、作品を成立させる視点のありようについて理解している。	・筆者が、どのような「発想」からどのような「発想」へ「転換」することを述べているか読み取ることができる。 ・「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係を考え、作者の意図を捉えることができる。 ・なぜ「切り返し(構図、逆構図)は禁じられる」のかを読み取ることができる。 ・筆者の述べる「私の無意識の選択」とはどのようなものか読み取ることができる。	・これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説の、「私」と「作者その人」の関係について改めて考え、文章にまとめようとしている。 ・映画と原作を比較、分析することを通して、それぞれの表現形式を理解し、批評文を書くようとしている。
8 小説3 葉桜と魔笛 蠅 【言語活動】さまざまな資料を調べて発表する	・多様な表現方法を用いて書かれた小説を読み、それぞれの作品世界を味わう。 ・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。	・本文の語句のうち、指示された言葉の意味と働きを理解している。 ・作者や作者の他の作品、作品の時代背景を理解している。	・本文を話の展開に沿って場面分けし、それぞれの内容を要約できる。 ・語り手である老夫人に関わる主要な出来事を、「私」の年齢を軸として年代順に整理できる。 ・『蠅』本文中の「馮者」「農婦」「若者と娘」「母親と男の子」「田舎紳士」の、それぞれの境遇や気持ちを読み取ることができる。	・『葉桜と魔笛』において、時間の流れはどのような役割を果たしているか、考えをまとめ、話し合おうとしている。 ・作品の主題について複数の観点から考え、話し合おうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	古典探究α	古探701	東京書籍	新編古典探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 視聴報告 スクリーニング授業及び課題プリント 単位認定試験
古文編Ⅰ部 1 説話に親しむ 2 随筆を読む 3 作り物語を読む	説話・随筆を読み、自然や人間に対する古人の感性を理解する。 竹取物語を読み、言葉の変遷という観点からも、古語と現代語を比較し国語の特質について理解することができる。	・語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を習得している。 ・文章の種類・特徴について理解している。 ・文の成分の順序、構成や展開の仕方について理解している。 ・古文特有の言葉の響きやリズムなどの特色について理解している。 ・文語のきまりについて知識を深めている。	・文章の構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、表現の特色について評価できる。 ・内容について、自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めている。	進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って説話を正確に読み取ろうとする。
5 日記を読む 7 近世文学の世界	土佐、更級など日記文学や、世間胸算用という近世文学の特色を理解し、その時々に応じた人々のものの見方や感じ方、考え方についての理解を深める。 近世では、文法体系が大きく変化することを理解させる。	・古文を読むために必要な語彙量を増加させ語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解している。 ・古文の成分、日記文学特有の展開の仕方について理解している。 ・古典の作品や文章に表れている、修辞などの表現の特色について理解している。 ・文語のきまりや訓読のきまりを理解している。	・文章の種類を踏まえ、構成や展開などを的確に捉えることができる。 ・古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら、内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。	進んで各章段の構成や展開、内容を的確に捉え、学習課題に沿って作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
漢文編Ⅰ部 1 故事と小話 2 唐詩と文 3 史記を読む 4 中国の知恵	漢文の基礎を学び、話の展開や内容を把握する。 登場人物の考え方を理解し、人の生き方について考えることができる。 詩から、情景や作者の心情を理解し、感じ方が豊かになる。 時代の状況を踏まえ、古代中国の思想を知り、内容を的確に理解できる。	・漢文の語句の意味用法を理解し、漢文訓読にに必要な語句を覚えることで語彙力を身につけている。 ・漢文の種類と特徴について理解している。 ・我が国と中国の文化の相違を理解している。 ・漢文を読むために必要な句形を覚えている。	・漢文の文章の種類を踏まえ、内容を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価する。	進んで漢文の読み方を確認し、学習課題に沿って、故事成語の成り立ちとその意義や、漢文の受容について考えようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
国語	古典探究b	古探701	東京書籍	新編古典探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 視聴報告 スクリーニング授業及び課題プリント 単位認定試験
古文編Ⅱ部 1 随筆を味わう 2 歌物語を楽しむ	枕草子や歌物語を読む。 季節の推移の中で、様々な事象に対する古人の感性をより深く理解する。 言葉の変遷、特に文法体系の変化から古語と現代語を比較し、理解することができる。	・語彙を豊かにし、作品の特徴を理解している。 ・古文の展開の仕方を理解している。 ・我が国の文化の特質と、外国文化との関係について理解している。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。	・「読むこと」において、作品や文章などに表れているものの見方や感じ方、考え方を基本と考えることができる。 ・人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・進んで随筆を読み比べ、学習課題に沿って作者の考え方の違いについて考察しようとしている。 ・積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。
3 歴史物語を読む 5 物語を味わう 7 伝承の世界	鏡もののや、物語として完成された源氏物語、また上代文学の特色を理解する。 古代歌謡の文章を通じて、当時の人々のものの見方について探求させ理解することができる。	・つくり・歌・歴史ものなど、それぞれの徴について理解している。 ・我が国の文化の特質と中国の文化との関係について理解している。 ・時代による言葉の変化と、現代の言葉の成立にもたらした影響を理解している。 ・先人のものの見方を知り、自分の感じ方・考え方を豊かにする読書の意義効用について理解している。	・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することができる。 ・我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・積極的に歴史物語の人物関係や時代背景について調べようとしている。 ・今までの学習を生かして登場人物の心情や人物像についての理解を深めようとしている。 ・進んで絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に沿って内容についての理解を深めようとしている。
漢文編Ⅱ部 1 小話を読む 2 古詩を味わう 3 中国の思想 4 日本の漢詩文	小話や古体詩などをすすんで読む。 道家思想、日本の漢詩文を読み、社会、自然に対する思想を捉えることができる。 人の感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 我が国の文化と中国の文化との関係について理解できる。	・文の種類・特徴を理解している。 ・文の成分の順序等、その構成や展開の仕方について理解している。 ・時代の変化と言葉の変化、故事成語など、現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。 ・日本の漢詩文にみる先人のものの見方・考え方を理解し、自分自信を豊かにする読書の意義と効用について理解している。	・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら漢文を読み、解釈を深め、作品の価値について考察できる。 ・関心をもった事柄に関連する様々な漢文の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。 ・多面的・多角的な視点から評価することを通し、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めることができる。	・今までの学習を生かし、登場人物の行動や心情を読み取り、人間の生き方について考えようとする。 ・日本人が作った詩を積極的に読み味わい、今までの学習を生かして言語感覚や想像力を豊かにしようとする。 ・漢詩の形式ときまりを理解し、今までの学習を生かし漢詩を復元しようとする。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地歴	地理総合	地総901	東京書籍(株)	地理総合

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 私たちが暮らす世界 2節 地図や地理情報システムの役割	私たちが暮らす世界の特徴を捉えさせるとともに、地図や地理情報システム(GIS)の役割を理解させ、地理的な見方・考え方を身に付けさせる。	・世界地図や地球儀での表現方法、および日本の位置や領域の基本を理解し知識を習得する。 ・地図や統計などの諸資料から有用な情報を選択し、読み取りや図表へのまとめを行う。 ・地図に関する基本的な事柄を正しく理解し、その知識を身に付ける。 ・地図や画像などの諸資料を収集し、情報を選択して適切に図表などにまとめる。	・緯度・経度や世界地図、地球儀、領域の特徴をふまえ、地球上の位置に関する事柄を多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・様々な地図の縮尺、媒体、用途に着目して適切に整理し、統計数値を通した主題図で表現する。 ・地理情報システム(GIS)を適切に操作し、計測結果や主題図を表示して活用する。	・地球上の位置に関連する事象に対して、関心や課題意識を持ち、自ら意欲的に調べようとしている。 ・紙の地図や地理情報システム(GIS)に触れ、閲覧や作業を通じて、それぞれのツールの特徴を理解しようとしている。
第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第2章 資料から読み取る現代世界 第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解	地図や各種資料を活用して現代世界の特徴を読み取らせるとともに、生活文化の多様性を理解させ、国際理解の基礎を身に付けさせる。	・交通・通信技術の発展と国境を越えた結び付きについて、基本的事項を理解し知識を習得する。 ・交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴について、図表から理解を深める。 ・国境を越えた人・モノ・情報の移動を、諸資料を収集・選択して図表などにまとめられる。 ・文化の地域的な多様性について、その基本的事項を正しく理解し知識を身に付ける。 ・日本国内における文化的な差異や地域的傾向を、地図の読解を通じて正しく理解する。	・交通・情報通信による国境を越えた結び付きを、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・貿易や観光における国境を越えたモノや人の動きを、多面的・多角的に考察し表現する。 ・グローバル化による地域経済圏や国家群の形成を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・文化の地域的な多様性が生じる理由について、多面的・多角的に考察しその結果を表現する。	・交通・通信の発達による社会の変化や諸問題に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。 ・現代世界における国家間の結び付きの強まりに注目し、課題意識を持って意欲的に追究する。 ・文化の均一化や変容に関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究しとらえようとする。
第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 2節 生活文化と自然環境①地形 3節 生活文化と自然環境②気候	地形や気候といった自然環境が人々の生活文化に与える影響を理解させ、地域ごとの特色を地理的な視点から捉えさせる。	・山地に暮らす人々の生活について、写真や図表から基本的事項を理解し知識を習得する。 ・平地における多様な地形の特徴や土地利用を、諸資料の読み取りを通じて正しく理解する。 ・さまざまな海岸地形の特徴と人々の利用について、図表などから基本的事項を理解する。 ・地球上の気候の違いとそれによる景観を、グラフや地図から読み取り知識を身に付ける。 ・熱帯とその各気候区の特徴について、雨温図や写真などの資料を用いて正しく理解する。 ・乾燥帯とその各気候区の気候特性について、諸資料の読み取りを通じて知識を習得する。 ・温帯とその各気候区の気候の特徴を、雨温図や写真などの資料から基本的事項を理解する。 ・亜寒帯・寒帯の各気候区の特徴について、諸資料を活用して基本的事項を正しく理解する。	・山地での生活の工夫や独自の文化を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・平地の地形における生活や産業の工夫を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・海岸地形に応じた生活や産業の工夫を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・気温や降水量の違いが生じるメカニズムを、大気の流れなどの要因から多角的に考察する。 ・熱帯の植生・土壌や各気候区の違いを、多面的・多角的に考察しその結果を表現する。 ・乾燥帯の植生・土壌や各気候区の違いを、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・温帯の植生・土壌や各気候区の違いを、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・亜寒帯・寒帯の植生や気候の違いを、多面的・多角的に考察しその過程を表現する。	・山地における伝統的な資源利用や文化の形成に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。 ・平地の地形における利用の変化や重要性に注目し、課題意識を持って意欲的に追究する。 ・自然的・人為的な海岸の変化や改変に関心を持ち、それらを意欲的にとらえようとする。 ・気温や降水量の違いが地域や生活に与える影響に注目し、意欲的に追究しようとする。 ・熱帯における人々の生活工夫や気候に対応した農業に関心を持ち、意欲的に追究する。 ・乾燥帯での生活工夫や水資源の確保に課題意識を高め、それらを意欲的に追究する。 ・温帯の気候や植生・土壌の特徴と農業の関係に注目し、意欲的にとらえようとする。 ・亜寒帯・寒帯における生活や産業の工夫に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。
第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 4節 生活文化と社会環境①産業 5節 生活文化と社会環境②宗教・民族 第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	産業や宗教・民族などの社会環境が生活文化に与える影響を理解させるとともに、地球環境問題や資源・エネルギー問題を捉え、国際協力の必要性について考えさせる。	・各地域の農業生産や食文化のグローバル化を、写真や地図から理解し知識を習得する。 ・工業生産や工場の様子、商業地域や店舗の変容を、諸資料から正しく読み取り理解する。 ・情報産業が集積する地域の発展や通信技術について、図表を用いて基本事項を理解する。 ・世界の多様な宗教や生活習慣、分布と信者数について、地図や図表から知識を身に付ける。 ・大気や海洋に関わる環境問題の基本を理解し、地図や統計から有用な情報を選択し整理する。 ・地球温暖化や海洋プラスチック汚染の現状について、諸資料を収集・活用してまとめる。 ・森林減少や砂漠化の状況とメカニズムを理解し、図表などの資料を用いて課題を整理する。 ・世界の資源・エネルギーを巡る南北格差や枯渇の危機を理解し、知識として身に付ける。 ・化石燃料や再生可能エネルギーの現状を、地図や統計などの諸資料を収集して読み取る。	・農業形態の違いや食文化との関連性を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・工業の発展や立地、生活の変化を、多面的・多角的に考察しその結果を表現する。 ・消費行動と店舗立地の関係を、地域の視点から多面的・多角的に考察し表現する。 ・情報通信技術による産業や社会の変容を、多面的・多角的に考察し適切に表現する。 ・宗教による生活規範の違いを、地域の背景から多面的・多角的に考察し表現する。 ・地球環境問題を、歴史的背景や国際社会の変化を踏まえ多角的に考察し表現する。 ・森林減少や砂漠化を、地域性や日常生活との関連から多角的に考察し表現する。 ・資源・エネルギー問題を、国際社会の動向を踏まえ多面的・多角的に考察し表現する。 ・エネルギー資源の分布と影響を、地域性や歴史の観点から多角的に考察し表現する。	・農業の多様性や変化に関心を持ち、グローバル化の影響を意欲的に追究しようとする。 ・国や地域による経済発展や工業化の違いに注目し、国際分業の進展を意欲的に追究する。 ・情報通信技術の発達による商業や消費行動の変化に関心を持ち、意欲的にとらえようとする。 ・情報化による生活の変化や国境を越えて生じる課題に対し、意欲的に追究し理解しようとする。 ・宗教の役割や他者への理解・尊重の必要性に関心を持ち、課題意識を持って追究する。 ・多様な要因が絡む地球環境問題に注目し、解決に向けた意欲を持って追究しようとする。 ・世界各地で起きている森林減少や砂漠化に関心を高め、その実態を意欲的に追究しようとする。 ・枯渇の危機に直面する世界の資源・エネルギー問題に課題意識を持ち、意欲的に追究する。 ・エネルギー資源の生産と消費のあり方に関心を持ち、解決に向けて意欲的に追究しようとする。
第2編 国際理解と国際協力 第2章 さまざまな地球的課題と国際協力 3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題 6節 民族問題・紛争と平和の構築 7節 持続可能な社会の実現をめざして	人口・食料・都市・民族問題などの地球的課題を理解させるとともに、それらの解決に向けた取り組みや持続可能な社会の実現について主体的に考えさせる。	人口分布や発展途上国の急増要因を把握し、統計資料からその特徴を多角的に分析する。 少子高齢化の要因や社会への影響を理解し、地図や統計から地域差を読み取りまとめる。 食料供給の偏りを理解し、不足や食生活の変化等の課題を諸資料から選択し考察する。 都市化に伴うスラム形成やインフラ問題を理解し、その発生仕組みを図表にまとめる。 先進国の都市内部で生じる諸問題を理解し、社会状況に応じた解決策を資料から探究する。 民族紛争や難民の現状と背景を理解し、地図や画像を用いて深刻さと要因を分析する。 環境・資源問題と国際協力を理解し、多様な情報を選択して現状や取り組みを整理する。	・世界の人口問題を、歴史的背景や国際社会の変化を踏まえて多角的に考察し表現する。 ・先進国の少子高齢化を、地域性や日常生活との関連から多面的に考察し適切に表現する。 ・食料需給の不安定さを、歴史や地域的背景から多角的に考察しその結果を表現する。 ・発展途上国の都市問題を、社会の変化や地域的な要因から多面的に考察し表現する。 ・先進国の居住・都市問題を、都市内部の構造に着目して多面的に考察し適切に表現する。 ・民族・難民問題を、国際情勢や歴史的背景をふまえて多角的に考察し適切に表現する。 ・地球規模の課題と国際協力を、地域性や歴史の観点から多面的に考察し表現する。	・世界の人口問題に関心を持ち、解決に向けた課題意識を持って意欲的に追究する。 ・先進国が抱える人口問題に注目し、解決に向けて意欲的に追究し理解しようとする。 ・飽食と飢餓が混在する食料問題に関心を高め、課題を意欲的にとらえようとする。 ・多様化する世界の都市問題に関心を持ち、その実態を意欲的に追究しようとする。 ・日本を含む先進国の居住・都市問題に課題意識を持ち、意欲的に追究し把握する。 ・地球規模の民族・難民問題に関心を高め、解決への意欲を持って追究しようとする。 ・地球的課題の解決や国際協力のあり方に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。
第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色 2節 さまざまな自然災害と防災 第2章 生活圏の調査と地域の展望	日本の自然環境の特色や自然災害と防災について理解させるとともに、生活圏の調査を通して地域の課題や将来の展望を主体的に考えさせる。	・日本列島の自然環境と自然災害の基本事項や追究方法を理解し、知識を習得する。 ・多発する自然災害とその克服に関する基本を理解し、確かな知識を身に付けている。 ・地図や統計などの諸資料から有用な情報を選択し、読解や図表への整理ができる。 ・地域調査を行う際の具体的な手順や、実施上の注意点について正しく理解している。 ・多様な資料を適切に収集・活用し、情報を取捨選択して体系的にまとめる力を備えている。	・地形・気候と自然災害を、地域性や生活との関連から多角的に考察し表現する。 ・各地の自然災害と防災を、生活との関わりから多面的に考察し適切に表現する。 ・身近な地域の特徴をテーマに沿ってとらえ、明らかにした内容を表現する。	・日本の自然環境と増大する自然災害に関心を持ち、意欲的に追究しようとする。 ・日本列島の自然災害と防災に課題意識を高め、それらを意欲的にとらえようとする。 ・身近な地域の特徴を明らかにするため、意欲的に地域調査に取り組もうとする。

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	地理探究a	地探701	東京書籍	地理探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 第1節 世界の地形 第2節 気候と自然環境	人間の生活の基盤である地形の重要性について認識するとともに、それを空間的規模と形成要因、人間生活との関係に着目しながら理解させる。 地球規模でみられる気温と降水量の分布の特徴とそれが生じる原因について認識するとともに、気候の特徴と植生、土壌との関係について理解させる。	・景观写真や模式図の読み取りを通して、変動帯に見られる小地形の一つである河川がつくるさまざまな地形の特徴について理解できる。 ・景观写真や模式図の読み取りを通して、さまざまな海岸地形、サンゴ礁地形の特徴について理解できる。	・大地形の分布の特徴について、プレート境界や地震帯・火山帯分布との関わりから考察するとともに、人間生活との関係について表現できる。 ・さまざまな海岸地形、サンゴ礁地形の形成過程について考察し、その特徴を踏まえながら、人間生活との関係について表現できる。 ・海洋と陸水における水の循環が、気温分布や水資源の維持に影響を与えていることについて多面的・多角的に考察できる。 ・世界規模での各気候帯の分布の特徴、各気候帯と植生・土壌との対応関係について多面的・多角的に考察している。	・地図記号について、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
第3節 気候と人々の生活 第4節 日本の自然環境と自然災害	気候区の特徴となる気温と降水量の地域ごとの違いについて、自然環境の特徴を踏まえて認識し、生活との関係について理解させる。 日本の自然環境について地形と気候の視点から理解し、防災・減災へ向けた取り組みについて模索させる。	・気候区の特徴となる気温と降水量の地域ごとの違いについて、各々の気候区の自然環境の特徴を踏まえて認識するとともに、人間生活との関係について理解できる。 ・各気候区の種類基準への理解を前提に、雨温図やハイサーグラフの作成・読み取りを通じて各気候区について理解できる。 ・日本の自然環境の特徴について地形と気候の視点から理解するとともに、今後発生する可能性のある自然災害について整理できる。	・今後発生する可能性のある自然災害について整理した上で、防災・減災へ向けた取り組みについて多面的・多角的に考察できる。 ・日本の地形の特徴を踏まえ、さまざまな自然災害の発生要因とそれが人々の生活にもたらす影響について多面的・多角的に考察できる。 ・日本の気候の特徴を踏まえ、気象災害の発生要因とそれが人々の生活にもたらす影響について多面的・多角的に考察できる。	・自助、共助、公助の観点から防災に向けた取り組みの重要性について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。
第5節 世界の環境問題 第2章 産業と資源 第1節 産業の発展と社会的分業 第3節 食料問題	地球規模での環境問題が深刻化している背景・要因について多面的・多角的に把握するとともに、有限な地球環境を持続的に利用するための取り組みについて模索させる。 産業の高度化に伴い社会的分業が複雑化していることを把握するとともに、それが地球規模で広がっていることを理解させる。 世界の食料需給の地域的な偏りが、食料問題を生み出す背景になっていることを理解した上で、問題の解決策について模索させる。	・地球規模での環境問題が深刻化している背景・要因について多面的・多角的に理解できる。 ・地球規模での環境問題が深刻化している背景・要因について多面的・多角的に理解できる。 ・世界の食料需給の地域的な偏りが、飢餓や飽食、食料自給率低下といった食料問題を生み出す背景になっていることを理解できる。	・産業の高度化に伴い社会的分業が複雑化し、地域的分業として表れていることを地球的規模に立脚しながら考察できる。 ・産業の変遷過程、それに伴う産業の高度化とその社会的背景について多面的・多角的に考察できる。 ・食料問題を生み出す背景について世界の食料需給の地域的な偏りとの関わりから考察した上で、問題の解決策について表現できる。	－
第4節 エネルギーと鉱産資源 第5節 資源・エネルギー問題 第6節 工業の立地と工業地域の変容	資源の分布や消費の地域的な偏りが国際取引を成立させていることを踏まえ、エネルギー政策の違いが国際対立の一因になっていることを理解させる。 わが国における資源・エネルギーの高い輸入依存度の問題や、自給率向上の取り組み、新たな資源開発の動向について理解させる。 工業の立地条件が複数の類型に区分でき、立地条件が変化する背景や要因、課題について理解させる。	・資源の分布や消費の地域的な偏りが国際取引を成立させていることを踏まえた上で、各国の掲げる資源ナショナリズムやエネルギー政策の違いが国際対立の一因になっていることを理解できる。 ・グラフを用いて、化石燃料の大量消費に伴い生じる資源の枯渇や環境問題、石油戦略に関わる国際政治の動向について理解できる。	・工業立地の特徴とその変化の動向について、業種の違いや国際分業との関係から考察するとともに、知識集約化の進む工業の新しい展開や、日本の工業の変化と課題について多面的・多角的に表現できる。	・わが国における資源・エネルギーの高い輸入依存度を脱却し、自給率向上を目指す取り組みや、新たな資源開発の動向について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。
第3章 交通・通信・観光 第1節 交通・通信 第2節 貿易と経済連携 第3節 観光 第4章 人口、村落・都市 第1節 人口 第2節 人口問題	交通・通信の発達による特徴を把握するとともに、生じる問題の背景・要因、解決に向けての取り組みについて理解させる。 貿易の発達により生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて理解させる。 観光の地理的展開について把握するとともに、生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて理解させる。 人口分布と人口増加の地域的傾向について把握するとともに、影響を与える人口転換や人口移動について理解させる。 発展途上国と先進国の人口問題について理解した上で、有効な解決策について模索させる。	・交通・通信の発達による世界の結び付きの現状について多様な手段の特徴や地域特性と関連づけて把握するとともに、交通・通信の発達により生じる問題の背景・要因、解決に向けての取り組みについて理解できる。 ・貿易の発達が世界をグローバルにまたは地域ごとに結び付けてきたことを把握するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて理解できる。 ・発展途上国と先進国各々の都市・居住問題への対応による新しい都市の動きや日本の都市が直面している課題について理解できる。	・貿易の発達が世界をグローバルにまたは地域ごとに結び付けてきたことを考察するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて表現できる。 ・村落・都市の機能や形態、分布の特徴、都市システム、都市内部の機能分化や大都市圏の発展過程について多面的・多角的に考察できる。	・時代の変化とともに観光そのものが世界規模において多様化していることを踏まえ、日本における観光の変化の動向について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。
第5章 生活文化、民族・宗教 第1節 生活文化の地域性 第2節 民族・言語・宗教 第3節 民族問題 第4節 現代の国家と領土問題	文化と環境の相互関係や文化が変容する理由について把握するとともに、生活文化が歴史的に変容することを理解させる。 食文化が地域によって異なる要因や、それが変容する過程について多面的・多角的に理解させる。 住居や衣服が地域によって異なり、それが変容する過程について多面的・多角的に理解させる。 国家領域や領土をめぐる問題を世界的な視野でとらえ、解決へ向けた取り組みについて模索させる。	・民族紛争や難民発生の背景となるさまざまな要因について多面的・多角的に理解できる。	・文化と環境との相互関係や文化が変容する理由、衣食住などの生活文化が環境との相互作用の中で形成され、歴史的に変容することを、多面的・多角的に考察できる。 ・国家の領域や国境の概念について具体例をもとに考察できる。	－

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	地理探究b	地探701	東京書籍	地理探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 課題プリント	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
第2編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第1節 地域区分の意義と方法 第2章 現代世界の諸地域 第1節 東アジア―項目ごとに整理して考察する―	地域区分の方法や地域概念、地域区分の意義についての理解を前提に、地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域のとらえ方について多面的・多角的に考察させる。 東アジアそれぞれの地誌的考察を行い、各地域の文化や産業の特徴と諸課題などを理解、考察させる。	・中国と韓国を中心に、東アジアの産業や地域格差、文化などのさまざまな事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。	・地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域のとらえ方について多面的・多角的に考察できる。 ・工業化に伴う韓国の都市化の進展と農村における変化の様相、国内の生活文化の特徴と変化の動向について多面的・多角的に考察できる。	－
第2節 東南アジア―項目ごとに整理して考察する― 第3節 南アジア―経済成長に着目する―	東アジア、東南アジアについてそれぞれの地誌的考察を行い、各地域の文化や産業の特徴と諸課題などを理解、考察させる。	・東南アジアにおける工業化の進展や地域格差など、さまざまな事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。 ・インドを中心とした南アジアにおける経済成長に着目して、人口増加と農村の変化、都市化と社会の変化などの事象と関連づけることを通して地域理解できる。	・東南アジアにおける工業化の進展や地域格差など、さまざまな事象を項目ごとに整理し、考察することができる。 ・インドを中心とした南アジアにおける経済成長に着目して、人口増加と農村の変化、都市化と社会の変化などの事象と関連づけながら考察できる。	・南アジア世界の多様性と共通性や地域間協力の現況について具体的事例をもとに関心と課題意識を高め、関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。
第4節 西アジアと中央アジア―二つの地域を比較する― 第5節 北アフリカとサハラ以南アフリカ―二つの地域を比較する―	西アジアと中央アジアそれぞれの地域を比較し共通点や、相違点に着目して各地域と他地域の結びつきについて理解させる。	・西アジアと中央アジアの両地域における地理的事象の共通点と相違点に着目しながら、各々の地域の特徴について理解できる。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカの両地域における地理的事象の共通点と相違点に着目しながら、各々の地域の特徴について理解できる。	・西アジアと中央アジアの両地域における地理的事象の共通点と相違点に着目しながら、各々の地域の特徴について多面的・多角的に考察できる。 ・西アジアと中央アジアの共通点と相違点について、資源開発と産業を指標に考察できる。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカの両地域における地理的事象の共通点と相違点に着目しながら、各々の地域の特徴について多面的・多角的に考察できる。	・北アフリカとサハラ以南アフリカの両地域の特徴について、共通点と相違点に着目しながら関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。
第6節 ヨーロッパ―地域統合に着目する― 第7節 ロシア―項目ごとに整理して考察する―	ヨーロッパ統合についての背景と多様な農業、産業の変容について認識を深め、EUの東方拡大と英国のEU離脱問題から見えるEUの諸課題を理解させる。 ロシアについて地誌的考察を行い、多様な民族や宗教、国内の諸問題について触れ、市場経済への転換から産業構造について認識を深めさせる。	・ヨーロッパの地域統合に着目して、産業や都市の変化、地域格差などの地理的事象を関連づけることを通して地域理解できる。 ・ロシアにおける民族や人々の暮らしの変化、産業地域の変化など、さまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。	・ヨーロッパの地域統合に着目して、産業や都市の変化、地域格差などの地理的事象を関連づけることを通して考察できる。 ・ロシアにおける民族や人々の暮らしの変化、産業地域の変化など、さまざまな地理的事象を項目ごとに整理し、考察できる。	－
第8節 アングロアメリカ―項目ごとに整理して考察する― 第9節 ラテンアメリカ―項目ごとに整理して考察する―	アングロアメリカについて地誌的考察を行い、特徴を理解しながら諸課題について理解させる。 ラテンアメリカについて地誌的考察を行い、特徴を理解しながら諸課題について考察させる。	・アメリカ合衆国を中心としたアングロアメリカにおける自然環境と歴史・民族、経済、産業の発展と変容、情報社会と大都市圏など、さまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。 ・ラテンアメリカにおける自然環境や歴史・文化、産業、開発などのさまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。	・アメリカ合衆国を中心としたアングロアメリカにおける自然環境と歴史・民族、経済、産業の発展と変容、情報社会と大都市圏など、さまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察できる。 ・ラテンアメリカにおける自然環境や歴史・文化、産業、開発などのさまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察できる。	－
第10節 オセアニア―項目ごとに整理して考察する― 第3編 現代世界と日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 第1節 日本の地理的諸課題を読み解く 第2節 持続可能な国土像の探究	オセアニア地域について地誌的考察を行い、特徴を理解しながら諸課題について考察させる。 日本の地理的諸課題について認識を深め、国土政策の歴史と今後の在り方について模索する。また日本が抱える地理的諸課題の解決と持続可能な方策について探究させる。	・オーストラリアやニュージーランドを中心とするオセアニアの気候や農業の特徴、先住民と移民の生活、ヨーロッパやアジアとの関係などのさまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解できる。 ・北極と南極それぞれの地理的特徴について把握するとともに、近年の動向について国際社会との関わりから理解できる。	・オーストラリアやニュージーランドを中心とするオセアニアの気候や農業の特徴、先住民と移民の生活、ヨーロッパやアジアとの関係などのさまざまな地理的事象を項目ごとに整理して考察できる。 ・日本における産業立地や都市化の変化、国土政策の流れに関連するさまざまな資料を読み解くことを通して、日本の抱える地理的課題について探究できる。	・オーストラリアやニュージーランドを中心とするオセアニアの気候や農業の特徴、先住民と移民の生活、ヨーロッパやアジアとの関係などのさまざまな地理的事象について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	歴史総合	歴総002-901	東京書籍	歴史総合

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
第1章 近代化と私たち 第1節 近代化への問い 第2節 アジアの繁栄と西洋近代の形成	18世紀のアジアの経済や社会、産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界市場の形成を理解させる。	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、アジアの経済と社会について理解している。 ・産業革命が起こった過程とその後の資本主義の確立について理解している。 ・東アジアの西洋諸国との接触や不平等条約の締結による変化について理解している。	・18世紀のヨーロッパとアジアの交易の特徴について考察することができる。 ・「世界の工場」と呼ばれたイギリスがどのようにして成長していったのか考察することができる。 ・アヘン戦争について、三角貿易の意味を理解しながら表現できる。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響に着目し、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容について考察することができる。	・イギリスで始まった産業革命がどのようにして世界に広がっていったのかを主体的に思考しようとする。
第1章 近代化と私たち 第3節 世界の一体化と多様な近代化 第4節 近代化と現代的な諸課題	日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解させる。	・18世紀後半以降の欧米諸国の市民革命や国民統合の動向や、列強の進出と植民地の形成について理解している。 ・19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとに国家形成が目指されたのかについて理解している。	・19世紀のロシアではどのような国家形成を目指していたのか考察することができる。 ・19世紀後半の各国の立憲制の仕組みについて考察することができる。 ・帝国主義国による植民地政策が、現地の近代化に与えた影響について考察することができる。	・20世紀初め、帝国主義に対して世界の各地の人々はどのような態度を示していたのか主体的に考察することができる。
第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 第2節 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦、日本の経済成長、国際連盟の成立などを基に、第一次世界大戦後の国際協調体制の理解と、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解させる。	・第一次世界大戦の展開や第一次世界大戦後の国際協調体制について理解している。 ・ソ連の成立とアメリカの繁栄について理解している。	・第一次世界大戦前後の社会の変化に着目して、日本やその他の国の相互の関係性について考察することができる。 ・アジアの諸地域でなぜ民族運動が高揚したのか、また、なぜ日中で対立が起きたのか考察することができる。 ・なぜ第一次世界大戦後に民主主義が世界に広がり、日本にも普及したのか考察することができる。	・マスメディアの発達は大衆と国家をどのようにして結びつけたのかについて主体的に考察することができる。
第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3節 経済危機と第二次世界大戦 第4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 第3章 グローバル化と私たち 第1節 グローバル化への問い	第二次世界大戦が世界に与えた影響に着目し、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会の復帰を理解させる。 また、グローバル化に伴う社会生活の変容について理解させる。	・世界恐慌に対しての各国の対応、ファシズム伸長、日本の対外政策について理解している。 ・第二次世界大戦と日中戦争、太平洋戦争の関連製品について理解している。	・第二次世界大戦中のドイツや日本、また、第二次世界大戦後の世界について考察することができる。 ・第二次世界大戦後の推移と第二次世界大戦が世界に与えた影響や国際秩序の形成が社会に及ぼした影響に着目し、考察することができる。	・グローバル化に伴う社会の変容や冷戦と国際関係について、主体的に考察することができる。
第4章 グローバル化と私たち 第2節 冷戦と世界経済	冷戦が各国に及ぼした影響に着目し、冷戦下の世界経済や地域連携、経済成長による社会の変容について理解させる。	・冷戦の拡大と核兵器の管理、および地域紛争について理解している。 ・冷戦下の自由主義国と社会主義国がとった政策、日本の冷戦下の国内政治について理解している。	・55年体制の日本の国内政治について、国際的背景をもとに考察することができる。 ・先進国の経済成長と地域連携、およびベトナム戦争について考察することができる。	・ベトナム戦争と冷戦構造の変容について、主体的に考察することができる。
第4章 グローバル化と私たち 第3節 世界秩序の変容と日本 第4節 現代的な諸課題の形成と展望	経済の自由化や技術革新の影響、民主化や地域統合の背景と影響に着目し、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に理解させる。	・先進国の価値観の変化や石油危機への先進国の対応について理解している。 ・アジアの経済発展や冷戦の終結、地域紛争について理解している。	・なぜ世界各国で民主化が進んだのか、また、冷戦終結後にグローバル化が進んだかについて考察することができる。	・現代社会における諸課題について、主体的に考察することができる。

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	日本史探究a	日探701	東京書籍	日本史探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 スクーリングプリント
第1編 先史・古代の日本と東アジア 第1章 先史社会の生活と文化 第2章 歴史資料と先史・古代の展望	人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、先史・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。 また、資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けることができるようにす	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、先史・古代の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 ・先史・古代の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現することができる。	・先史・古代の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 ・先史・古代の日本と東アジアに関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
第1編 先史・古代の日本と東アジア 第3章 古代社会の形成と展開 1節律令国家の形成と古代文化の展開 2節摂関政治と貴族文化	古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養うことができるようにする。	・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。	・中国大陸や朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	・律令国家の形成と古代文化の展開の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。
第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 第2章 歴史資料と中世の展望	平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。	・中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、中世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 ・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・中世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 ・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	・中世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする。 ・中世の日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとする。
第2編 中世の日本と世界 第3章 中世社会の展開 1節武家政権の成立と朝廷 2節武家支配の広がり国際交流	展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解できるようにする。	公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できる。	・武家政権の成立と朝廷の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整することができる。	・中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養おうとする。
第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 第2章 歴史資料と近世の展望	安土桃山時代から江戸時代までを扱い、近世がどのような時代であったかを世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解する。 資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、見通しをもった学習を展開できるようにする。	・近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から、近世の日本と世界に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・近世の日本と世界の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことができる。 ・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	・近世の日本と世界の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養うおうとする。 ・近世の日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとする。
第3編 近世の日本と世界 第3章 近世の展開 1節幕藩体制の確立	近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解することができるようにする。	・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解している。	・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	・幕藩体制の確立の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとする。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地理歴史	日本史探究b	日探701	東京書籍	日本史探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 スクーリングプリント
第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け	幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を理解し、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現できるようにする。	・対外関係の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近世から近代への時代の転換を理解することができる。	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することができる。	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を追究しようとする。
第4編 近現代の地域・日本と世界 第2章 歴史資料と近現代の展望	資料から情報を収集して読み取る技能を身に付けるとともに、読み取った情報から近代の特色についての仮説を表現することを通じて、見通しをもった学習を展開できるようにする。	・近現代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。	・歴史資料の特性をふまえ、資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現できる。	・近現代の地域・日本と世界に関わる諸事象について見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとする。
第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 歴史資料と近現代の展望 1節近代的制度の導入と新しい国際関係 2節国民国家と資本主義の成立	近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する学習を通じて、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養うことができるようにする。	・明治維新、文明開化の風潮、学問の発展や教育制度の拡充、自由民権運動などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解することができる。 ・大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争、産業革命の展開などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解することができる。	・アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、欧米の思想・文化の影響、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。 ・産業の発達の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・近代的制度の導入と新しい国際関係の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。 ・国民国家と資本主義の成立の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。
第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 歴史資料と近現代の展望 3節両大戦間期の日本 4節第二次世界大戦と日本 5節占領と改革	近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解することができるようにする。	・第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解している。	・産業の発達の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大、日本の工業化の進展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している	・両大戦間期の日本」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとしている
第4編 近現代の地域・日本と世界 第3章 歴史資料と近現代の展望 6節国際社会への復帰と高度経済成長 7節アジア情勢の変化と経済大国日本 8節新しい国際秩序と日本の課題	近代から現代にいたる国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解するとともに、思考力・判断力・表現力を養うようにする。	・明治維新、文明開化の風潮、学問の発展や教育制度の拡充、自由民権運動などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との関係を理解している。	・アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、欧米の思想・文化の影響、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	・近代的制度の導入と新しい国際関係の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。また、自身の学習について振り返り、調整しようとしている。
第4編 近現代の地域・日本と世界 第4章 現代の日本の課題の研究	持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現できるようにする。	・先史・古代、中世、近世、近現代の学習をふまえて、現代の日本の課題を理解することができる。	・先史・古代、中世、近世、近現代の学習で表現した歴史の画期、地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係、それ以前の時代からの継続や変化などに着目して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史について、多面的・多角的に考察、構想して表現することができる。	・先史・古代、中世、近世、近現代の学習を振り返り、自身との関わりをふまえて、持続可能な社会の実現を視野に、主体的に探究しようとする。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準				
相生学院高等学校				
教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地歴	世界史探究a	世探701	東京書籍	世界史探究
学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
第1章古代文明の出現	○各地域の古代文明について、その共通点や相違点、それらが自然環境とどのように関係しているかなどについて理解する。	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に古代文明の歴史的特質を理解している。 ・農業と気候、文明の誕生について、諸資料から読み取り、理解している。	・古代文明に関わる諸事情の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について多面的・多角的に考察し、問いを表現している。	・「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 古代文明の歴史的特質についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。
第2章西アジアと地中海周辺	○西アジアと地中海周辺の国家がどのように影響を及ぼしあい、どのような共通点を持っているかについて理解する。 ○この世界で成立した宗教が現在の宗教分布とどのように関係しているかを理解する。	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第3章南アジア 第4章東南アジア 第5章東アジアと中央ユーラシア	○南アジア地域を特徴づける「多様ななかの統一」とはどのようなことなのかなどについて理解する。 ○東アジアと中央ユーラシアの古代国家はどのようにして生まれたのか、また古代国家の誕生と発展が社会と文化に与えた影響や、それによって生みだされた地域の特色について理解する。 東南アジア地域における国家形成が交易や思想・文化とどのように関係しているのかなどについて理解する。	・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、南アジアの歴史的特質を理解している。 ・海の道や東南アジアの諸国家を基に、東南アジアの歴史的特質を理解している。 ・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。	・南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、南アジアにおける宗教や文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、東南アジアにおける宗教や文化の特色、周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「東南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「東アジアと中央ユーラシア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第6章アフリカ、アセアニア、古アフリカ 第7章イスラーム世界の拡大と繁栄	○ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら理解する。 ○アジア・アフリカの広大な地域が、イスラーム文明圏としてまとまった理由などについて理解する。	・自然環境との関わりなどを基に、ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴を理解している。 ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	・アフリカ、オセアニア、古アメリカの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・ユーラシア大陸以外の地域に成立した文明の特徴について、自然環境との関わりに注目しながら、学習への見通しをもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ・「イスラーム世界の拡大と繁栄」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第8章中世ヨーロッパ 第9章中華世界の変容とモンゴル帝国	○9世紀から15世紀にかけて、ヨーロッパ世界ではどのような政治、経済、社会、文化の変動がおこったのか、また、それらの変動の結果は後世のヨーロッパにどのように継承されていったのかなどについて理解する。 ○歴史上かつてない規模の世界帝国であるモンゴル帝国はどのようにして生まれ、どのように世界を結びつけたのかなどについて理解する。	・ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 ・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「中華世界の変容とモンゴル帝国」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第10章インド洋海域世界の発展と東南アジア 第11章大交易時代と世界の一体化	○インドと東南アジアにおけるイスラームの広がりが一様でなかった要因などについて理解する。 ○大交易時代に、なぜ世界の各地で社会がほぼ同時に大きく変化したのか、また、世界の諸地域間の関係は、前後の時代と比べてどのように特徴づけられるのかなどについて理解する。	・インド洋海域世界と東南アジアの発展などを基に、諸地域の交易の進展を構造的に理解している。 ・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。	・諸地域の交易に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、インド洋海域世界と東南アジアの発展などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・諸地域の交易とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「インド洋海域世界の発展と東南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
地歴	世界史探究b	世探701	東京書籍	世界史探究

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄 第13章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大	○16世紀から18世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようにもたらされたのかなどについて理解する。 ○16世紀から17世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家にはどのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「ユーラシア諸帝国の繁栄」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第14章 国民国家と近代社会の形成	○18世紀半ばから19世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。	・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第15章 世界市場の形成とアジア諸国の変容 第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行	○産業革命で先行したイギリスが19世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。 ○アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 ・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容 第18章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦	○第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。 ○世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によってひきおこされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「国際協調体制の動揺と第二次世界大戦」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第19章 第二次世界大戦と戦後のアジア 第20章 冷戦の世界化と国際制度	○第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。 ○冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 ・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第二次世界大戦と戦後の東アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
第21章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化 第22章 21世紀の地球的課題と人類社会	○冷戦の変容にとまない、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後に生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。 ○21世紀に入り、地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて、これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。	・冷戦の変容・終結と地域紛争の頻発、アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、経済のグローバル化、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 ・地域紛争の頻発、経済のグローバル化、原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性、諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴、経済格差と政治や社会の変化との関連性、科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、紛争と経済や社会の変化との関連性、経済格差と政治や社会の変化との関連性、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「21世紀の地球的課題と人類社会」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
公民	公共	公共 901	東京書籍	公共

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
第1部 「公共」のとびら 第1章 青年期を生きる私たち 第2章 他者とともに生きる人間としてのあり方生き方	自らのこと, 社会のことを理解し, 考えられるようになるための様々な視点を身に着ける。 青年期, 自己形成, 公共空間や先人たちの思想や宗教について理解する。	・青年期の特徴と自己形成の課題, 個人, 社会, 伝統・文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について理解している。 ・現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などの考え方について理解している。 ・世界三大宗教の特徴について理解している。 ・先哲の思想について理解している。	・青年期の特徴と自己形成の課題, 個人, 社会, 伝統・文化の三つの視点から捉えた人間のあり方について多面的・多角的に考察することができる。 ・現代の諸課題について判断し選択する際の手がかりとなる功利主義や義務論などについて説明することができる。	・青年期のキャリア開発において大切なことを主体的に考える姿勢がみられる。 ・功利主義や義務論の考え方の良い点と悪い点について考え, 多数派優先に陥りがちな集団での意思決定について多面的に考えようとする態度がみられる。
第1部 「公共」のとびら 第3章 公共的な空間における倫理 第4章 公共的な空間における基本的原理 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	公共的な空間における基本原理を理解する。 民主主義やその課題, 国会や内閣のしくみと役割について理解し, 行政と住民のあり方について考える態度を身に着ける。	・公共的な空間における基本原理である民主主義, 法の支配と立憲主義, 人間の尊厳と平等などの意義について理解している。 ・政治と民主主義, 地方自治及び国会, 内閣のしくみと役割, 政治参加と選挙, 政党と利益集団, メディアと世論について, 民主政治の実現の観点から理解している。	・日本国憲法に掲げられている権利について理解したうえで, その実現のために必要なことについて考えをめぐらせ, 判断することができている。 ・ポジティブ・アクションについて説明することができる。 ・諸外国の政治体制について説明できる。 ・選挙制度や制度を健全化するための方法について説明できる。	・現代社会に存在する人権問題について様々な視点から考え, 自分なりに解決策を考えようとする意欲がみられる。 ・日本における投票率の低下について, 諸外国の取り組みやその効果を調べて解決策を見いだそうとする姿勢がみられる。 ・民主政治と選挙制度, 日本の選挙制度と課題について主体的に追究し, 自分にできる政治参加の方法を考えようとする姿勢がみられる。
第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第2章 法の働きと私たち	法の働きや種類, 社会規範について学び, 自分たちの生活が法と密接にかかわっていることを理解する。 法による規制とそれ以外の問題解決策について考え, 幅広い視点で問題を解決する力を養う。	・法や規範の意義と役割, 法の成立と適用, 市民生活における法と契約, 消費者の権利と責任, 司法のしくみと司法参加の意義などについて理解している。	・道徳を含む社会規範における法の定義, 法の役割, 法の分類とそれぞれの性質について説明することができる。 ・消費者契約における課題, 消費者法制と消費者の権利, 消費者主権と消費者市民社会形成などについて, 多面的・多角的に考察している。 ・裁判員制度のしくみについて, 諸外国の制度と比較したうえで説明することができる。	・法や規範の意義と役割について, 問題解決策としての法規制とそれ以外の方法について多様な視点から考えようとする姿勢がみられる。 ・インターネット販売を利用する際の契約トラブルに合わない方法を考えることを通じて, 賢い消費者になろうとする意欲がみられる。
第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	経済のしくみや日本経済の歴史を理解する。持続可能な社会保障制度について主体的に考え, 判断するための思考力を身に着ける。	・経済活動の意義, 経済循環, 市場経済のしくみと政府の役割, 国民所得と経済成長, 金融のしくみと働き, 中央銀行の役割と金融環境の変化, 財政の働きと課題, 社会保障の考え方と課題について理解している。	・資本主義と社会主義, 修正資本主義の利点や欠点を理解した上で, 「小さな政府」の弊害について説明することができる。 ・金融の自由化と金融商品の多様化の動向について説明できる。 ・社会保障の意義と歴史, 日本の社会保障制度, 少子高齢化の進む日本の現状, 社会保障の財源確保, 社会保障と経済の活性化とのかかわりなどについて, 多面的・多角的に考察している。 ・GDPにかわる指標について, 必要とされる理由も含めて説明することができる。 ・市場経済における価格の働き, 市場の失敗と政府の働きについて, 多面的・多角的に考察している。	・日本の社会起業家やクラウドファンディングの例について, 興味をもって調べることができる。 ・市場経済における価格の働き, 市場の失敗について学び, 政府のあるべき姿について主体的に追究している。
第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会のなかで生きる私たち	働くことについての考え方を養ったり, 労働問題や労働に関する法律への理解を深めたりすることで, 未来の職業生活への意識づけを行う。 国際社会のしくみを学び, 平和を守ろうとする意識を高める。	・働くことの意義, 産業社会の発達と職業の変化, 労働市場の役割, 職業選択のポイント, 多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題, 資本主義社会における労働契約, 労働者の権利と労働三法, 雇用環境の変化と現代の労働問題などについて, 理解している。 ・国際社会の成り立ち, 国際連合の役割, 日本の平和主義と冷戦, 冷戦後の日本, 現代の紛争とその影響, 国際平和に向けた課題, 貿易のしくみ, 国際金融のしくみと動向, グローバル化と国際経済, 国際経済の諸課題について理解している。	・国際連合のさまざまな役割と課題について, 多面的・多角的に考察している。 ・冷戦終結後の日本の安全保障政策, 自衛隊と海外派遣などについて考えることができる。	・働くことの意義, 産業社会の発達と職業の変化, 労働市場の役割, 職業選択のポイント, 多様化するキャリアの選択とキャリア形成の課題についての学習をふまえて, 自分自身の働き方について主体的に構想を深めることができる。 ・他国の働き方を調べることで, 日本の労働問題について理解を深めようとする積極的な姿勢がみられる。 ・「勢力均衡」の問題点を考え, 歴史をふまえたうえであるべき安全保障のあり方について主体的に考えを深めることができる。
第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第5章 国際社会のなかで生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	国際平和や国際経済の課題について, 自ら考える態度を養う。 持続可能な社会を作るために必要なことを考え続ける人になるという姿勢を身に着ける。	・国際社会の成り立ち, 国際連合の役割, 日本の平和主義と冷戦, 冷戦後の日本, 現代の紛争とその影響, 国際平和に向けた課題, 貿易のしくみ, 国際金融のしくみと動向, グローバル化と国際経済, 国際経済の諸課題について理解している。	・円高や円安が日本にもたらす影響について理解しており, 説明することができる。 ・国際経済の歴史や金本位制について説明することができる。 ・貿易について, 自由貿易と保護貿易の長所と短所を考えた上で国際協調をしながら日本の産業を守る方法について考察することができる。	・イギリスのEU離脱問題について多面的にとらえることを通して, 地域統合の課題について様々な観点から主体的に考えていこうとする意欲がみられる。 ・「公共」で学んだこと全体を通して, 関心のあるテーマについて考察し, 自分なりの解決案を考えることができる。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅰa	数Ⅰ904	東京書籍(株)	新数学Ⅰ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
1章 数と式	各単元における用語の意味、計算の仕組みや約束を理解し、基本的な計算や展開、因数分解をすることができる。 1次方程式・不等式、2次方程式・不等式の性質を理解し、それらを解くことができる。	文字を使った式の表し方について理解している。 多項式の加減・減法の仕組みを理解し計算することができる。 指数法則や分配法則、乗法公式を用いて多項式を展開することができる。 因数分解の公式を利用して因数分解をすることができる。 x^2 の係数が1以外の多項式を因数分解することができる。 式の一部を置き換えることで多項式を展開、因数分解することができる。 平方根の意味を理解し計算や分母の有理化ができる。 有限小数、循環小数について理解できる。 等式の性質や方程式の解の意味を理解し、1次方程式と2次方程式を解くことができる。 不等式を解くことができる。	乗法公式のつながりを考察することができる。 公式と関連させながら、式の一部を1つの文字に置き換え見通しを持って展開や因数分解することを考察することができる。 身近な問題を解決するときに1次方程式や不等式を活用することができる。 不等式の性質を等質の性質と対比してとらえることができる。 不等式の解き方を1次方程式の解き方と対比して捉えることができる。	多項式の乗法の計算方法を振り返って、工夫して式を展開しようとしている。 身近な問題を解決することに不等式を活用しようとしている。 不等号の意味を理解し、大小関係を表すことができる。
4章 データの分析	データの特徴をとらえやすくするために表などに表すことができ、データを整理する有用性に気づく。 1つの値によってデータを表すことができ、その有用性に気づく。	データや階級、度数、階級値、度数分布表、累積度数、ヒストグラム、相対度数、累積相対度数の定義や意味を理解している。 目的やデータに応じて、度数分布表、ヒストグラムなどに表すことができる。 データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、平均値、中央値、最頻値などの代表値を求めることができる。 四分位数、四分位範囲の定義や意味を理解している。 箱ひげ図に表すことができる。 分散、標準偏差を理解し、それを求めることができる。 相関関係について理解し、2つの数量の関係を散布図や相関係数を用いて表すことができる。	標準偏差を用いてデータの散らばり具合を考察することができる。 相関関係を調べることで、複数の数量について、強い関係があるのはどれとどれかを判断することができる。	身近なデータを分析する過程を通して、統計的探究プロセスを意識した問題解決の活動について理解しようとしている。
5章 集合と論証	集合における用語、記号、表し方を理解し、表現することができる。 命題の真偽と判別を考えることができ、また、必要条件などの意味を知り、図表示による包含関係と関連づけて理解できる。 命題の逆、対偶などについて理解し、論理的な思考を養う。	部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方や用語を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。 命題の真偽を調べたり、偽である場合には反例を挙げたりすることができる。また、条件の否定を述べることができる。 必要条件や十分条件の意味や記号について理解している。 命題の逆・裏・対偶について、基礎的な知識を身に付けている。	集合をベン図で表すことで、集合とその要素との関係や、集合と集合の関係について考察することができる。	身近なものを分類することを通して、集合の概念を理解しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学 I b	数 I 904	東京書籍(株)	新数学 I

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
2章 2次関数	関数の概念の理解を確実にし、グラフをかくことができる。 また、グラフを活用することのよさを認識する。	関数について理解しており、値を求めることができる。 1次関数について理解し、そのグラフをかくことができる。 2次関数について理解し、そのグラフをかくことができる。 平行移動の意味を知り、式から頂点などを読み取れる。 2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、共有点を求めることができる。 2次関数のグラフと2次不等式の解の関係を理解し、2次不等式を解くことができる。	$y=ax^2+bx+c$ のグラフを、 $y=a(x-p)^2+q$ の式に変形できる。 ともなって変化する2つの数量の関係について考察することができる。 具体的な事象を数学的に捉え、2次式で表すことができる。 2次関数の最大値・最小値についてグラフを用いて考察することができる。 2次関数のグラフとx軸の位置関係について、2次方程式の解に対応させて考察することができる。	2次関数の係数とそのグラフの形や位置の関係について関心を持ち、考察した結果をグラフにかくことに活用しようとしている。 2次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に2次関数のグラフや最大値・最大値を活用しようとしている。
3章 三角比	相似な三角形の性質を理解し、三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことで三角比の有用性を認識する。	相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができる。 三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解し、その値を求めることができる。 三角比の表を活用して三角比の値や角度を求めることができる。 三角比の相互関係を用いて、1つの三角比から他の三角比を求めることができる。 与えられた辺の長さや角の大きさから三角形の面積を求めることができる。 正弦定理、余弦定理を利用して三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 座標を利用して三角比を0°から180°までの角の三角比を求めることができる。 また、鋭角で学んだことを鈍角でも利用できることを理解し、種々の問題を解くことができる。	相似の考え方を用いて、直角三角形の辺の比を角との関係で捉えることができる。 相似な三角形において、三角比が三角形の大きさに関係なく、ある角に依存していることを考察することができる。 座標平面上に直角三角形を見いだすことによって、角が鈍角の場合でも三角比の相互関係が成り立つことや $180^\circ - \theta$ の三角比について考察することができる。	三角形の辺や角の関係から、正弦定理について考察しようとしている。 日常の事象や社会の事象の中に三角形で構成された図形を見いだし、その図形の計量に三角比を活用しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅱa	数Ⅱ717	東京書籍	新数学Ⅱ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験
1章 方程式・式と証明	各単元における用語の意味、計算の仕組みや約束を理解し、基本的な計算をすることができる。また、身近な問題を解く際にそれらを活用することができる。	3次の乗法公式や因数分解の公式を用いて、計算することができる。分数式の約分ができ、分数式の四則演算をすることができる。負の数の平方根を1次の項がない2次方程式の解法と関連づけて理解している。複素数の相等を用いて、問題を解くことができる。虚数単位を用いて、複素数の計算をすることができる。共役な複素数の性質を用いて、複素数の除法を計算することができる。解の公式を用いて、2次方程式を解くことができる。2次方程式の解を判別することができる。2次方程式の係数を基にして、解の和と積を求めることができる。剰余の定理を用いて、除法における余りを求めることができる。	3次の乗法公式と因数分解の公式が成り立つことを、実際に展開して導くことができる。二項定理を用いて、式を展開することができる。因数定理について理解し、因数定理を用いて多項式を因数分解することができる。等式の証明について、論理的に考察することができる。2つの数の相加平均と相乗平均を求め、大小関係を調べることができる。	パスカルの三角形に関心をもち、式の展開の考察に活用しようとしている。2次方程式の解の種類について、判別式を用いて考察しようとしている。2次方程式の係数を基にして、解の和と積を求めることができる。また、それを利用して式の値を求めることができる。
2章 図形と方程式	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。また、図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。	数直線上の2点間の距離を求めることができる。数直線上の内分点・外分点の座標を求めることができる。平面上の2点間の距離を求めることができる。直線の傾きと切片について理解している。平行・垂直な2直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。与えられた条件から円の方程式を求めることができる。	直線の傾きと切片について理解している。平行・垂直な2直線の方程式の間に成り立つ関係について理解し、それらを用いて直線の方程式を求めることができる。円の方程式から円の中心の座標と半径を求めることができる。円と直線の共有点の座標を求めることができる。不等式が表す領域を図示することができる。連立不等式が表す領域を図示することができる。	三角形の重心の座標を求めることができる。円と直線の共有点の個数について、2次方程式の判別式の符号から考察することができる。
3章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。三角関数の加法定理を用いて、三角関数の値を求めることができる。加法定理の逆の考え方をもとにして、三角関数の合成を導くことができる。おうぎ形の弧の長さや面積について弧度法を用いて考察することができる。角の大きさについて、度数法を弧度法で表したり、弧度法を度数法で表したりすることができる。	一般角の三角関数の相互関係を利用して、正弦、余弦、正接を求めることができる。三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	三角関数のグラフの性質を理解し、周期を考察することができる。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅱb	数Ⅱ717	東京書籍	新数学Ⅱ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験
3章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	三角関数の定義を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。 三角関数の性質を用いて、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の加法定理を用いて、三角関数の値を求めることができる。 加法定理の逆の考え方をもとにして、三角関数の合成を導くことができる。 おうぎ形の弧の長さや面積について弧度法を用いて考察することができる。 角の大きさについて、度数法を弧度法で表したり、弧度法を度数法で表したりすることができる。	一般角の三角関数の相互関係を利用して、正弦、余弦、正接を求めることができる。 三角関数のグラフの性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	三角関数のグラフの性質を理解し、周期を考察することができる。
4章 指数関数と対数関数	指数関数・対数関数について理解し、関数の理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	整数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。 累乗根の意味を理解し、計算することができる。 有理数へ拡張した指数法則を用いて、計算することができる。 分数を指数とする累乗について理解し、計算することができる。 指数関数の大小を比較することができる。 対数の意味を理解し、対数の値を求めることができる。 対数関数の大小を比較することができる。 常用対数の意味を理解し、常用対数表を用いて、対数の値を求めることができる。	指数関数のグラフの性質を理解し、その性質を利用することができる。 対数の性質を用いて対数の計算をすることができる。	指数関数、対数関数の難しい計算問題に取り組むことができる。
5章 微分と積分	具体的な事象の考察を通して微分・積分の考え方を理解し、関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。	関数の平均変化率を求めることができる。 極限值を求めることができる。 導関数計算ができる。 導関数の符号を利用して、関数の増減を調べることができる。 関数の極大・極小の意味を理解し、極大値・極小値を求めることができる。 不定積分の意味を理解し、不定積分を求めることができる。 定積分の意味を理解し、定積分を求めることができる。	微分係数を定義に基づいて求めることができる。 微分係数を利用して、接線の傾きを求めることができる。 曲線上のある点における接線の方程式を求めることができる。 増減表を作り、関数のグラフをかくことができる。 ある定義域における関数の最大値・最小値を、増減を調べることによって求めることができる。 不定積分の公式を用いて、不定積分や原始関数 F(x) を求めることができる。 定積分を利用して、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	身近な問題を解決することに、関数の最大・最小を活用しようとしている。 増減表を利用することができる。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅲa	数Ⅲ702	東京書籍	数学ⅢStandard

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート スクーリング 行動観察
分数関数・無理関数とそのグラフ	分数関数・無理関数のグラフをかくことができる。また、それぞれの関数のグラフの特徴を理解する。	それぞれのグラフをかくことができる。グラフの特徴を理解し、そのグラフを利用して不等式のxの値の範囲を求めることができる。	具体的なグラフをかき、その特徴を考察することができる。	具体的なグラフをかき、その特徴を考えようとしている。
逆関数と合成関数	逆関数の意味を理解し、それを求めることや、関数のグラフから逆関数のグラフをかくことができる。合成関数の意味を理解し、2つの関数の合成関数を求めることができる。	逆関数の意味を理解し、関数の逆関数を求めることや、関数のグラフから逆関数のグラフをかくことができる。合成関数の意味を理解し、2つの関数の合成関数を求めることができる。	関数のグラフとその関数の逆関数のグラフをかき、位置関係を考察することができる。	関数のグラフとその関数の逆関数のグラフをかき、位置関係を考えようとしている。
数列の極限	数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。	数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。	数列の第n項を変形して、その収束と極限值について考察することができる。	数列の第n項を変形して、その収束と極限值について考えようとしている。
無限等比数列	無限等比数列が収束する条件を理解し、そのことを用いて数列の極限を調べることができる。	無限等比数列が収束する条件を理解し、そのことを用いて数列の極限を調べることができる。	場合分けを用いて、数列の収束と極限について考察することができる。	
無限級数	無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたり、無限等比数列が収束する条件を理解し、その和を求めたりすることができる。	無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたり、無限等比数列が収束する条件を理解し、その和を求めたりすることができる。	極限值と四則の性質を用いて、無限級数の和を考察することができる。	極限值と四則の性質を用いて、無限級数の和を考えようとしている。
いろいろな関数と極限	指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。	指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。	グラフを用いて関数の極限を考察ことができる。	グラフを用いて関数の極限を考えようとしている。
導関数	導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。また、導関数の基本的な性質を理解する。	導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。	関数の微分可能性と連続性について考察することができる。	
積・商の微分法	積・商の導関数について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。また、nが整数のとき、公式を導けることを学ぶ。	積・商の導関数について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	積の微分を用いて、商の導関数について考察することができる。整数nのとき、公式が成り立つことを考察することができる。	整数nのとき、公式が成り立つことを考察することができる。
合成関数の微分法	合成関数の微分法及び逆関数の微分法について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。また、rが有理数のとき、公式が成り立つことを理解する。	合成関数の微分法及び逆関数の微分法を用いて、いろいろな関数の導関数を求めることができる。	rが有理数のとき、公式が成り立つことを考察することができる。	rが有理数のとき、公式が成り立つことを考えようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学Ⅲb	数Ⅲ702	東京書籍	数学ⅢStandard

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート スクーリング 行動観察
関数の増減	平均値の定理について理解し、平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。また、関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、極値を求めたりすることができる。	関数の増減を調べたり、関数の値の変化を調べて、極値を求めたりすることができる。	平均値の定理について考察したり、平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。	
第2次導関数とグラフ	曲線の凹凸に関する性質を理解する。また、これまでに学習したことを用いていろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。	これまで学習したことを総合していろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。	曲線の形を調べるために、第2次導関数が有用である理由を説明することができる。	曲線の形を調べるために、第2次導関数が有用である理由を説明しようとしている。
不定積分	不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	合成関数の微分法から、不定積分を推測することができる。	合成関数の微分法から、不定積分を推測しようとしている。
置換積分法	置換積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	置換積分法を利用し、不定積分を求めることができる。	置換積分法を利用して、三角関数の不定積分について考察することができる。	置換積分法を利用して、三角関数の不定積分について考えようとしている。
部分積分法	部分積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	部分積分法を利用し、不定積分を求めることができる。	積の微分法から、不定積分を推測することができる。また、部分積分法について考察することができる。	積の微分法から、不定積分を推測しようとしている。また、部分積分法について考えようとしている。
定積分	いろいろな関数の定積分の値を求めることができる。	いろいろな関数の定積分の値を計算することができる。	定積分について、グラフを利用して考察することができる。	
面積	いろいろな曲線で囲まれた図形の実績の求め方を理解する。また、その値を求めることができる。	いろいろな曲線で囲まれた図形の実績を求めすることができる。	yの値の範囲を用いた面積の求め方について、いろいろな視点で考察することができる。	yの値の範囲を用いた面積の求め方について、いろいろな視点で考えようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学A	数A905,906	東京書籍	「改訂版 新数学A」,「改訂版 新数学A 解答編」

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 授業プリント・単位認定試験	レポート 授業プリント・単位認定試験	レポート 行動観察 授業プリント・単位認定試験
1章 場合の数と確率				
1節 場合の数	集合・要素の個数・樹形図・和の法則・積の法則・順列・組合せを理解し、場合の数を求められるようにする。	集合の表し方・要素の個数・樹形図・和と積の法則・順列・重複順列・円順列・組合せの総数を求められる。	順列の式、あるいは順列と組合せを対比して考察する。 順列・組合せを利用して場合の数を求める。	順列・組合せの考え方を利用して、場合の数を求めようとしている。
2節 確率	試行・事象・確率の意味・余事象・独立な試行・反復試行を理解し、加法定理・乗法定理を活用して、期待値まで求められるようにする。	基本の確率・排反事象の確率・余事象の確率・独立試行の確率・反復試行の確率・条件つき確率・期待値を求められる。	確率の性質から起こりやすさを判断できる。 条件つき確率や乗法定理を考察できる。 期待値を意思決定に利用できる。	確率の性質を振り返り、判断しようとしている。 条件つき確率や乗法定理を考察しようとしている。 期待値を意思決定に利用しようとしている。
2章 図形の性質				
1節 平面図形の基礎	平行線と角・多角形・三角形の合同・相似・作図など平面図形の基本性質を理解し、目的に合った図形を作図できるようにする。	平行線と角・多角形の内角と外角・三角形の合同と相似を理解し、角の大きさを求められる。 垂直二等分線・垂線・角の二等分線を作図できる。 平行線やいろいろな大きさの角を作図できる。	完成した作図をみて、手順を説明できる。	作図の手順を説明しようとしている。
2節 三角形の性質	三角形の比・中点連結定理・重心・外心・内心、あるいは角の二等分線などを理解して、角の大きさや線分の長さを求められるようにする。	三角形の比・中点連結定理・重心・外心・内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求められる。 三角形の角の二等分線と線分比に関する定理を用いて、線分の長さを求められる。	中点連結定理を利用して、線分を3等分する作図について、考察できる。 角の二等分線と線分の比の性質を利用して、線分を与えられた比に内分する作図について、考察できる。	中点連結定理や角の二等分線を利用した作図について、考察しようとしている。
3節 円の性質	円の接線・円周角・円に内接する四角形・接線と弦のつくる角・方べきの定理・2つの円の位置関係を理解して、利用できるようにする。	円の接線の性質・方べきの定理を用いて、線分の長さを求められる。 円周角の定理・円に内接する四角形・接線と弦のつくる角の定理を用いて、角の大きさを求められる。	円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあるかどうかを判断できる。 内接条件を用いて、四角形が円に内接するかどうかを判断できる。 方べきの定理を考察できる。 2つの円の位置関係から、中心間距離を考察できる。	方べきの定理について、考察しようとしている。
4節 空間図形	直線と平面の位置関係や多面体の性質を理解し、空間図形に対する見方を豊かにする。	直線と平面の位置関係を理解している。 多面体・正多面体を理解している。	平面を決定する条件や、正多面体同士の関係について考察できる。	
3章 数学と人間の活動				
1節 数や位置を表す	記数法・進法・座標など数や位置の表し方を理解し、活用できるようにする。	記数法・10進法と2進法の変換や、計算・平面と空間の座標の表し方を理解している。	日常の例から、座標の表し方を考察できる。	空間内の点の位置の表し方を考察しようとしている。
2節 数のつくりを調べる	整数の基本的概念(約数・倍数・素因数分解・ユークリッドの互除法)を理解する。	約数・倍数を求めたり、素因数分解できる。 素因数分解を利用して、最大公約数・最小公倍数を求められる。 ユークリッド互除法で、最大公約数を求められる。	ユークリッド互除法で、最大公約数が求められる理由を考察できる。	
3節 はかる	長さ・面積・体積・重さ・時間などの単位を調べたり、測量の考え方を理解できる。	長さ・面積・体積・重さの単位を変換できる。 古代の時計や暦(うるう年)について理解している。	タレスによる、ピラミッドの高さの測量について考察できる。 うるう年を決めた理由を考察できる。	図形の性質や三角比を用いた測量方法について、考察しようとしている。 重さの単位の漢字表記について、調べようとしている。
4節 数学で遊ぶ	パズルや謎解き、和算の問題を通して、数学の面白さや人間の営みが紡いできた文化について、関心を深める。	魔方陣の問題を解ける。	魔方陣のしくみを考察できる。 図形パズルの不思議を解明できる。 規則性を見つけてハノイの塔の問題を考察できる。 論理的に考えて帽子の色を推察できる。 塵劫記の問題を考察できる。	各種パズルやゲームなどを、筋道立てて考えようとしている。 数学を応用して、論理的に考えようとしている。 数学と人間活動の関わりについて、認識を深めようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学B	数B702	東京書籍	数学B Standard

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験
1章 数列	数列の概念及び数列についての基本的な用語の意味を理解する。 等差数列、等比数列などの一般項を求めることができる。 Σの意味と性質を理解し、和を求めることができる。 階差数列や群数列などの複雑な数列の一般項や和を求めたりすることができる。 数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	一般項から数列の各項を求めたり、数列の各項から一般項を求めたりすることができる。 等差数列、等比数列についての基本的な用語を理解し、初項と公差から一般項や和を求めることができる。 Σの公式を利用して、与えられた和を求めることができる。 階差数列についての基本的な性質を利用して、数列の一般項を求めることができる。 漸化式の基本的な性質を理解し、漸化式から具体的な項の値を求めることができる。	等差数列の初項から第n項までの和の求め方について考察することができる。 Σを用いて表された数列の和を記号を用いずに表現したり、数列の和をΣを用いて表現したりすることができる。 階差数列の和を利用して、数列の一般項を考察することができる。 数学的帰納法を用いて、整数の性質や等式、不等式を証明することができる。	等比数列の初項から第n項までの和の求め方について、具体的に考えようとしている。 階差数列の和を利用して、数列の一般項を考えようとしている。 与えられた漸化式を、どのように変形すればよいかを考えようとしている。
2章 統計的な推測	確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。また、確率変数の平均と分散の意味を理解し、確率変数Xの平均(期待値)や分散、標準偏差を求めることができる。 確率変数aX + bの平均や分散、標準偏差について理解し、それらを求めることができる。	確率変数や確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。 確率変数Xの平均(期待値)や分散、標準偏差を求めることができる。 確率変数aX + bの平均や分散、標準偏差の性質を用いて、平均や分散などを求めることができる。 二項分布の確率や分散、標準偏差を求めることができる。	独立である確率変数X、Yの積XYの平均と、X、Yの平均にどのような関係があるかを考察することができる。 二項分布の次数や確率の値をいろいろ変えることで、確率変数の平均や分散はどのように変化するかを説明することができる。	Xの1次式で表される確率変数について、分散や標準偏差がどのように表されるかを考えようとしている。 独立である確率変数X、Yの積XYの平均と、X、Yの平均にどのような関係があるかを考えようとしている。
3章 数学と社会生活	事象の特徴を捉え、数学的に表現した数学的モデルの考え方について理解する。 日常生活や社会生活などの様々な問題場面に潜む変量間の関係を見いだす関数モデルについて理解する。 身の回りで起こる不確実な要素を含む現象を確率を用いて表現する確率モデルについて理解する。	ある仮定に基づく数学的モデルを用いて、ポップコーンを買うまでの待ち時間を求めることができる。 フレッシュジュースの販売数と日ごとの最高気温を変量として関数モデルを考え、回帰直線を使って販売数を予測することができる。 貸し出した自転車がそれぞれのポートにどのような確率で返却されるかを、実験データをもとに確率モデルをつくって求めることができる。	ある仮定に基づく数学的モデルを用いて、ポップコーンを買うまでの待ち時間について考察することができる。 フレッシュジュースの販売数について、過去の販売数と日ごとの最高気温を変量とした関数モデルを用いて考察することができる。 貸し出した自転車がそれぞれのポートにどのような割合で返却されるかという実験データをもとにした確率モデルを用いて、それぞれのポートに何台の自転車を設置すればよいかを考察することができる。	ある仮定に基づく数学的モデルを用いて、ポップコーンを買うまでの待ち時間について考えようとしている。 フレッシュジュースの販売数について、過去の販売数と日ごとの最高気温を変量とした関数モデルを用いて考えようとしている。 貸し出した自転車が各ポートにどのような割合で返却されるかという実験データをもとにした確率モデルを用いて、それぞれのポートに何台の自転車を設置すればよいかを考えようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
数学	数学C	数C702	東京書籍	数学C Standard

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験
1章 ベクトル	平面上や空間におけるベクトルを図示する活動などを通して、ベクトルの意味, 相等, 和, 差, 実数倍, ベクトルの平行及び単位ベクトルについて理解する。 成分表示を利用してベクトルの大きさを求めることやベクトルの演算や平行・分解などについての理解を深める。 2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解し、それらの性質を用いてベクトルのなす角や大きさなどを求めることができる。 位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示, 内積の基本的な性質などを用いて、図形の性質を見いだしたり, 多面的に考察したりすることができる。	ベクトルの成分表示について理解し, それを用いてベクトルの大きさを求めたり, ベクトルの演算を行ったりすることができる。 ベクトルの内積の定義について理解し, 図形と関連付けたり成分を用いたりして内積の値を求めることができる。 ベクトル方程式の概念について理解し, 直線のベクトル方程式を求めることができる。 平面上のベクトルの考えを空間に拡張して, 空間ベクトルの概念やその基本的な演算法則について理解している。	ベクトルの演算について, 実数の演算法則と関連付けてその類似性について考察したり, ベクトルの演算法則が成り立つことを表現したりすることができる。 平面上のベクトルの基本ベクトル表示と関連付けて, 成分表示されたベクトルの演算とその法則について考察することができる。 線分の内分点や外分点の位置ベクトルについて, ベクトルの基本的な性質を利用して考察することができる。 ベクトルの基本的な性質を用いて, 異なる2点を通る直線のベクトル方程式について考察することができる。	ベクトルの演算について, 実数の演算法則と関連付けてその類似性について考察しようとしたり, ベクトルの演算法則が成り立つことを表現しようとしたりしている。 線分の内分点の位置ベクトルについて, ベクトルの基本的な性質を利用して考察しようとしている。 平面ベクトルの演算法則と対比して, 成分表示された空間ベクトルの演算について考察しようとしている。
2章 平面上の曲線	放物線, 楕円, 双曲線の定義とその方程式について, 条件を満たす点の軌跡の考え方をを用いて考察し, それらの曲線の基本的な性質について理解する。 2次曲線と直線の共有点について, 2次方程式の実数解の考え方をを用いて考察することができる。また, 2次方程式の判別式を用いて, 2次曲線と直線の共有点の個数を求めたり, 2次曲線の接線の方程式を求めたりすることができる。 直交座標と極座標の関係及び極方程式について理解する。また, 直交座標で表された図形の方程式を極方程式で表すことができる。	放物線, 楕円, 双曲線について, それらの方程式を定義に基づいて軌跡の焦点や頂点, 準線, 漸近線といったそれらの図形的な特徴と, それらの方程式の関係について理解している。また, これらの曲線がいずれも x と y の2次方程式で表されることを理解している。 曲線の媒介変数表示について理解している。また, 媒介変数表示された曲線の方程式を求めたり, 2次曲線を媒介変数表示したりすることができる。 直交座標と極座標の関係について理解している。また, 平面上の曲線の極方程式と直交座標の方程式を相互に変換することができる。	2次曲線と直線の共有点の個数や接線について, 2次方程式の判別式を利用して考察することができる。	2次曲線と直線の共有点の個数や接線について, 2次方程式の判別式を利用して考察しようとしている。
3章 複素数平面	複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また, 複素数の実数倍や, 和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。 複素数の極形式を理解し, $a+bi$ の形の複素数を極形式で表すことができる。また, 複素数の積・商と複素数平面上の回転移動との関係を理解する。	複素数平面上の各点が複素数を表していることを理解している。 複素数の実数倍や, 和や差の図形的な意味を理解している。 複素数の積と回転の性質について理解し, それを利用して複素数平面上の点と点の位置関係を調べたり, 原点を中心として回転移動させた点を表す複素数を求めたりすることができる。 ド・モアブルの定理を利用して任意の複素数の累乗を計算したり, 方程式 $z^n=\alpha$ の解を求めたりすることができる。	複素数の和や差を, 平面上の点の平行移動と関連付けて考察し, それらの演算の意味を考察することができる。 複素数の積や商の図形的な意味について, $z=1+i$ の累乗の複素数平面上的での位置を通して考察することができる。	複素数の和や差を, 平面上の点の平行移動と関連付けて考察したり, それらの演算の意味を考察したりしようとしている。 複素数の和や積の図形的な意味を利用して, 複素数平面上的図形の平行移動や回転移動について考察しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	科学と人間生活	科人705	第一学習社	高等学校 科学と人間生活

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント
序章 科学技術の発展	情報伝達技術・エネルギー資源活用・交通手段・医療技術などの科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。	・医療の発展に貢献した多くの科学者の業績と、人間生活に対する貢献についての過程を理解している。	・印刷技術の発展から、電話の発明、電磁波を利用した無線通信の開発、テレビの開発、インターネットなど、情報伝達技術が開発された過程について説明できる。 ・AIやIoTなど科学技術の発展に伴って表現されるようになった略称について、その意味と開発された過程を科学的に思考できる。 ・蒸気機関や内燃機関などの科学技術の進展から人間生活が劇的に変化した過程、および交通手段の発達過程やそれを実現した科学者の業績について説明できる。	・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
第Ⅰ章 物質の科学 第2節 衣料と食品	身近な繊維の分類とその製法、食品中の主要栄養素について理解を深める。	・身のまわりにある繊維について、繊維の種類と性質、用途について理解している。 ・炭水化物の分類と構造、性質とはたらきを理解している。 ・タンパク質の構造や性質、はたらきを理解している。 ・脂質の構造やはたらきを理解している。 ・無機塩類やビタミンの役割を理解している。	・天然繊維の化学的性質の違いや構造上の特徴から、用途の違いについて考察することができる。 ・化学繊維の種類、性質と構造の違いから、用途について理解している。 ・食物中の栄養素と、それが体内に取りこまれる過程および体内におけるはたらきについて表現できる。	・無機塩類やビタミンの役割に興味を抱き、活用事例について主体的に思考しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
第Ⅱ章 生命の科学 第2節 微生物とその利用	微生物の働きを、食品や医療など人間生活と関連付けて幅広く理解する。	・身のまわりには多様な微生物が存在することを理解している。 ・自然界のどのような場所にどのような微生物が生息しているか、どのような役割を果たしているかを理解している。 ・生態系内の微生物のはたらきと役割について理解している。 ・発酵と腐敗の違い、発酵が人間生活に役立ってきた歴史、食品の製造への利用について理解している。	・微生物の発見の科学的な経緯とその人物について説明できる。 ・微生物が、抗生物質やワクチンの製造に利用されることを過去の研究者の業績を通して説明できる。 ・微生物の利用の広がりについて論理的に考察できる。	・実験に積極的に参加し、実験結果から主体的に考察することができる。 ・発酵食品に対して興味を抱き、発酵の現象や、発酵の応用について主体的に理解しようとする。 ・日常生活への微生物の応用に興味をもち、医薬品への利用や、これからの微生物の利用について主体的に思考しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用	熱の性質、エネルギーの変換や有効利用について、日常生活に関連付けて理解を深める。	・セルシウス温度と絶対温度の違いについて理解している。 ・エネルギーの移り変わりとエネルギーの保存について理解している。	・物体の熱量や熱容量を計算することができる。 ・熱伝導、対流、熱放射、および状態変化と熱について説明することができる。 ・仕事と熱、電流と熱の関係についてそれぞれ説明できる。 ・ジュールの法則の式から、電力量や電力を求めることができる。 ・エネルギー資源の有効活用について、可逆変化と不可逆変化、熱機関、熱効率、永久機関について説明できる。	・身近で体感する温度に大いに興味をもち、熱量の保存や比熱、熱の伝わり方などの、熱の性質について主体的に理解しようとする。 ・エネルギー資源に関心を抱き、身の回りの省エネルギーの試みや、代替エネルギーの開発に関する知識を主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害	地震活動や火山活動を、身近な自然景観の成り立ちと自然災害に関連付けて、理解を深める。	・日本列島と、その付近のプレートの動きを理解している。 ・気象災害と防災について理解している。	・日本列島の多様な景観は、地球内部のエネルギーと太陽放射のエネルギーの作用で形成されたものであることを考察できる。 ・日本の火山活動や火山災害について論理的に判断できる。 ・マグマの性質や噴火の様式によって火山の形が決まることを論理的に説明できる。 ・日本列島の地震活動と地震の発生のしくみについて論理的に判断できる。 ・河川や海水のはたらきによって多様な景観ができることを考察できる。 ・気象災害と防災について説明できる。	・地震に関心をもち、地震の発生するしくみを主体的に理解しようとする。 ・火山災害や地震災害、気象災害に関心を抱き、これらのおこるしくみや防災について主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
第Ⅴ章 これからの科学と人間生活	課題の設定と研究・発表の進め方について理解を深め、これからの科学と、人間生活との関わり方について認識を深める。	・新機能を備えたプラスチックや繊維について理解している。	・具体的な課題の研究・調査を始めるにあたって、課題の設定から研究計画の立案、研究の実施、およびレポートの作成、プレゼンテーションまでの展開を説明できる。 ・プレゼンテーションソフトを活用するための留意点について説明できる。 ・発酵食品における微生物の利用について説明できる。 ・実験上の注意事項について応急処置方法を説明できる。	・インターネットや文献などを主体的に活用し、人工衛星とその活用事例を主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	物理基礎	物基902	東京書籍	改訂 新編物理基礎

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント 単位認定試験	レポート 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 行動観察 課題プリント 単位認定試験
1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	物理量の測定と扱い方、運動の表し方、直線運動の加速度について基礎的基本的事項を理解する。	・速さと速度、距離と変位の違いを理解し、使い分けことができる。 ・合成速度と相対速度について理解している。 ・等加速度運動について、基本公式とx-tグラフ、v-tグラフを理解している。 ・等加速度運動の一部として落下運動を理解している。	・合成速度と相対速度について、和や差の求め方を説明することができる。 ・等加速度運動について、基本公式とx-tグラフ、v-tグラフを使い、相互に結びつけ、運動を説明することができる。 また、代入計算ができる。 ・落下運動について運動を垂直な2方向に分け、それぞれ分析することができる。	・すれ違う列車の運動の錯覚を相対速度の考え方を使って主体的に自分の言葉で説明することができる。 ・水平投射など鉛直平面内の運動を2方向に分解して自分の言葉で主体的に説明することができる。 ・等加速度直線運動について、実験を通じて主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
1編 物体の運動とエネルギー 2章 力と運動の法則	さまざまな力、力のつり合い、運動の法則、摩擦について基礎的基本的事項を理解する。	・力の3要素を理解している。 ・代表的な力について名称と力の性質を理解している。 ・フックの法則を理解し、式を活用することができる。 ・静止摩擦、最大静止摩擦、動摩擦について理解している。	・様々な場面で物体にはどのような力がはたらいているか判断することができる。 ・力の分力、合力を正しく作図し、説明することができる。 ・運動方程式を正しく立式し、加速度などを求めることができる。 ・3つの摩擦について、違いを理解し、具体的な場面でどの摩擦がはたらくのかを判断し、その大きさを求めることができる。	・空気抵抗について、主体的に自分の言葉で説明することができる。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
1編 物体の運動とエネルギー 3章 力学的エネルギー	力学的エネルギーについての観察、実験などを通して、運動エネルギーと位置エネルギー、力学的エネルギーの保存について理解する。	・仕事の定義を正しく理解している。 ・仕事率の意味からその定義を考慮することができる。 ・運動エネルギー、重力による位置エネルギー、ばねの弾性力による位置エネルギーの表し方が理解できる。 ・エネルギー保存則について理解している。	・力の向きと移動方向が異なる時の仕事について説明することができる。 ・運動エネルギーと仕事の関係を説明することができる。 ・運動エネルギー、重力による位置エネルギー、ばねの弾性力による位置エネルギーについて説明し、立式することができる。 ・力学的エネルギー保存則について説明し、立式することができる。	・摩擦等により、力学的エネルギー保存則が成り立たない場合、エネルギーの行方について主体的に調べ、説明することができる。 ・位置エネルギーと運動エネルギーについて実験を通じて主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱	熱と温度、熱の利用について日常生活と関連性を持たせて理解する。	・温度は分子や原子の熱運動がもとになっていることを理解している。 ・絶対温度の意味と利点を理解している。 ・絶対温度とセルシウス温度の相互変換ができる。 ・熱平衡、熱運動と状態変化、熱量の保存について理解している。	・さまざまな温度変化について、熱量、比熱容量の定義を正しく理解し、立式し、算出することができる。 ・熱量保存則が説明できて、比熱容量を求めることができる。 ・水の状態変化と熱運動について、説明することができる。	・内部エネルギーの増加方法について主体的に調べ、説明することができる。 ・熱力学の第1法則を主体的に調べ、説明することができる。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
2編 さまざまな物理現象とエネルギー 2章 波	波の性質、音と振動について日常生活と関連性を持たせて理解する。	・波の伝わり方について理解している。 ・波の基本式を理解している。 ・振動数と周期の対応を理解している。 ・音波について理解している。	・y-xグラフから波の動きをイメージすることができる。また、波の要素を読み取ることができる。 ・y-xグラフ、y-tグラフの意味と読み取りができる。 ・波の重ね合わせの原理を説明し、定在波などの変位を求めることができる。	・波の重ね合わせの原理を使って、ノイズキャンセルの仕組みについて主体的に調べ、説明することができる。 ・波の反射について主体的に調べ、説明することができる。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。
2編 さまざまな物理現象とエネルギー 3章 電気 4章 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く世界	物質と電気抵抗、電氣の利用、さまざまなエネルギーの特性や利用、放射線の種類や性質、放射性物質の基本的な性質について理解する。	・静電気と電流について理解している。 ・電流、電圧と電気抵抗について理解している。 ・不導体、半導体について理解している。 ・電磁誘導で用いる用語と、具体的な電磁誘導の例から誘導電流の向きや大きさを答えることができる。	・複雑な回路における電流と電圧、合成抵抗について説明し、算出することができる。 ・電力と電力量、ジュールの法則について説明し、立式することができる。	・放射性物質、電磁波の種類と利用例を主体的に調べ、説明することができる。 ・いろいろなエネルギーについて主体的に調べ、説明することができる。 ・身近なエネルギーの特性や活用に大いに興味をもち、主体的に理解しようとする。 ・メディア教材を通して、主体的に理解しようとする。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	化学基礎	化基712	第一学習社	高等学校 新化学基礎

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
第1回 序章 化学と人間生活 第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	化学と人間生活とのかかわりについて関心を高め、身の回りのものと関連させ物質を探究する方法、基礎知識を身に付けさせる。	身近な物質を取り上げ、単体や化合物について理解させる。	身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離したり、生成したりする実験を取り上げ、実験における基本操作と物質を探究する方法を説明できる。物質の分離・精製と関連付けて、実証性、再現性、客観性などに触れて、考えることができる。	元素の周期律及び原子の電子配置と周期症の族や周期との関係性を学習できている。
第2回 第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解させる。	物質の分離や精製の実験を通じ、実験における基本操作と物質を探究する方法を理解している。	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を説明できる。元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係性について説明できる。	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質について学習できている。原子番号、質量数及び同位体について学習できている。
第3回 第Ⅰ章 物質の構成 第2節 化学結合 第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式	原子の構造及び化学結合の関係を理解させる。物質の性質について観察などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。またイオンケチ号及びイオン結合でできた物質を理解している。物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解している。化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係性を表すことを見出して理解している。	イオンの生成を電子配置と関連付けて考えられる。またイオン結合及びイオン結合でできた物質の性質について説明できる。共有結合を電子配置と関連付けて考えることができる。また、分子からなる物質の性質について説明できる。金属の性質及び金属結合について考えれる。	共有結合については、共有電子対を形成した結合である事を学習し、共有結合でできた物質は分子からなる物質と共有結合の結晶となることを学習できている。また、分子からなる物質は、分子式や構造式で表すことができることが学習できている。
第4回 第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式	物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。	物質量と粒子数、質量、気体の体積との関係性について理解できている	物質量と化学反応式について物質量、化学反応式について思考、判断、説明することができるか。物質量と粒子数、質量、気体の体積について計算できる。	粒子の数に基づく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量の関係性について学習できている。物質量とその単位である「モル」を導入し、原子量、分子量、式量との関係が学習できている。指数、指数関数、指数法則、累乗に関して学習ができている。
第5回 第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸・塩基とその反応	物質の性質について探究し、化学結合の関係を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通じて、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解している。	物質量と化学反応式について物質量、化学反応式について思考、判断、説明することができるか。物質量と粒子数、質量、気体の体積について計算できる。	酸や塩基の性質及び中和反応に関する物質の量的関係を学習できている。
第6回 第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸・塩基とその反応 第3節 酸化還元反応	酸化と還元が電子の授受によることを理解し、酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。	酸化と還元が電子の授受によることを理解している。金属の種類によってイオンへのなりやすさがこととなることや、電池の基本的なしくみについて理解している。	中和反応について、酸や塩基の価数と物質量との関係を扱う。その際、反応する酸や塩基の強弱と生成する塩の性質との関係性について考えれる。中和反応に関する物質の量的関係について考えれる。また、中和滴定の実験の器具の扱いや滴定操作における基本的なことについて考えることができる。	酸や塩基については、水素イオンの授受による定義や、酸や塩基の強弱と電離度の大小との関係について考えることができる。またPHと水素イオン濃度や水の電離との関係が学習できている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	化学a	化学701	東京書籍	化学Vol.1 理論編

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
0編 人間生活のなかの化学 1編 物質の状態 1章 物質の状態 2章 気体の性質	・化学が果たす役割について、理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・物質の三態に於けるそれぞれ特徴、気体の状態方程式について理解する。	・中学校や化学基礎の知識を元に、性質や特徴を理解している。 ・融解凝固、蒸発、凝縮を粒子の熱運動と拡散から説明できることを理解している。 ・気液間の平衡や、沸騰について状態変化を用いて説明できる。 ・蒸気圧曲線の見方を理解できる。 ・ボイルの法則とシャルルの法則を理解している。	・物質の融点、沸点を粒子間に働く引力と関連付けて考えることができる。 ・仮説を立てて、実験の過程を注意深く観察し、それに伴う変化を科学的に考察している。 ・ボイル・シャルルの法則が、ボイルの法則とシャルルの法則から導かれることを考え、表現できる。 ・気体の状態方程式を、気体の質量とモル質量を用いて変形できる。	学習を参考に、日常生活の中の物質について考えようとしている ・中学校や化学基礎での学習を参考に、日常生活の中の物質について考えようとしている。 ・固体、液体、気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいを説明しようとしている。 ・熱気球が浮かぶ理由を、気体の性質から考えようとしている。 ・アボガドロの法則とボイル・シャルルの法則を結びつけられないか考えようとしている。
1編物質の状態 3章 溶液の性質 4章 個体の構造	・物質の溶液における状態と化学反応後の結晶の種類・性質・構造について理解する。	・質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度について、その計算方法を理解している。 ・蒸気圧について理解し、溶液の場合、蒸気圧降下が起こることを説明できる。 ・ファントホッフの法則から分子量を求める方法を理解している。 ・コロイド粒子について、その性質を理解している。 ・単位格子と配位数について理解している。 ・イオン結晶の単位格子に含まれるイオンの数と配位数について理解している。 ・共有結合の結晶の例としてダイヤモンドの単位格子と密度、充填率について理解している。	・溶解のしくみを極性の有無から見いだすことができる。 ・気液間の平衡と同様に、溶解平衡の仕組みについて見いだすことができる。 ・水和水を含む再結晶について考えることができる。 ・蒸気圧降下から沸点上昇を説明し、凝固点降下についても仮説を立てて考えることができる。 ・コロイド溶液の実験を元に、その性質と現象について考察している。 ・単位格子の一辺の長さや原子半径の関係について、数学的に考えている。 ・イオン半径と結晶の安定性について科学的に考えている。	・炭酸飲料と減圧症を例に、生活の中の気体の溶解について、学習したことを元に考えようとしている。 ・寒剤の仕組みと逆浸透について理解しまとめる。 ・疎水コロイドと親水コロイド、保護コロイドについてそれぞれの性質をまとめ、科学的に理解しようとしている。 ・結晶の種類についてその特徴とともに説明しようとしている。 ・面心立方格子と六方最密構造モデルを作り、その特徴について理解しようとしている。 ・金属結晶とイオン結晶の違いについて構成粒子から考えようとしている。
2編 化学反応とエネルギー 1章 化学反応と熱・光	物質の化学反応におけるヘスの法則などについて理解する。	・反応エンタルピーとその符号について表し方を説明できる。 ・反応エンタルピーの種類を説明できる。 ・ヘスの法則を説明できる。 ・結合エンタルピーについて説明できる。 ・光が波であることを理解している。 ・化学発光について例を挙げて説明できる。	・反応エンタルピーの表し方をもとに、状態変化について表すことができる。 ・生成エンタルピーの値から反応エンタルピーの求め方を考えることができる。 ・ヘスの法則を利用して実測の難しい反応エンタルピーを求める方法を考えることができる。	・エントロピーとエンタルピーの違いを理解しようとしている。 ・ヘスの法則についての実験を行い、化学的に探究しようとしている。 ・ルミノール反応についての実験を行い、身の回りでのどのように活用されているか、友達と話し合っている。
2編 化学反応とエネルギー 2章 電池と電気分解	・化学反応を利用し電気エネルギーを利用する電池などの仕組みについて理解する	・電池の基本的な仕組みを理解し、ダニエル電池の仕組みについて説明 できる。 ・主な実用電池の構造について、電極の反応式をもとに説明することができる。 ・電池と電気分解の違いについて説明し、電気分解の酸化還元反応について説明できる。 ・ファラデーの電気分解の法則を電極の反応式を使って説明できる。	・各電極の反応式を表し、電極の質量変化について考えようとしている。 ・ファラデー定数を使って電気量と物質量の関係について説明できる。	・ダニエル型電池の作成を通して、標準電極電位の値から得られる起電力の大きさを予想し、実験結果を科学的に考察できる。 ・電気分解の工業的な利用について、友達と意見交換しながら理解しようとしている。
3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡・可逆反応と化学平衡	・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解する。	・反応物、生成物それぞれの反応の速さの表し方を理解している。 ・反応速度を変える様々な条件を理解している。 ・活性化エネルギーと化学反応の経路について説明できる。 ・可逆反応、不可逆反応などの用語を正しく使って説明できる。 ・平衡定数Kの表し方と使い方を説明できる。	・反応物の分解速度と生成物の生成速度の正しい表し方を見いだそうとしている。 ・平衡状態について、見いだすことができる。 ・気体物質の平衡状態にある場合、気体の状態方程式を変形して、圧平衡定数Kpと濃度平衡定数Kcの関係式をつくることができる。	・反応速度に関する実験を行うことで、分解速度を計算し、反応速度と濃度の関係を科学的に探究しようとしている。 ・触媒が化学工業の発展に関わった歴史について学習したことを元に考えようとしている。
3編 化学反応の速さと平衡 2章 化学平衡・平衡の移動 3章 水溶液中の化学平衡	・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解する。水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解する。	・可逆反応、不可逆反応などの用語を正しく使って説明できる。 ・平衡定数Kの表し方と使い方を説明できる。 ・ルシャトリエの原理を理解している ・圧力変化による平衡移動や、濃度変化における平衡の移動を説明することができる。 ・酸の電離定数について、酢酸を例に電離平衡の式を使って説明できる。 ・弱酸の電離度αが1よりかなり小さい場合の近似を理解することができる。 ・水のイオン積から、pHを求めることを理解する。 ・緩衝液についてその特徴を説明できる。 ・溶解度積が沈殿生成に影響していることを理解する。	・温度一定で、化学反応が平衡状態にあるとき、ある成分濃度を変化させたときの平衡移動を理解し、その平衡定数は前後で等しくなることを説明できる。 ・ハーバー・ボッシュ法をルシャトリエの原理を使って圧力と温度の違いから説明できる。 ・塩基の電離定数について、アンモニアを例に酸の場合を元に式をつくることができる。 ・近似した式を使って、電離度α、水素イオン濃度を表し、弱塩基についての式変形も同様に説明することができる。 ・正塩の水溶液の性質を、科学的に説明することができる。 ・酢酸水溶液と水酸化ナトリウム水溶液の中和反応からpH変化を緩衝作用という言葉を利用して説明できる。	・平衡移動に関する実験を行い、濃度や温度の変化によって化学平衡がどのように移動するか科学的に見いだすことができる。 ・弱酸の電離定数に関する実験を行い、電離定数Kaの値や、濃度変化と電離度の関係を、強酸との違いを元に考えようとしている。

【評価基準】 A：十分達成している B：概ね達成している C：努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	化学b(化学)	化学702	東京書籍	化学 Vol.2 物質編

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物 3章 典型金属元素の単体と化合物	・典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解する。 ・無機物質について、非金属元素のことを理解する。 ・無機物質について、典型金属元素のことを理解する	・周期表中の元素を正しく分類することができる。 ・水素・酸素の製法・性質・用途を正しく理解している。 ・ハロゲンの単体について正しく理解している。 ・ハーバー・ボッシュ法について説明できる。 ・炭素の酸化物について、正しく理解している。 ・水酸化ナトリウムの製法・性質を正しく理解している。 ・アルカリ土類金属の特徴を正しく理解している。	・周期表の族を元に水素化合物の分子の形を理解しようとしている。 ・18族の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。 ・ヨウ化カリウムデンプン紙が酸化作用の確認に使われることを説明できる ・オキソ酸の特徴を理解し、その性質を正しく説明できる。 ・アンモニアソーダ法についてその特徴を正しく理解し、原料と生成物を確認して問1を解くことができる。	・IUPACの分類方法を知ろうとしている。 ・フッ化水素が他のハロゲン化水素と性質が異なる理由を考えようとしている。 ・炭素の同素体の特徴を正しく理解しようとしている。
4章 遷移元素の単体と化合物 5章 金属イオンの分離と確認	・無機物質について、遷移元素のことを理解する。 ・無機物質について、金属イオンの分離と確認のことを理解する。	・錯イオンの基本的な表記法について正しく理解している。 ・鉄とその化合物、鉄イオンの反応について、正しく理解している。 ・ Cu^{2+} Ag^{+} Zn^{2+} の反応について、正しく理解している。 ・クロム酸イオンの反応について、正しく理解している。	・遷移元素と典型元素の違いを説明することができる。 ・アルミニウムと亜鉛の特徴について、比較しながら理解することができる。 ・複数の金属イオンの混合溶液から金属イオンを効率よく分離する方法について、その手順を考えている。	・レアメタルについて、自ら調べてみようとしている。 ・金属イオンの沈殿反応について、これまでの学習を元に、まとめ理解しようとしている。
5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造 2章 炭化水素	・有機化合物について、理解する。 ・有機化合物について、炭化水素のことを理解する。	・有機化合物の特徴を正しく理解している。 ・直鎖状アルカンの名称を正しく理解している。 ・アルカンの性質を正しく説明できる。 ・アルカンを元にアルケンの名称や構造について理解することができる。 ・アルキンの名称や構造を理解することができる。	・有機化合物の特徴を無機物質との違いを比較しようとしている。 ・アルカンの構造異性体について理解している。 ・アルケンの反応を理解することができる。	・不飽和炭化水素がプラスチックをはじめとする、さまざまなものの原料となっていることを意見交換できる。 ・分子模型を使って、不飽和炭化水素の特徴を理解しようとしている。
3章 アルコールと関連化合物	・有機化合物について、官能基をもつ化合物のことを理解する。	・アルコールの構造と分類方法を正しく説明できる。 ・アルコールの酸化反応について、正しく理解し、生成物を答えられる。	・アルコールの構造の特徴を元に反応を正しく説明することができる。 ・油脂とは何か、構造とともに正しく説明することができる。 ・セッケンの特徴をこれまでの学習を元に、理解しようとしている。	・エタノールの殺菌効果を正しく理解しようとしている。 ・アルコールとエーテルの違いを理解しようとしている。 ・これまでの学習を元に、カルボン酸について理解しようとしている。
4章 芳香族化合物 6編 高分子化合物 1章 高分子化合物とは何か	有機化合物について、芳香族化合物のことを理解する 高分子化合物について、理解する。	・芳香族化合物とは何か理解し、代表的な芳香族炭化水素を答えられる。また、その反応について、正しく理解している。 ・フェノール類の名前を正しく理解している。 ・芳香族カルボン酸の性質を正しく理解している。	・ベンゼンの構造について、炭素間結合距離の学習を元に理解しようとしている。 ・フェノール類の性質について、同じOH基を持つアルコールと比較したり、酸の強弱を考えたりするなどして、正しく理解している。	・ベンゼンの構造式について、その歴史を知ろうとしている。 ・ベンゼンからニトロベンゼンの合成実験を通して、それぞれの特徴を理解しようとしている。
2章 天然高分子化合物 3章 合成高分子化合物 7編 化学が果たす役割 1章 化学的性質の利用と工業的製法 2章 未来を創る化学	・高分子化合物について、天然高分子化合物のことを理解する。 ・人間生活の中の化学について、様々な物質と人間生活のことを理解する。 ・人間生活の中の化学について、化学が築く未来のことを理解する。	・糖の基本的な表し方、構造、特徴について正しく理解している。 ・デンプンの構造について正しく理解している。 ・タンパク質の分類について正しく説明できる。 ・タンパク質の構造について正しく理解している。 ・タンパク質の呈色反応について正しく理解している。 ・天然ゴムについて、その特徴を正しく理解している。 ・合成ゴムについて、その構造も含めて正しく理解している。	・単糖類との関係を考えながら分子式を答えられる。 ・セルロースとデンプンの相違について考えることができる、 ・酵素の性質について、無機触媒との違いを考えている。 ・ビニロンの製法について、これまでの学習から正しく理解しようとしている。 ・熱硬化性樹脂について、熱可塑性樹脂との違いを元に考えることができる。 ・イオン交換樹脂の利用と再生について、構造から説明しようとしている。	・デンプンに関する実験を行い、糖の加水分解について正しく理解しようとしている。 ・天然繊維についてそれぞれの例を知ろうとしている。 ・すべての生物の細胞に含まれている核酸について、その構造とはたらきを知ろうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	生物基礎	生基711	第一学習社	高等学校 新生物基礎

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート・視聴報告書 スクーリング課題プリント 単位認定試験	レポート・視聴報告書 スクーリング課題プリント 単位認定試験	レポート 行動観察 スクーリング課題プリント
観察・実験・調査の手引き 第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 第2節 生物とエネルギー	顕微鏡の正しい使い方を理解する。 生物は多様でありながら、共通性を持っていることを理解する。 生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。	・顕微鏡を用いた観察方法を正しく理解している。 ・マイクロメーターを用いて観察物の大きさを測定することができる。 ・植物細胞の細胞の構造とその働きを理解している。 ・ATPが、代謝でエネルギーが出入りする際の仲立ちになっていることを、理解している。 ・光合成と呼吸それぞれの反応の概要を理解している。	・顕微鏡写真をもとに、細胞の形態的な特徴や大きさの違いをスケッチで表現することができる。 ・脊椎動物の各グループに共通する特徴が、進化の過程のどの時点で現れたかを推測することができる。	・顕微鏡写真をもとに、細胞の形態的な特徴や大きさの違いをスケッチする場合、主体的に時間と作業、技量を考え見通しをもって取り組むことができる。 ・生物にみられる共通性の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。
第 2 章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解する。DNAの研究史とあわせてDNA・RNAの構造と遺伝子発現までの流れを理解する。	・染色体、DNA、遺伝子の関係性を理解している。 ・形質の多くは遺伝子によって決まること、および真核生物の染色体はDNAとタンパク質からなることを理解している。 ・DNAは、塩基の相補性にもとづいて結合した2本のヌクレオチド鎖からなり、二重らせん構造をとることを理解している。 ・複製されたDNAには、元のDNAの一方のヌクレオチド鎖がそのまま受け継がれていることを理解している。 ・RNAのヌクレオチドを構成する物質を理解している。さらに、RNAは1本のヌクレオチド鎖からなることを理解している。 ・多くの生物では生殖細胞に1組のゲノムが含まれることを理解している。	・DNAの構造に関する資料から、特定の塩基どうしが対になって結合していることに気づき、自分の言葉で説明することができる。 ・DNAの複製のようすを表した資料から、塩基の相補性にもとづいてヌクレオチドが鋳型鎖に結合していくことで、DNAが半保存的に複製されることに気づき、説明することができる。 ・DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列に関する資料から、1つのアミノ酸にはDNAの3つの塩基の並びが対応することを推測することができる。	・形質の多くは遺伝子によって決まることを主体的に理解しようとしている。 ・遺伝情報とDNAの学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 ・タンパク質の構造と働きの学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。
第 3 章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達 第2節 免疫	体内環境の維持に深く関与する体液の組成と働き、臓器の役割を理解する。 自律神経、ホルモンがそれぞれ体内環境の調節にどのように関わっているかを理解する。 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 ヒトが病原体から身を守る方法、免疫のしくみを理解する。	・ヒトの体内環境は安定に保たれていることを理解している。さらに、体液が体内環境であることを理解している。 ・神経系の働き、およびヒトの神経系の構成を理解している。 ・ホルモンによる作用は、効果が現れるまでに時間がかかり、持続性があることを理解している。 ・ホルモン分泌は一般的に負のフィードバックにより調節されることを、チロキソンの分泌調節と関連づけて理解している。 ・血糖濃度調節に関わるホルモン、自律神経系、細胞・組織・器官の働きを理解している。 ・血液凝固の流れを理解している。さらに、血液の成分とその働きを理解している。	・資料にもとづいて、健康なヒトとインスリンを正常に分泌できないヒトの違いを説明することができる。さらに、インスリンの働きを考察することができる。 ・資料にもとづいて、1回目と2回目の抗原注射後の抗体産生量、および産生速度の違いを説明することができる。さらに、同じ感染症にかかりにくい理由を考察することができる。	・免疫と疾病、免疫と医療の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。 ・実験を通して、情報の伝達、神経系の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。
第 4 章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 第2節 生態系とその保全	植物の生育・植生と環境との関係性を理解する。バイオームと気温・降水量との関連性、バイオームの特徴について理解する。 生態系の構成について理解する。 身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく。 生物は、食物連鎖によりつながっていて相互作用があることを理解する。	・森林・草原・荒原の各植生の特徴を優占種と関連づけて理解している。 ・光補償点、光飽和点や、任意の光の強さにおける光合成速度と呼吸速度の関係を理解している。 ・遷移初期の環境と先駆種の特徴を理解している。 ・遷移初期と後期に遷移が進む要因としくみについて理解している。 ・森林、草原、荒原にみられるバイオームの種類やその特徴を十分に理解している。 ・日本では主に気温によって分布するバイオームが決まることを、降水量と関連づけて理解している。 ・生産者と消費者について理解している。さらに、分解者についても理解している。 ・捕食者と被食者の個体数は周期的に変動することを理解している。	・伊豆大島における、溶岩の噴出年代が異なる地点の植生・環境調査の結果をもとに、遷移の進行が光環境と土壌の状態に左右されることを考察することができる。 ・バイオームの分布と気候の違いを示した資料から、その地域のバイオームの形成には、年平均気温や年降水量が重要な要因となっていることを読み取ることができる。 ・森林の土壌動物の観察から、森林の土壌にはさまざまな種類の生物がみられることに気づくことができる。 ・オオクチバスが在来種に与える影響を調べ、オオクチバスの侵入が在来種の減少に関係していることを考察することができる。 ・ダム建設が、河川を遡上して産卵する魚類に与える影響を予測することができる。	・生態系の学習において、見通しをもって取り組んだり、学びを振り返ったりするなど、自らの考えを調整しながら理解しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
理科	生物a	生物701	東京書籍	生物

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
1編 生命の進化 1章 生命の起源と細胞の進化	・生物の進化について、生命の起源と細胞の進化のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現する。 ・生命の起源と細胞の進化に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現している。	生命の起源と細胞の進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
1編 生物の進化 章 遺伝子の変化と進化のしくみ	2 生物の進化について、遺伝子の変化と進化のしくみのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。	生物の進化について、遺伝子の変化と進化のしくみの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子の変化と進化のしくみについての特徴を見いだして表現している。	遺伝子の変化と進化のしくみに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
1編 生物の進化 3章 生物の系統と進化	生物の進化について、生物の系統と進化のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の系統と進化についての特徴を見いだして表現する。 ・生物の系統と進化に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生物の進化について、生物の系統と進化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の系統と進化についての特徴を見いだして表現している。	生物の系統と進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	生命現象と物質について、細胞と分子のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、細胞と分子についての特徴を見いだして表現する。 ・細胞と分子に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生命現象と物質について、細胞と分子の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、細胞と分子についての特徴を見いだして表現している。	細胞と分子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
2編 生命現象と物質 2章 代謝とエネルギー	生命現象と物質について、代謝のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、代謝についての特徴を見いだして表現する。 ・代謝に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生命現象と物質について、代謝の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、代謝についての特徴を見いだして表現している。	代謝に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	遺伝情報の発現と発生について、遺伝情報とその発現のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とその発現についての特徴を見いだして表現する。 ・遺伝情報とその発現に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	遺伝情報の発現と発生について、遺伝情報とその発現の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とその発現についての特徴を見いだして表現している。	遺伝情報とその発現に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価規準

教科	科目	教科書番号	出版社
理科	生物b	生物701	東京書籍

学習内容	到達目標	評価規準	
		知識・技能	思考・判断・表現
		(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験
3編 遺伝情報の発現と発生 2章 発生と遺伝子発現	遺伝情報の発現と発生について、発生と遺伝子発現のことを理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・遺伝情報の発現と発生について、観察, 実験などを通して探究し、発生と遺伝子発現についての特徴を見いだして表現する。 ・発生と遺伝子発現に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	遺伝情報の発現と発生について、発生と遺伝子発現の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝情報の発現と発生について、観察, 実験などを通して探究し、発生と遺伝子発現についての特徴を見いだして表現している。
3編 遺伝情報の発現と発生 3章 遺伝子を扱う技術	遺伝情報の発現と発生について、遺伝子を扱う技術のことを理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・遺伝情報の発現と発生について、観察, 実験などを通して探究し、遺伝子を扱う技術についての特徴を見いだして表現する。 ・遺伝子を扱う技術に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	遺伝情報の発現と発生について、遺伝子を扱う技術の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝情報の発現と発生について、観察, 実験などを通して探究し、遺伝子を扱う技術についての特徴を見いだして表現している。
4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	刺激の受容と反応について、動物の反応を理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・刺激の受容と反応について、観察, 実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現する。 ・刺激の受容と反応に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	刺激の受容と反応について、動物の反応の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	刺激の受容と反応について、観察, 実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。
4編 生物の環境応答 2章 動物の行動	動物の行動について、神経系の働きと行動との関係を理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・動物の行動について、観察, 実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現する。 ・動物の行動に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	動物の行動について、神経系の働きと行動との関係の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	動物の行動について、観察, 実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。
4編 生物の環境応答 3章 植物の環境応答	植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・植物の環境応答について、観察, 実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現する。 ・植物の環境応答に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	植物の環境応答について、神経系の働きと行動との関係の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	植物の環境応答について、観察, 実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。
5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	生態と環境について、個体群と生物群集のことを理解するとともに、それらの観察, 実験などに関する技能を身に付ける。 ・生態と環境について、観察, 実験などを通して探究し、生態系における生物間の関係及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。 ・生態と環境に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生態と環境について、個体群と生物群集の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生態と環境について、観察, 実験などを通して探究し、個体群と生物群集についての特徴を見いだして表現している。

5編 生態と環境 2章 生態系の物質生産と物質循環	生態と環境について、生態系の物質生産と物質循環のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生態系の物質生産と物質循環に関する資料にもとづいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解する。 ・生態系の物質生産と物質循環に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生態と環境について、生態系の物質生産と物質循環の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生態系の物質生産と物質循環に関する資料にもとづいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解している。
5編 生態と環境 3章 生態系と人間生活	生態と環境について、生態系と人間生活のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 ・生態系と人間生活に関する資料にもとづいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解する。 ・生態系と人間生活に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	生態と環境について、生態系と人間生活の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生態系と人間生活に関する資料にもとづいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして表現している。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している

相生学院高等学校	
教科書名	
生物	
主体的に学習に取り組む態度	
(評価方法)	
レポート 行動観察 課題プリント	
発生と遺伝子発現に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
遺伝子を扱う技術に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
刺激の受容と反応に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
動物の行動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
植物の環境応答に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
個体群と生物群集の理解に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	

生態系の物質生産と物質循環に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
生態系と人間生活に主体的に関わり、人間生活の在り方について考え、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育a	保体901	大修館	現代高等保健体育 改訂版

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験行動観察	レポート 単位認定試験行動観察	レポート行動観察 授業プリント
1 単元 スポーツの発祥と発展 スポーツの始まりと変遷 世界の民族スポーツについて調べよう	・スポーツがどのように始まったのかを説明できる。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明できる。	・スポーツは、人類の歴史とともに世界各地で日常の遊びや生活などから生まれてきたこと、近代になって、スポーツは娯楽から競技に変化し、一般の人びとに広がっていったこと、現代では、競技だけでなく、広く身体表現や身体活動を含む概念としてスポーツが用いられるようになってきており、その理念が時代に応じて多様に変容してきていることについて、理解している。 ・近年では、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあり、日本の文化の発信に貢献していることについて、理解している。	・スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。
1 単元 スポーツの発祥と発展 文化としてのスポーツ 日本生まれのスポーツ 競技スポーツにおける競争の意味	・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・多様なかわり方によるスポーツ文化の変容について例をあげて説明できる。			
1 単元 スポーツの発祥と発展 オリンピックとパラリンピックの意義 オリンピックの課題 パラリンピックの課題	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。	・現代のスポーツは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしており、その代表的なものにオリンピックやパラリンピック等の国際大会があることについて、理解している。 ・オリンピックムーブメントは、オリンピック競技大会を通じて、人々の友好を深め世界の平和に貢献しようとするものであること、また、パラリンピック等の国際大会が、障害の有無等を超えてスポーツを楽しむことができる共生社会の実現に寄与していることについて、理解している。		
1 単元 スポーツの発祥と発展 スポーツが経済に及ぼす効果	・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているかを説明できる。 ・スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる。	・現代のスポーツの経済的効果には、スポーツの実施による直接的な効果のみならず、例えば、スポーツ用品、スポーツに関する情報やサービス、スポーツ施設などの広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による波及的な経済的効果があり、経済活動に大きな影響を及ぼしていることについて、理解している。		
球技 バドミントン	・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育b	保体701	大修館	現代高等保健体育

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験行動観察	レポート 単位認定試験行動観察	レポート行動観察 授業プリント
1単元 スポーツの発祥と変遷 スポーツの高潔さとドーピング スポーツの価値について考えてみよう なぜドーピングは許されないのか	・スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる。 ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。	・競技会での勝利が個人や国家等に多大な利益をもたらすようになるとドーピング(禁止薬物使用等)が社会問題として取り上げられるようになったこと、ドーピングは不当に勝利を得ようとするフェアプレイの精神に反する不正な行為であり、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせる行為であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・スポーツの経済的波及効果が高まることに伴って、スポーツの価値をおとしめる可能性が生じることから、スポーツに関わる全ての人々に、スポーツの価値を一層高める関わり方が求められていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・スポーツの歴史的発展と多様な変化や現代のスポーツの意義や価値について、事実や理念を整理したり、自己のスポーツへの関わりを見いだしたりして、自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見している。 ・スポーツの経済的効果と高潔さやスポーツが環境や社会へもたらす影響について、習得した知識を基に、持続可能なスポーツの発展のための課題の解決に向けて、自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展についての学習に、主体的に取り組もうとしている。
1単元 スポーツの発祥と変遷 スポーツと環境 スポーツとまちづくり	・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。			
2単元 運動・スポーツの学び方 スポーツにおける技能と体力	・技能と体力の関係について説明できる。 ・技能や体力を高めるときに気をつけるべき点をあげることができる。	・運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
2単元 運動・スポーツの学び方 スポーツにおける技術と戦術 スポーツルールはなぜ変わるのか 考えてみよう スポーツとメディアの関係性	・技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 ・用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。	・個々の運動やスポーツを特徴付けている技術は、練習を通して身に付けられた合理的な動き方としての技能という状態で発揮されること、技能には、クローズドスキル型とオープンスキル型の技能があること、オープンスキル型の技能は、対人的な競技などで絶えず変化する状況の下で多く発揮されること、クローズドスキル型の技能は、個人的な競技などで状況の変化が少ないところで多く発揮されること、その型の違いによって学習の仕方が異なることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・スポーツの技術や戦術、ルールは、用具や用品、施設などの改良によって変わり続けていること、特に現代では、テレビやインターネットなどのメディアの発達などによっても影響を受けていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見すること。 ・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。	
球技 卓球	・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうということなどや、健康・安全を確保しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育c	保体701	大修館	現代高等保健体育

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験 行動観察	レポート 単位認定試験 行動観察	レポート 行動観察 授業プリント
2単元 運動・スポーツの学び方 技能の上達過程と練習 球技における戦術の特徴を比較してみよう ゲームにおける戦術的判断	・技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる。 ・練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	・運動やスポーツの技能の上達過程を試行錯誤の段階、意図的な調整の段階及び自動化の段階の三つに分ける考え方があること、また、これらの段階に応じて、効果的に上達を図るためには、良い動きを参考として自己の課題を設定すること、課題解決のための自己に適した練習方法を選択すること、自己観察や他者観察を通して課題を発見し解決すること、上達に応じて次の課題を設定することといった取り組み方が運動の継続に有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・技能の獲得には、一定の期間がかかることを踏まえ、解決すべき課題を意識した上で、繰り返し取り組むことが安定した技能の定着につながることにについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
2単元 運動・スポーツの学び方 効果的な動きのメカニズム 運動・スポーツと脳 動きと力	・体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのか説明できる。 ・よい動きを支える調整力について例をあげて説明できる。	・運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツの技能を発揮する際には、個々の技能に関連した体力を高めることが必要になることや、期待される成果に応じた技能や体力の高め方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で過度な負荷や一定部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況に関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見すること。 ・運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。	
2単元 運動・スポーツの学び方 体力トレーニング	・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 ・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。			
2単元 運動・スポーツの学び方 運動やスポーツでの安全の確保 スポーツによるさまざまなリスクを考えてみよう スポーツ外傷・障害とその原因 健康づくりのために運動を実践してみよう	・スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。 ・スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生原因と予防方法を説明できる	・運動やスポーツを行う際は、気象条件の変化など様々な危険を予見し、回避することが求められること及び、気象条件や自然環境の変化など様々な危険を予見し回避するためには、けがや事故の防止のための対策、発生時の処置、回復期の対処などの各場面での適切な対応方法を想定しておくこと、けがや事故につながりそうな体験から行動や活動環境の修正を図ることが有効であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・運動やスポーツを行う際、個人の体力に不適切で過度な負荷や一定部位への長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があること、また、これらを予防することでスポーツが末永く継続できることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
球技 ビーチボール	・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	体育d	保体701	大修館	現代高等保健体育

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験 行動観察	レポート 単位認定試験 行動観察	レポート 行動観察 授業プリント
		・スポーツには、乳・幼児期から高齢期に至るライフステージごとに、体格や体力の変化などに見られる身体的特徴、精神的ストレスの変化などに見られる心理的特徴、人間関係や所属集団の変化などに見られる社会的特徴に応じた多様な楽しみ方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方は、個人のスポーツ経験や学習によって育まれたスポーツに対する欲求や考え方、健康や体力を求める必要性や個人の健康目標などによっても変化するものであることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3単元 豊かなスポーツライフの設計 生涯スポーツの見方・考え方 スポーツ科学のすすめ スポーツにかかわる職業	・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 ・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。	・生涯にわたって「する、みる、支える、知る」などのスポーツを多様に継続するためには、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方を見付けることに加え、それぞれの生き方や暮らし方といったライフスタイルに応じた無理のないスポーツへの関わり方が大切であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・ライフステージやライフスタイルによっては、仕事の種類や暮らし方によって運動に関わる機会が減少することもあるため、仕事と生活の調和を図ること、運動の機会を生み出す工夫をすること、多様な関わり方を実現するための具体的な設計の仕方があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方やライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見すること。 ・豊かなスポーツライフが広がる未来の社会について、これまで学習したことを基に、将来の自己のスポーツ設計や未来の社会についての自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えること。	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。
3単元 豊かなスポーツライフの設計 ライフスタイルに応じたスポーツ身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう 自分でスポーツライフを設計してみよう	・「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 ・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	・国や地方自治体は、スポーツの推進のために様々な施策を行っており、人や財源、施設や用具、情報などを人々に提供するなどの条件整備を行っていること、また、スポーツの推進を支援するために、企業や競技者の社会貢献、スポーツボランティアや非営利組織(NPO 等)などが見られるようになっていくことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3単元 豊かなスポーツライフの設計 スポーツを推進する取り組み 諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう	・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 ・自分が住んでいた身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげられる。	・スポーツを、人生に潤いをもたらす貴重な文化的財産として未来に継承するためには、スポーツには健康で生き生きとした生活をもたらしたり、様々な人々とつながったりするなどの可能性がある反面、過度な運動による健康への悪影響や勝利を優先する余り人間関係を悪化させるなどの問題点があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・人生に潤いをもたらす適切な関わり方を継続するためには、「する」だけでなく、豊かなスポーツライフを実現するための「みる」、「支える」、「知る」などの卒業後のスポーツへの多様な関わり方を構想したり、設計したりすることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
3単元 豊かなスポーツライフの設計 豊かなスポーツライフの創造	・これまでとこれからのスポーツライフの違いを説明できる。 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。			

球技 グランドゴルフ ※雨天時;卓球	・ターゲット型では、フェアプレイ精神のもと、環境に応じたボール操作や安定した用具の操作と他者と競い、自分の技能を高めることができる。 ※ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、環境に応じた技能を駆使してゲームを展開することができる。 ※勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ※攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、互いの技術の上達に向けて助け合い高め合おうということ、記録の役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることや、健康・安全を確保しようとしている。 ※球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話し合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとしている。
--------------------------	---	---	---	--

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	保健a	保体901	大修館	現代高等保健体育 改訂版

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験 行動観察	レポート 単位認定試験 行動観察	レポート 行動観察 授業プリント
1単元 現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち 健康のとらえ方の歴史を振り返ってみよう 生きることと病気について考えてみよう	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。	・我が国の死亡率, 受療率, 平均寿命, 健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康水準, 及び疾病構造の変化には, 科学技術の発達, 及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 ・国民の健康課題について, 我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し, 生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 ・健康の考え方について, 自他や社会の課題の解決方法と, それを選択した理由などを話し合ったり, ノートなどに記述したりして, 筋道を立てて説明している。	健康の考え方について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 私たちの健康のすがた	・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	・健康水準の向上, 疾病構造の変化に伴い, 個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・免疫, 遺伝, 生活行動などの主体要因と, 自然, 経済, 文化, 保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。		
1単元 現代社会と健康 生活習慣病の予防と回復	・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防, 二次予防について例をあげて説明できる。			
1単元 現代社会と健康 がんの原因と予防	・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。	・がん, 脳血管疾患, 虚血性心疾患, 高血圧症, 脂質異常症, 糖尿病などを適宜取り上げ, これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには, 適切な運動, 食事, 休養及び睡眠など, 調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること, 定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。		
1単元 現代社会と健康 がんの治療と回復 がんの克服をめざして～がん治療最前線～ がんとともに生きる人々を支える取り組み	・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	・がんは, 肺がん, 大腸がん, 胃がんなど様々な種類があり, 生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・生活習慣病などの予防と回復には, 個人の取組とともに, 健康診断やがん検診の普及, 正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	・生活習慣病などの予防と回復について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 ・生活習慣病などの予防と回復について, 習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し, リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 ・生活習慣病などの予防と回復について, 自他や社会の課題の解決方法と, それを選択した理由などを話し合ったり, ノートなどに記述したりして, 筋道を立てて説明している。	生活習慣病とその予防について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 運動と健康 自分の身体活動量を調べてみよう	・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。			
1単元 現代社会と健康 食事と健康 BMIから自分の肥満度を調べてみよう	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。			
1単元 現代社会と健康 休養・睡眠と健康	・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。			

1単元 現代社会と健康 喫煙と健康	・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
1単元 現代社会と健康 飲酒と健康 酒の広告について考えてみよう	・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	・コカイン、MDMA などの麻薬、覚醒剤、大麻など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。	喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 薬物乱用と健康 薬物乱用への誘いに対処してみよう	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
1単元 現代社会と健康 精神疾患の特徴	・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
1単元 現代社会と健康 精神疾患の予防 ストレスや不安に対処しよう	・精神疾患を予防する方法について説明できる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	・精神疾患の予防と回復には、身体 の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクセーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 精神疾患からの回復 うつ病からの回復をたどってみよう	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ・精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	
1単元 現代社会と健康 現代の感染症 新たなインフルエンザを警戒しよう 新たな脅威～薬剤耐性菌～	・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	・感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌（O157 等）感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	
1単元 現代社会と健康 感染症の予防	・感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ・感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	・感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 性感染症・エイズとその予防	・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
1単元 現代社会と健康 健康に関する意思決定・行動選択 イッキ飲みを防ごう 望ましくない習慣をやめる作戦を考えよう	・意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	・健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
1単元 現代社会と健康 健康に関する環境づくり 暮らしているだけで健康になる環境を考えよう	・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	・健康を保持増進するには、個人 の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	

2単元 安全な社会生活 事故の現状と発生要因	・事故の実態と被害の実態について説明できる。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用している。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 ・安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている
2単元 安全な社会生活 安全な社会の形成 時間の流れにそった防災・避難訓練をつくろう 犯罪から身を守ろう	・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
2単元 安全な社会生活 交通における安全	・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ・交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
2単元 安全な社会生活 応急手当の意義とその基本	・応急手当の意義について説明できる。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること、さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用している。	応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
2単元 安全な社会生活 日常的な応急手当	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。	・応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
2単元 安全な社会生活 心肺蘇生法 心肺蘇生法を実習しよう	・心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ・実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。	・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AED などを用いて心肺蘇生法ができる。		

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
保健体育	保健b	保体701	大修館	現代高等保健体育

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験 行動観察	レポート 単位認定試験 行動観察	レポート 行動観察 授業プリント
		・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。	・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面, 心理面, 行動面などの変化に関わり, 健康課題が生じることがあることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して, 自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること, 及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	
3単元 生涯を通じる健康 ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。			
3単元 生涯を通じる健康 思春期と健康	・思春期における体の変化を, 女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。			
3単元 生涯を通じる健康 性意識と性行動の選択 性教育について考えてみよう	・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。			
3単元 生涯を通じる健康 妊娠・出産と健康	・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。	・結婚生活について, 心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精, 妊娠, 出産とそれに伴う健康課題について, 理解したことを言ったり書いたりしている。	・生涯の各段階における健康について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について, 習得した知識を基に, 心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために, 性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について, 習得した知識を基に, 結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて, 保健・医療サービスの活用方法を整理している。	生涯の各段階における健康について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
3単元 生涯を通じる健康 避妊法と人工妊娠中絶 それは本当に正しい避妊法ですか	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには, 自他の健康に対する責任感, 良好な人間関係や家族や周りの人からの支援, 及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。	・加齢と健康について, 習得した知識を基に, 中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。	
3単元 生涯を通じる健康 結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。		・生涯の各段階における健康について, 自他や社会の課題の解決方法と, それを選択した理由などを話し合ったり, ノートなどに記述したりして, 筋道を立てて説明している。	
3単元 生涯を通じる健康 中高年期と健康	・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	・中高年期を健やかに過ごすためには, 若いときから, 健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと, 生きがいをもつこと, 運動やスポーツに取り組むこと, 家族や友人などとの良好な関係を保つこと, 地域における交流をもつことなどが関係することについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には, 加齢に伴い, 心身の機能や形態が変化すること, その変化には個人差があること, 疾病や事故のリスクが高まること, 健康の回復が長期化する傾向にあることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では, 認知症を含む疾病等への対処, 事故の防止, 生活の質の保持, 介護などの必要性が高まることなどから, 保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。		

3単元 生涯を通じる健康 働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ・働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。	労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
3単元 生涯を通じる健康 労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。			
3単元 生涯を通じる健康 健康的な職業生活 仕事を健康の観点から考えてみよう	・職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ・余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることについて、を理解したことを言ったり書いたりしている。	・労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
4単元 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	・人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4単元 健康を支える環境づくり 水質汚濁、土壌汚染と健康 過去の公害を振り返ってみよう	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。		・環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 ・環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
4単元 健康を支える環境づくり 環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。	・健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4単元 健康を支える環境づくり ごみの処理と上下水道の整備 海洋プラスチックごみについて考えてみよう	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。		
4単元 健康を支える環境づくり 食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日の課題について説明できる。	・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4単元 健康を支える環境づくり 食品衛生にかかわる活動 健康食品などの広告を分析してみよう 栄養素や食品のブームについて考えてみよう	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。	・食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・食品と健康について、健康に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 ・食品と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	

4単元 健康を支える環境づくり 保健サービスとその活用	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげることができる。	・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	
4単元 健康を支える環境づくり 医療サービスとその活用 医療機関のかかり方について考えてみよう	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4単元 健康を支える環境づくり 医薬品の制度とその活用 サリドマイド薬害に学ぶ	・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。		
4単元 健康を支える環境づくり さまざまな保健活動や社会的対策	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。	・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・地域の保健・医療機関やスポーツ施設の活用の仕方について、関連した情報を整理し、生活の質の向上に向けた課題解決に応用している。 ・様々な保健活動や社会的対策について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
4単元 健康を支える環境づくり 健康に関する環境づくりと社会参加 あなたは健康情報を正しく判断していますか 健康政策を考えてみよう	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながるについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てている。 ・健康に関する環境づくりと社会参加について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。	健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	音楽Ⅰ	音Ⅰ 902	教育芸術社	高校生の音楽Ⅰ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
歌唱(日本歌曲)	歌詞を読んで歌われている内容をイメージし、日本語の美しさを感じながら歌唱表現する。	作曲者や作詞家について知り、作品の背景を理解して、作品の表現に繋げている。	普段、話す時と歌う時の呼吸法や響かせ方の違いを理解して、発声を工夫している。 また、言葉を大切に歌い、歌詞から感じられる曲全体の雰囲気表現しようとしている。	日本語の歌詞が自然に発音できかつ明確に伝わるように工夫している。また、合唱では、パートごとのメロディと美しい響きを聞きながら調和するように歌えている。
西洋音楽史	古代～近現代までの西洋音楽をおよその年代と時代ごとの特徴や主な作曲家、作品を理解する。	古代ギリシャ、中世、ルネサンス、バロック、古典派、ロマン派、近現代と時代に沿って、それぞれの特徴、作曲家と主な作品、使われていた楽器等を理解している。	それぞれの時代における歴史的背景とその中で生まれる音楽との関連を考えながら、使用される楽器、音楽の規模などについても違いを理解できている。	各時代ごとで興味を持てた作曲家や作品について、さらに深く知り、他にどのような作品があるか調べ、好きな作品を視聴したり学習する意欲がある。
歌唱(ドイツリート)	母音や子音を正しく明確に発音し、歌詞の意味を理解して音楽表現ができている。 また、作品の持つ特徴を理解し、表情豊かに歌える。	作曲者や作詞家について知り、作品の背景を理解して、作品の表現に繋げている。	ドイツ語の歌詞のリズム感を感じながら、正確に発音し音読できる。 また、リズム感を生かして歌唱表現に繋げている。	母音や子音を正しく明確に発音し、歌詞の意味を理解して音楽表現ができている。 また、作品の持つ特徴を理解し、表情豊かに歌える。
鑑賞	交響曲を鑑賞し、音楽の形式やオーケストラの楽器について理解を深める。	ベートーヴェンの第九交響曲を鑑賞し、構成やそれぞれの楽器の特徴が理解できている。	独唱や合唱が加わる箇所ドイツ語の歌詞の内容や、どのように音楽が発展していくのかを理解できている。	他の作曲家の交響曲についても興味を持ち、違い等理解を深めようとしている。
鑑賞	日本の伝統音楽を視聴し、その歴史や使用される楽器、音階などの特徴を知る。	雅楽、能、歌舞伎など日本の伝統音楽について説明できる。また使用される楽器の種類が理解できている。	雅楽を鑑賞し、楽器の音色の違いを聞き分け、視覚、聴覚から感じたことを表現できる。	雅楽、能、歌舞伎の主な演目について知り、興味のあるものについて視聴し追究する意欲がある。
楽典	西洋音楽の楽典の基礎を学び、理解する。	音名や音符、音階、拍子、さらに音程、和声等の基本が理解できている。	音楽表現に必要な楽語の意味を知り、曲想を創る上でどのような効果があるか考察できている。	写譜をしたり、実際に楽譜を見てどの箇所にどのような楽語が記されているか、表現する上での効果的な使われ方などを考察できる。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	美術 I	美 I 702	日本文教出版	高校生の美術1

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験(実技)	レポート 単位認定試験(実技)	レポート 行動観察 課題プリント 単位認定試験(実技)
【絵画】 ・視点と表し方 ・人物を描く ・想像を形に ・視覚のトリックを生かして ・大きさを意識して ・美術史 ・さまざまな描画材料 ・いろいろな絵の具 ・美の秩序 ・色彩	・作品の特徴や、それがもたらす効果について説明できる。 ・風景の中の空間や色彩効果を捉え、感じたことを表現できる。	・絵画表現において、空間や形、色彩などが感情にもたらす効果を理解している。 ・風景や人物の造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風を捉える方法を理解している。 ・光や陰影の効果、造形的な特徴などを基に、よさや美しさ、作風や様式などを捉える方法を理解している。 ・目的や意図に応じて絵の具などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。	・空間と人物の関係性や、色、形などを深く観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成することができる。 ・形や色彩、構図などの効果を考え、創造的な構想を練っている。 ・造形的な特徴や光の効果などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	・主題にそってモチーフや自己の内面を注意深く観察し、感じ取ったよさや美しさ、不思議さや面白さなど、感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・空間の造形や光と陰影を生かした絵画鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
【絵画】 ・身近なものを描く ・植物を描く ・私の見付けた風景 ・光を捉える	・身近なものの美しさや全体のイメージを捉え、表現する事ができる。 ・作者や作品の意図や表現の工夫について、知識を理解を深め、感じ取ることができる。	・絵画表現において、形や色彩、明暗、質感が感情にもたらす効果を理解している。 ・身近なものの造形的な特徴や美しさなどを捉える方法を理解している。 ・視点の変化による表現効果や造形的な特徴などを踏まえ、よさや美しさ、作風や様式などを捉える方法を理解している。 ・画材の特性や線の強弱などを、意図に応じて変化させ表現する方法を理解している。	・身近なものの特徴や美しさなどを観察し、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成することができる。 ・表現形式の特性を生かし、形や色彩、質感などを考え、創造的な構想を練ることができる。 ・様々な視点で表現された作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図、表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる。	・身近なものの特徴や美しさなどを観察し、描写の基礎を踏まえ、感じ取ったことや考えたことを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
【絵画】 ・日本美術 ・浮世絵版画の魅力 ・版で表す ・墨表現の可能性 ・漫画の表現 【デザイン】 ・生活を彩る模様	・日本特有の美意識や美術表現の特徴を捉える。 ・日本美術史についての理解を深め、作品を比較、説明できる。 ・墨や漫画の表現の特徴について理解を深め、表現する力を高める。	・日本美術の特徴や、空間の効果、構図、色彩などを基に、全体のイメージなどを捉える方法を理解している。 ・浮世絵や文様表現のモチーフについて、作られる目的や条件、機能や用途などを理解している。 ・墨表現や漫画表現の特徴を捉え、古典美術と現代の美術の関連性について理解している。	・日本美術の特徴的な表現や美術文化の継承と創造についてとらえ、作品の特徴や様式について判断し説明できる。 ・墨表現や版画表現の特性やイメージを基に、形や色彩、構成の特徴などから美しさを感じ取り、表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めることができる。	・日本美術の特徴や美しさについて、比較したり説明したりする鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
【彫刻】 ・立体表現の魅力 ・塑像で表す ・彫って表す ・抽象表現で表す ・身近な素材と立体表現 ・祈りの形 ・西洋の美術	・立体表現の特徴や触覚的なイメージを捉える。 ・西洋美術や立体表現の変遷について、知識と理解を深め、作品を比較、説明できる。	・立体表現において、形や質感、量感、重心やバランス、動勢がもたらす効果について理解している。 ・素材に応じた制作方法の違いや作風、様式の違いについて理解している。 ・西洋美術の特徴や様式の変遷について理解している。	・素材に応じた制作方法の特徴を捉え、作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と表現の工夫などについて判断し説明できる。 ・西洋美術の特徴や様式の変遷について捉え、比較して説明できる。	・西洋美術の変遷や立体作品の特徴を捉え、よさや美しさについて、比較したり説明したりする鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
【デザイン】 ・デザインの世界 ・私の考えるデザイン ・イラストレーションの魅力 ・キャラクターのデザイン ・パッケージのデザイン ・暮らしの中の使うデザイン ・サインのデザイン ・ポスターで伝える ・デザインとテクノロジー	・デザインの役割や意義について知識と理解を深める。 ・身の回りのデザインについて関心を持ち、デザインの意図を捉えることができる。 ・文字やイラスト、色彩についての効果や特性についての理解を深める。	・デザインにおける形式や色彩、構成がもたらす効果に付いて理解している。 ・デザインの目的、機能や用途について、造形的な特徴を基にして理解している。 ・デザイン史および、美術運動の変遷について理解している。	・形式や色彩の効果について捉え、場面や用途によって有効な表現方法を判断できる。 ・デザインの目的や機能、用途について捉え、デザインされたものの特徴と意義について説明できる。	・デザインの目的や機能、用途について理解し、それを基にした表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 ・多様なデザインの機能や用途、洗練された美しさなどを感じ取り、作者の目的や表現の意図について考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。
【映像メディア表現】 ・写真で表す ・アニメーションの手法 ・映像で伝えるメッセージ ・映像に包まれて	・映像表現の特徴や、表現効果についての理解を深める。 ・アニメーションの仕組みについて理解し、構成や効果を考えて表現できる。	・写真表現における、写す角度や配置、拡大と縮小、光と影、時間の静止などの効果について理解している。 ・画面構成や時間をもつ効果などを基に、全体のイメージや作風、様式を捉える方法を理解している。	・感じ取ったことや考えたことなどを基に、アニメーションによる表現の特性を生かして主題を生成することができる。 ・画面の構成と時間の流れや物語性、動きなどの要素を踏まえ、創造的な表現の構想を練ることができる。 ・写真と絵画表現の関係性について、共通点を捉えて説明できる。 ・写真表現の特徴や表現効果、構成などを踏まえ、表現をする際に有効な方法を判断できる。	・アニメーションや動画による映像の鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。 ・映像表現の特質や投影による表現効果などを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
芸術	書道 I	書 I 002－901	東京書籍	書道 I

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 学習プリント 視聴報告書	レポート 視聴報告書 単位認定実技試験	レポート スクーリングプリント 学習プリント 単位認定実技試験
書写で学んできたこと 書道で学ぶこと 漢字の書の成立と編成	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解する。 それぞれの書体の特徴や、特長をつかむ。	・各書体の成立の歴史的背景や、効用を理解している。 ・それぞれの書体の特長を表現効果を理解している。	・中国で生まれた漢字五体の書体や日本で生まれた平仮名、カタカナの書体の価値や根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。	・自身の表現に合う書体を選び、幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。
漢字の書 ・楷書の特徴 楷書の基本点画 「九成宮醴泉銘」硬筆臨書 ・行書の特徴 楷書と行書の比較 「蘭亭序」硬筆臨書	書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につける。	・楷書の書体や書風と用筆、運筆との関りについて理解している。 ・行書の古典の書体や書風と用筆、運筆との関わりについて理解している。	・楷書の古典の価値と、その根拠について考え、書の良さや美しさを味わって捉えている。 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆・字形、全体の構成について構想し、工夫している。	・楷書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・行書の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。
創 作 I ・ 毛筆実技試験課題 楷書 楷書の基本点画・特徴の把握 「相生」楷書二文字 作品提出	書の良さや、美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、楷書の運筆方法を理解している。	・楷書の特徴をふまえ、字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し、工夫している。	・自分の表現の意図や特質に基づく表現をする
創 作 I ・ 毛筆実技試験課題 行書 行書の特徴・運筆の把握 「相生」行書二文字 作品提出	主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しむ。	・行書の特徴をふまえ、線質、字形構成等の要素と表現効果や風趣とのかかわりについて理解している。	・行書の特徴をふまえ、字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し、工夫している。	・自身の表現の意図や特質に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーション I a	CI 901	東京書籍	All Aboard ! English Communication I

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Warm-Up1 アルファベット Warm-Up2 教室で使う表現 Warm-Up3 疑問詞 Pre-Lesson1 My Name Is Ito Neko. オレの名前は伊藤ネコだ Pre-Lesson2 I Like Junk Food! オレはジャンクフードが好きだ！ Communication1自己紹介	・教室で使う表現をそれぞれの場面において使い慣れる。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。 ・be動詞と一般動詞を使って自己紹介をする。	・アルファベットや教室で使う表現や疑問詞について、使い方や使う場面を理解している。 ・be動詞や一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを使って自己紹介の仕方を理解して、それを相手とコミュニケーションできる技能を身に付けている。	教室で使う表現について使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使うことができる。 自己紹介において、自分の名前・性格・将来の夢など、自分の情報を整理して、相手が理解しやすいように伝えることができる。	教室で使う表現について使い方や使う場面などを正しく認識し、適切に使うとしている。 自己紹介において、自分の名前・性格・将来の夢など、自分の情報を整理して、相手が理解しやすいように伝えようとしている。
Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん	・世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ・動詞の過去形 ・好きな食べ物について述べるができる。	・動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について自分の考えや好み、その理由などを整理・理解して、さらに話して伝える技能を身につけている。また、過去にしたことについて、動詞の過去形を用いて伝え合う技能を身につけている。	世界の朝食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな食べ物について、相手の意見を知り情報を整理し、自分の考えをまとめ、考えや好みを、またその理由を話したり書いたりして伝えあうことができる。	世界の朝食に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな食べ物について、相手の意見を知り情報を整理し、自分の考えをまとめ、考えや好みを、またその理由を話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Lesson2 Australia’s Cute Quokkas 人なつこい野生動物	・オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ・進行形:〈be動詞＋動詞の-ing形〉 ・動詞の-ing形 ・好きな動物について、英語でのべることができる。	・進行形:〈be動詞＋動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。またオーストラリアに生息する珍しい野生動物について学んだ事柄や好きな動物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解している。 ・進行形:〈be動詞＋動詞の-ing形〉の理解のもとに、オーストラリアに生息する珍しい野生動物について学んだ事柄を用いて、好きな動物について、考えや好み、その理由などを話して伝える技能を身に付けている。	オーストラリアに生息する珍しい野生動物に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな動物について、相手の意見を知り自分の考えをまとめるために、考えや好み、その理由などを話したり書いたりして伝えあうことができる。	オーストラリアに生息する珍しい野生動物に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな動物について、相手の意見を知り自分の考えをまとめるために、考えや好み、その理由などを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Lesson 3 Life with Spade 愛馬とともに	・青森県で愛馬とともに流鏑馬に挑戦する布施蒼依さんの高校生活について学ぶ。 ・助動詞:can, will ・ある場所への行き方とそこでできることについて、英語でのべることができる。	・助動詞can, willを用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・愛馬との生活について話す布施蒼依さんのインタビュー記事の内容を読み取る技能を身に付けている。 ・ある場所への行き方を表現することを身に付けている。 ・助動詞can, willを用いて、情報や考えを話して伝え合い、かつ書く技能を身に付けている。	流鏑馬の競技をする布施蒼依さんと愛馬の生活やきずなについて書かれた記事の概要を捉え、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ある場所への行き方とそこで、自分ができること・できないことについて、相手の意見を知り情報を集めたりして自分の考えを話したり書いたりして伝えることができる。	流鏑馬の競技をする布施蒼依さんと愛馬の生活やきずなについて書かれた記事の概要を捉え、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ある場所への行き方とそこで、自分ができること・できないことについて、相手の意見を知り情報を集めたりして自分の考えを話したり書いたりして伝えようとしている。
Lesson4 A Miracle Mirror 夢のような絶景 Extra Target 1 接続詞	・海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 ・to不定詞:〈to＋動詞の原形〉 ・行ってみたい場所について、英語でのべることができる。 ・接続詞	・〈to不定詞:〈to＋動詞の原形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・ウユニ塩原でやりたいこと、行ってみたい場所ややりたいことについて、to不定詞:〈to＋動詞の原形〉を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身につけている。 ・接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。	ある場所に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合うことができる。 ・接続詞を用いて的確に説明ができる。	ある場所に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、行ってみたい場所ややりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。 ・接続詞を用いた文の形・意味・用法を理解しようとしている。
Lesson5 A Dream Engine 博多工業高校 自動車工学科 Reading 1 Short Stories in English	・「空エンジン」を作る夢に向かって、失敗に諦めず挑戦する自動車工学科の高校生について学ぶ。 ・動名詞:〈動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味を理解している。 ・落語を英語で楽しむ。	・動名詞:〈動詞の-ing形〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・環境問題を考え博多工業高校の生徒たちのユニークな取り組みについて書かれた内容を聞き取り、読み話す、書く技能を身に付ける。 ・ショートストーリーで英語になじみ、会話する。	・環境問題を考え将来の夢に向かって、失敗にも関わらず諦めることなく活動する博多工業高校の生徒たちのユニークな取り組みについて書かれた内容を聞き取り、読み話す、書く技能を身に付ける。 ・ショートストーリーで英語になじみ、会話することができる。	・環境問題を考え将来の夢に向かって、失敗にも関わらず諦めることなく活動する博多工業高校の生徒たちのユニークな取り組みについて書かれた内容を聞き取り、読み話す、書く技能を身に付けようとする。 ・ショートストーリーで英語になじみ、会話をしようとする。

[評価基準]について A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準				
相生学院高等学校				
教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーション I b	CI 901	東京書籍	All Aboard ! English Communication I
学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	・江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガのとの関連について考える。 ・受け身:〈be動詞＋過去分詞〉 ・好きな絵について、英語で述べるができる。	・受け身:〈be動詞＋過去分詞〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・好きな絵の紹介とその理由について、受け身:〈be動詞＋過去分詞〉を用いて、情報や考えや気持ちを話して伝え合う・読み取る・考える・書く技能を身につけている。	歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報を集め考えや気持ちを、話したり書いたりして伝え合うことができる。	歌川国芳の浮世絵に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな絵とその理由について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報を集め考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Lesson7 A Diary of Hope アンネ・フランク 文法のまとめ3 比較表現	・第二次世界大戦のホロコーストの時代を背景にアンネ・フランクの生活と日記について紹介する。授業を通して、生きることの意味について考える。 ・比較表現:〈-er〉〈the-est〉〈as＋原級＋as〉 ・関心のある人物について、英語で説明ができる。	・比較表現:〈-er〉〈the-est〉〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。また、アンネ・フランクについて学んだり、関心のある人物について調べた事柄を整理理解している。 ・比較表現:〈-er〉〈the-est〉〈as＋原級＋as〉の理解のもとに、アンネ・フランクについて、学んだり、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝え合う技能を身につけている。	アンネ・フランクの生活と彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分に影響を与えた人物について相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報を集め自分の考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合うことができる。	アンネ・フランクの生活と彼女の日記について書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分に影響を与えた人物について相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報を集め自分の考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Lesson8 A Door to a New Life ロボットカフェ	・ロボットカフェを紹介する実況中継を通してロボットの可能性について考える。 ・現在完了形:〈have[has]＋過去分詞 〉 ・人の生活を豊かにするロボットや、ロボットが学校で授業をすることについて考える。	・現在完了形:〈have[has]＋過去分詞 〉を用いた文の形・意味を理解している。ロボットカフェについて学んだり、ロボットが学校で授業を行うことについて利点や欠点について書かれた記事の概要を理解し、自分の考えを話したり、伝え合ったり、書く技能を身に付けている。	ロボットカフェに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボットが学校で授業を行うことについてその利点と欠点を調べ、それに賛成か反対かなど、自分の立場を伝え合ったり、自分の考えを書くことができる。	ロボットカフェに関して書かれた文章について聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ロボット学校で授業を行うことについて、その利点や欠点を考え、自分としては賛成なのか反対なのか、伝え合ったり書こうとしている。
Lesson9 Ghosts in the Oceans 海にひそむゴースト。	・プラスチックの便利さは言うまでもないが、海に流れ込むゴーストギアが海洋生物に与える影響と、地域の環境問題の取り組みなどを学ぶ。 ・名詞を後ろから説明する分詞	・「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解している。また、プラスチックごみによる海洋汚染と生物への影響や地域の環境問題を取り上げその対策を整理・理解している。 ・環境問題について学んだり、自分で調べた事柄を用いて、自分たちでできることを伝え合う技能を身につけている。	プラスチック製品について対話をしたり、環境汚染の問題とその取り組みについて情報や考え気持ちを伝え合うことができる。ゴーストギアが海の生物に与える影響とその解決策に関して書かれた記事の概要について理解し情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合うことができる。	プラスチック製品について対話をしたり、環境汚染の問題とその取り組みについて情報や考え気持ちを伝え合うことができる。ゴーストギアが海の生物に与える影響とその解決策に関して書かれた記事の概要について理解し情報や考え、気持ちを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Lesson10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	・第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ・関係代名詞: who, which ・海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べるができる。	・関係代名詞: who, whichを用いた文の形・意味・用法を理解している。また、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄をハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学んだり、海外の文化や社会を理解する手段について、自分で調べた事柄を整理・理解している。 ・関係代名詞: who, whichの理解のもとに、第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助や、両地域の現在の交流について学んだり、海外の文化や社会を理解する手段について自分で調べた事柄を用いて、考えや情報などを話して伝え合う技能を身につけている。	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助などに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の文化や社会を理解できることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝えることができる。	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイからの援助などに関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外の文化や社会を理解できることについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合おうとしている。
Reading2 Mujina 英文のしくみ1 英文のしくみ2 英文のしくみ3 Extra Target 3 もし私が○○なら…。	・小泉八雲の怪談を読み解き、場面や登場人物の心情を読み取る。 ・英文の5文型を主語、動詞、補語、目的語を区別して理解する。 ・仮定法過去:〈If＋過去の文、I would…〉 ・「もし私が○○なら」と思うことができることを対話する。	・英語で書かれたMujinaの内容を把握し、その場面や登場人物の心情を読み取る技能を身につけている。 ・英文を5文型に分類して、英文の構成を理解する。 ・仮定法過去:〈If＋過去の文、I would…〉を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ・「もし私が○○なら..」と想像して、しよと思うこと・できることについて「仮定法過去」を用いて、相手と対話することができる技能を身につけている。	英語で書かれたMujinaを、商人、娘、そば屋の気持ちを考えながら音読している。また、聞いている相手に意味が伝わりやすい読み方の要点を捉えることができる。 ・英文を5文型に分類して、英文の構成を理解する。 ・仮定法過去:〈If＋過去の文、I would…〉を用いた文の形・意味・用法を理解している 「もし私が○○なら..」と想像して、しよと思うこと・できることについて「仮定法過去」を用いて、相手と対話することができる。	英語で書かれたMujinaを、商人、娘、そば屋の気持ちを考えながら音読している。また、聞いている相手に意味が伝わりやすい読み方の要点を捉えようとしている。 ・英文を5文型に分類して、英文の構成を理解しようとしている。 ・仮定法過去:〈If＋過去の文、I would…〉を用いた文の形・意味・用法を理解しようとしている。 「もし私が○○なら..」と想像して、しよと思うこと・できることについて「仮定法過去」を用いて、相手と対話しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語科	英語コミュニケーションⅡa	CⅡ701	東京書籍	All Aboard! English Communication Ⅱ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Pre-Lesson My Plans for This Year Lesson 1 A Colorful Island	・海外で行ってみたい場所について、英語で述べるができる。 ・関係代名詞:what	・海外の観光地について学んだり、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことを整理・理解している。 ・関係代名詞whatを用いた文の形・意味を理解している。 ・SNSにアップされた海外旅行の報告の内容を読み取る技能を身につけている。	・SNSにアップされた海外旅行の報告や、海外で行ってみたい場所についてのスピーチや対話の概要を捉えている。	・海外の観光地について学んだり、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことを書こうとしている。
Let's Listen 1 ホテルにチェックイン Communication 1 病院で診察 Lesson 2 With the Beatles Word Box 1 Feelings and Emotions	・世代を超えて人気のある人物について英語で述べるができる。 ・感覚や感情を表す語句を使って英文を作成することができる。 ・比較表現:more, the most	・世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について自分で調べた事柄を整理・理解している。 ・比較表現(more)(the most)を用いた文の形・意味を理解している。 ・海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことを書く技能を身につけている。	・世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について自分で調べた事柄を用いて、理由などを書いている。	・世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について自分で調べた事柄を用いて、理由などを書こうとしている。
Lesson 3 Wild Men 文法のまとめ 1 (関係代名詞／比較表現/itの用法)	・「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ・身近な行事について英語で紹介することができる。 ・形式主語 itの用法	・itを用いた文(It is ... (for ...) to ...)(It is ... that ...)の形・意味を理解している。 ・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチの内容を読み取る技能を身につけている。 ・身近な行事について自分で調べた事柄を用いて、身近な行事や祭りについて紹介する文を書く技能を身につけている。	・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチや、身近な行事や祭りについて話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について自分で調べた事柄を用いて、身近な行事や祭りについて紹介する文を書こうとしている。
Lesson 4 Little Hero Let's Listen 2 世界自然遺産 Extra Target 1 ずっと...し続けている	・ハチドリ物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ・間接疑問文	・間接疑問文の形・意味を理解している。 ・ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にした物語の内容を読み取る技能を身につけている。 ・好きな物語について自分で調べた事柄を用いて、好きな物語を紹介する文を書く技能を身につけている。	・ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にした物語や、好きな物語について話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・ハチドリやハチドリを主人公にした物語について学んだり、好きな物語について自分で調べた事柄を用いて、好きな物語を紹介する文を書こうとしている。
Word Box 2 A Day in English : Part 1 Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	・日本の伝統文化である歌舞伎と関取について学習する。 ・日本の伝統文化について、英語で説明することができる。 ・to不定詞を含む表現	・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。 ・歌舞伎と関取について解説する歌舞伎教室の音声ガイドの文章の内容を読み取る技能を身につけている。 ・日本の伝統文化について自分で調べた事柄を用いて、日本の伝統文化を紹介する文を書く技能を身につけている。	・歌舞伎と関取について解説する歌舞伎教室の音声ガイドや、日本の伝統文化について話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・歌舞伎と関取について学んだり、日本の伝統文化について自分で調べた事柄を用いて、日本の伝統文化を紹介する文を書こうとしている。
Word Box 3 The Body and Clothes Reading 1 Mujina 文法のまとめ 2 (間接疑問文／to不定詞を含む表現／動詞の形と「時」の関係)	・身体各部分や衣服などを表す語句を用いて英語で対話する。 ・江戸時代を舞台にした怪談を読み、情景や登場人物の心情を読み取る。	・怪談「むじな」の物語を読解する技能を身につけている。 ・「むじな」の作者である小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)について調べ、理解している。	・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)著作の怪談「むじな」の概要を捉えている。 ・街灯のなかった時代において、「むじな」の登場人物である商人が体験したことを想像して、表現読みができる。	・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が活躍した時代背景、著作、日本の文化を海外に紹介した経緯を調べ、「むじな」の理解を深めようとする。

【評価基準】 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語科	英語コミュニケーションⅡb	CⅡ701	東京書籍	All Aboard! English Communication Ⅱ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Lesson 6 Seeds for Future Generations Word Box 4 Various Jobs	・伝統野菜についての発表を通して、伝統の継続について考える。 ・地元で有名な場所やものについて、英語で説明することができる。 ・動詞の目的語になるif節	・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味を理解している。 ・高校の部活動による京野菜についてのグループ発表や、京野菜について書かれたポスターの記事の内容を読み取る技能を身につけている。	・高校の部活動による京野菜についてのグループ発表や、京野菜や地元で有名な場所やものについて話される対話や発表の概要を捉えている。	・京野菜について学んだり、地元の有名な場所やものについて自分で調べた事柄を用いて、地元の有名な場所やものを紹介するポスターの記事を書こうとしている。
Lesson7 Over the Wall Communication 2 入国審査 Getting the Necessary Information	・世界の人々と交流する方法について、英語で述べることができる。 ・関係副詞: where, when ・入国審査で使われる表現を学ぶ。	・関係副詞where, whenを用いた文の形・意味を理解している。 ・世界中で壁画を描く活動について書かれた話の内容を読み取る技能を身につけている。	・世界中で壁画を描く活動についての話や、外国の人々と交流する方法について話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・世界中で壁画を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、外国の人々と交流する方法について書こうとしている。
Lesson 8 Inspiration from Nature 文法のまとめ 3 (動詞の目的語になるif節／関係副詞／知覚動詞)	・生物模倣についての授業を通して自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 ・自然界のデザインをヒントにした製品について、英語で発表できる。 ・知覚動詞	・知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。 ・生物模倣についてのオンライン講演の授業や、痛くない注射針について書かれた記事の内容を読み取る技能を身につけている。	・生物模倣についてのオンライン講演の授業や、痛くない注射針について書かれた記事の概要を捉えている。	・生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を用いて、その紹介記事を書こうとしている。
Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate エッセイライティング Extra Target 2 ○○ならいいのに…	・カカオ農園の実態と児童労働問題について学習する。 ・社会的な問題について、英語で意見を述べるができる。 ・使役動詞	・使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。 ・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策についての雑誌の記事や、カカオ農園での児童労働の問題についての討論の内容を読み取る技能を身につけている。	・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策についての雑誌の記事や、チョコレートをめぐる社会問題について話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを書こうとしている。
Lesson 10 Fighting Angel 文法のまとめ 4 (使役動詞／分詞構文)	・ナイチンゲールの生涯について学習する。 ・人を助ける職業について、英語で説明することができる。 ・分詞構文	・分詞構文を用いた文の形・意味を理解している。 ・分詞構文の理解をもとに、医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯を紹介する記事の内容を読み取る技能を身につけている。	・医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯を紹介する記事や、人を助ける職業について話されるスピーチや対話の概要を捉えている。	・ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について自分で調べた事柄を用いて、人を助ける職業について書こうとしている。
Reading 2 Bear's Pie Word Box 5 A Day in English :Part 2	・登場人物の気持ちを考えながら朗読劇を演じて発表する。 ・平日の生活でよく使われる語句や表現を学習する。	・アメリカの小さなレストランを経営する夫婦と息子についての物語"Bear's Pie"を読解する技能を身につけている。 ・アメリカの家庭におけるパイの意義を理解している。	・物語"Bear's Pie"の導入場面を整理し、2種の結末の概要を捉えている。	・家庭料理であるパイにまつわるアメリカの文化を調べ、"Bear's Pie"の理解を深めている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーションⅢa	CⅢ701	東京書籍	All Aboard ! English Communication Ⅲ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Lesson 1 Gifts to Barcelona	建築物について、英語で紹介をすることができる。	[知識]to不定詞/動名詞を用いた文の形,意味を理解している。また海外の有名な建築物について学んだり建築物について自分で調べたことを理解している。 [技能]to不定詞/動名詞の理解のもとに、アントニオ・ガウディが設計した建築物の概念や特徴についての紹介や記事を聞いたり読んだり、また情報や考えを伝え合ったり、話したり、原稿を書く技能を身につけている。	アントニオ・ガウディが設計した建築物の概念や特徴についての紹介や、建築物の名前や特徴などを紹介するレポート番組や記事を捉え、情報、考えを整理して概要を伝え会ったり、話したり原稿を書くことができる。	アントニオ・ガウディが設計した建築物の概念や特徴についての紹介しようとしたり、建築物の名前や特徴などを紹介するレポート番組や記事を捉え、情報、考えを整理して概要を伝え会ったり、話し会ったり原稿を書こうとしている。
Lesson 2 Akkamui	生き物の特徴について、英語で説明をすることができる。	[知識]現在完了形を用いた文の形・意味を理解している。北海道のエゾモンガやアイヌの人々について学んだり、生き物について自分で調べた事柄を整理・理解している。 [技能]現在完了形の理解のもと北海道の野生動物観察ツアーガイドによるエゾモンガやアイヌの人々について学んだりしたことを聞いたり、読んだり、伝え合ったり、話したり、原稿を書く技能を身につけている。	北海道の野生動物観察ツアーのガイドによる、エゾモンガやアイヌの人々についての説明や、対話や発表の概要を捉えている。また調べた事柄を用いて、情報や感想などを伝えたり、話したり、原稿を書くことができる。	北海道の野生動物観察ツアーのガイドによる、エゾモンガやアイヌの人々についての説明や、対話や発表の概要を捉えようと、また調べた事柄を用いて、情報や感想などを伝え会おうとしたり、話そうとしたり、原稿を書こうとしている。
Lesson3 Your True Colors	ファッションについて、英語でインタビューをすることができる。	[知識]使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また衣服の働きと自己表現としてファッションについて学んだり、ファッションやスタイルについて、自分で調べたり考えたりした事柄を整理・理解している。 [技能]使役動詞の理解のもとに、衣服の働きと自己表現としてのファッションやスタイルについて記事の内容を聞いたり、読んだりインタビューしたり、インタビューに答えたり、インタビューに選んだ人物について発表や原稿を書いたりする技能を身につけている。	衣服の働きと自己表現としてのファッションについて考える記事や、ファッションやスタイルに関するインタビューや、書かれた記事の概要を捉えている。また自分で調べたり考えたりした事柄を用いて、インタビューしたり、インタビューに答えたり、インタビュー形式で選んだ人物のファッションやスタイルについて、整理して話したり原稿を書くことができる。	衣服の働きと自己表現としてのファッションについて考える記事や、ファッションやスタイルに関するインタビューや、書かれた記事の概要を捉えようとしている。また自分で調べたり考えたりした事柄を用いて、インタビューしようとしたり、インタビューに答えようとしたり、インタビュー形式で選んだ人物のファッションやスタイルについて、整理して話そうとしたり、原稿を書こうとしている。
Lesson 4 Our Future Food?	食糧問題について、英語でミニディバートをすることができる。	[知識]受け身形を用いた文の形・意味を理解している。昆虫食について学んだり、食糧問題について自分で調べた事柄を整理・理解している。 [技能]受け身形の理解のもとに、コオロギを使用する昆虫食について対話を聞き取ったり、読み取る。調べた事柄に意見や反論を伝え合う技能を身につけている。広告を作成したり、ミニディバートをするとき、論題に添って意見や情報を話したり、書いたりする技能を身につけている。	コオロギを使用する昆虫食についての対話や、食糧問題を論題にしたミニディバートの概要を捉えている。昆虫食について学んだり、食糧問題について、自分で調べた事柄を用いて意見・反論を伝え会ったり、話したり、論題について意見を整理して書くことができる。	コオロギを使用する昆虫食についての対話や、食糧問題を論題にしたミニディバートの概要を捉えようとしている。昆虫食について学んだり、食糧問題について、自分で調べた事柄を用いて意見・反論を伝え会おうとしたり、話そうとしたり、論題について意見を整理して書こうとしている。
Lesson5 Madagascar	地域の自然について、英語でプレゼンテーションをすることができる。	[知識]関係代名詞who,which,thatを用いた文の形・意味を理解している。マダガスカルについて学んだり、地域の自然の特徴について自分で調べた事柄を整理・理解している。 [技能]関係代名詞who,which,thatを用いた文の形・意味を理解のもとに、マダガスカルの自然と人々の生活について、聞き取りや内容を読み取る技能を身につけている。また自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う、プレゼンテーションをする、またその原稿を書く技能を身につけている。	マダガスカルの自然と人々の生活についての紹介や、地域の自然の特徴について話される対話やプレゼンテーションや書かれている記事の概要を捉えている。マダガスカルについて学んで地球環境や生態系について考えたり、地域の特徴について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを伝え合ったり、話したりプレゼンテーションの原稿を書くことができる。	マダガスカルの自然と人々の生活についての紹介や、地域の自然の特徴について話される対話やプレゼンテーションや書かれている記事の概要を捉えようとしている。マダガスカルについて学んで地球環境や生態系について考えたり地域の特徴について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを伝え会おうとしたり、話そうとしたり、プレゼンテーションの原稿を書こうとしている。
Reading 1 The Fun They Had	今からおよそ130年後の学校の形態と教育のあり方を想像し、子どもたちの思いと幸せを考える。	[知識]未来の機械化された学校と生徒の日常生活についての物語を読み、各場面の状況を登場人物の心情を読み取ることができる。 [技能]各場面の状況や登場人物の心情を考えたり想像したりしながら、やや複雑な構造の物語を音読できる。	未来の機械化された学校と生徒の日常生活についての物語の内容を理解し、各場面の状況を登場人物の心情を読み取ったり、内容を伝えたり、理想の学校のあり方をディベートしたり、自分の意見をまとめて書いたりすることができる。	未来の機械化された学校と生徒の日常生活についての物語の内容を理解しようとしたり、各場面の状況を登場人物の心情を読み取ろうとしたり、内容を話そうとしたり、理想の学校のあり方をディベートしようとしたり、自分の意見をまとめて書こうとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準				
相生学院高等学校				
教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	英語コミュニケーションⅢb	CⅢ701	東京書籍	All Aboard ! English Communication Ⅲ
学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 行動観察 課題プリント
Lesson 6 The Mystery of the Terracotta Warriors	訪ねてみたい史跡について、英語でまとまりのある文章を書くことができる。	[知識]関係代名詞(who,which)の非制限用法を用いた文の形・意味を理解している。古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について学んだり、訪れてみたい史跡について自分で調べた事柄を整理・理解している。 [技能]関係代名詞(who,which)の非制限用法を理解の上で秦の始皇帝の業績や彼が残した兵馬俑について聞き取ったり、読み取ったり、情報や考えを伝え合ったり、発表したり、書いたりする技能を身につけている。	古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑についての紹介や、訪れてみたい史跡について話される対話や書かれた記事の概要をとらえている。また自分で調べた事柄を用いて情報や考えなどを伝え合ったり、整理して話したり、まとまりのあるパラグラフを書くことができる。	古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑についての紹介や、訪れてみたい史跡について話される対話や書かれた記事の概要をとらえようとしている。また自分で調べた事柄を用いて情報や考えなどを伝え合おうとしたり、整理して話そうとしたり、まとまりのあるパラグラフを書こうとしている。
Lesson7 Green Challenges	再生可能エネルギーについて、国や地域を比較して英語でプレゼンテーションできる。	[知識]比較表現を用いた文の形・意味を理解している。地球温暖化と再生可能エネルギーについて学んだり、再生可能エネルギーへの投資金額などのグラフから読み取った事柄を整理・理解している。 [技能]比較表現の理解をもとに、地球温暖化と再生可能エネルギーについて各国の状況を聞き取り、読み取る技能を身につけている。また投資金額のグラフを読み取り、情報や考えを伝え合う、プレゼンテーションをする、その原稿を書く技能を身につけている。	地球温暖化と再生可能エネルギー、アイスランドとカナダの電力発電、再生可能エネルギーへの投資金額などについて話されるプレゼンテーションやスピーチや、書かれた記事の概要を捉えている。また投資金額のグラフから読み取った事柄などを用いて、情報や考えを伝え合ったり、話したり、読み取った事柄などを用いて、プレゼンテーションの原稿を書くことができる。	地球温暖化と再生可能エネルギー、アイスランドとカナダの電力発電、再生可能エネルギーへの投資金額などについて話されるプレゼンテーションやスピーチや、書かれた記事の概要を捉えようとしている。また投資金額のグラフから読み取った事柄などを用いて、情報や考えを伝え合おうとしたり、話そうとしたり、読み取った事柄などを用いて、プレゼンテーションの原稿を書こうとしている。
Lesson 8 Witnesses of War	経験したことや考えたことについて、英語でまとまりのある文章を書くことができる。	[知識]名詞を後ろから説明する分詞を用いた文の形・意味を理解している。原爆投下により被爆した広島路面電車と、その運転士だった女子学生の経験を通して、平和の大切さについて学んだり、訪れた場所での経験をまとめた事柄を整理・理解している。 [技能]後ろから説明する分詞を理解した上で、原爆投下時の運転士だった女子学生の経験から、平和の大切さについての対話の内容や記事を、聞き取ったり読み取ることができる。さらに情報や考えを話し伝え合う、経験についてパラグラフを発表したり、パラグラフを書くことができる。	原爆投下により被爆した広島路面電車と、その運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて考える記事や訪れた場所で経験したことなどについての概要を、聞き取ったり、理解ができる。 自分でまとめた事柄の情報や考えなどを伝え合ったり、自分の経験について整理した事柄を話したり、書くことができる。	原爆投下により被爆した広島路面電車と、その運転士だった女子生徒の経験を通して、平和の大切さについて考える記事や訪れた場所で経験したことなどについて概要を、聞き取ったり、理解しようとしている。 自分でまとめた事柄の情報や考えなどを伝え合おうとしたり、自分の経験について整理した事柄を話そうとしたり、書こうとしている。
Lesson 9 The Wonders of Lightning	電気の有効活用について、英語でミニディベートをすることができる。	[知識]仮定法過去を用いた文の形・意味を理解している。雷や異常気象について学んだり、電気自動車への切り替えについて自分で調べた事柄を整理・理解している。 [技能]仮定法過去の理解のもとに、雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化との関係について海外の高校生に向けたオンラインの発表を聞き取ったり、読み取る技能を身につける。自分で調べた事柄を伝え合うことや、ミニディベートで話したり、論題について書く技能を身につける。	雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化の関係などについての、海外の高校生へのオンライン発表や電気自動車への切り替えを論題にしたミニディベートの概要を捉えている。また意見や反論など伝えあったり、論題に添う意見や情報を話したり、整理して書くことができる。	雷の発生のしくみや避難方法、地球温暖化の関係などについての、海外の高校生へのオンライン発表や電気自動車への切り替えを論題にしたミニディベートの概要を捉えようとしている。また意見や反論など伝え合おうとしたり、論題に添う意見や情報を話そうとしたり、整理して書こうとしている。
Lesson 10 Katherine’s Long Journey	社会に影響を与えた人物について、英語でエッセイを書くことができる。	[知識]関係代名詞whoseを用いた文の形・意味を理解している。人種差別の壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者キャサリン・ジョンソンについて学んだり、社会に影響を与えた人物について自分で調べてまとめた事柄を理解している。 [技能]米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者キャサリン・ジョンソンについて学んだり、社会に影響を与えた人物について自分で調べてまとめた事柄を聞き取ったり、読み取ったりして理解している。さらに情報や考えなどを伝え合ったり、エッセイを発表したり、書く技能を身につけている。	人種差別の壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンについて書かれた記事や、社会に影響を与えた人物について、読まれるエッセイの概要を捉えている。また自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを伝えあったり、話したり、書くことができる。	人種差別の壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したアフリカ系アメリカ人数学者、キャサリン・ジョンソンについて書かれた記事や、社会に影響を与えた人物について、読まれるエッセイの概要を捉えようとしている。また自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを伝え合おうとしたり、話し合おうとしたり、書こうとしたりしている。
Reading 2 Table for Two	人との出会いと運命について思いを寄せる。	[知識]若い二人がレストランで相席することによって出会い、お互い運命的なひらめきを感じた。彼女の連絡先の電話番号を書いた本をジョゼフは失くしてしまい、再び会うことができず、二人とも失意の中にいたが、また偶然にもバリーで会うことができ、二人のストーリーに運命的な人生を読み取ることができる。 [技能]各場面の状況や登場人物の心情を考えたり想像したりしながら、やや複雑な構造の物語を音読できる。	二人の出会いの物語の内容を理解し、各場面の状況を登場人物の心情を読み取ったり、内容を伝えたり、理想の人生のあり方をディベートしたり、自分の意見をまとめて書いたりすることができる。	二人の運命的な出会いについての物語の内容を理解しようとしたり、各場面の状況を登場人物の心情を読み取ろうとしたり、内容を話したり、理想の人生のあり方をディベートしようとしたり、自分の意見をまとめて書こうとする。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	論理・表現 I	論 I 901	東京書籍	NEW FAVORITE English Logic and Expression I Revised

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
Unit 1 Lesson 1 初めての食事	〔言語の働き〕 褒める, 勧める, 断る 〔文法〕 未来表現, 可算名詞・不可算名詞, 受動態	〔知識〕 褒める, 勧める, 断るときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕 学んだ知識を用いて, 褒める, 勧める, 断るときの表現を適切に運用している。また, 自分の考えや気持ちなどを伝え合う基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 相手を褒めたり, 物事を勧めたりしている。また, 勧誘内容を理解し, 提案を断ったりして, 自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 相手を褒めたり, 物事を勧めたりしている。また, 相手にわかりやすく道順を説明するなどして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 相手を褒めたり, 物事を勧めたりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 勧誘内容を理解し, 提案を断ったりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 2 道に迷う	〔言語の働き〕 提案する, 依頼する, 道順を説明する 〔文法〕 (Could you …?や命令文など)	〔知識〕提案する, 依頼する, 道順を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 提案する, 依頼する, 道順を説明するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の立場や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 物事を提案したり, 依頼したりしている。また, 相手にわかりやすく道順を説明するなどして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 物事を提案したり, 依頼したり, 相手にわかりやすく道順を説明するために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 3 人物紹介	〔言語の働き〕 身近な人を紹介する, 注意を引く 〔文法〕 現在完了形と過去形, to不定詞と動名詞	〔知識〕身近な人を紹介する, 聞き手や読み手の注意を引くときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 身近な人を紹介する, 聞き手や読み手の注意を引くときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の知識や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 1つのテーマに沿って, 身近な人を紹介したり, テーマに関連性を持たせたりしている。また, 聞き手や読み手の注意を引いたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 1つのテーマに沿って, 身近な人を紹介したり, テーマに関連性を持たせたりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 聞き手や読み手の注意を引いたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 4 体調が悪い	〔言語の働き〕 体調を伝える, 体調を尋ねる, 指示・アドバイスを 〔文法〕 冠詞・人称代名詞, should have better	知識)体調を伝える, 体調を尋ねる, 指示・アドバイスをするとときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 体調を伝える, 体調を尋ねる, 指示・アドバイスをするとときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 現在の体調・具体的な症状などを伝えていく。また, 相手の立場や状況を理解し, 具体的な返答がしやすい形で, 体調を尋ねたり, 指示・アドバイスを提示したりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返り, 適切な表現を用いて, 現在の体調・具体的な症状などを伝えるために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手の立場や状況を理解し, 具体的な返答がしやすい形で, 体調を尋ねたり, 指示・アドバイスをしたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 5 買い物	〔言語の働き〕 描写する, 相づちを打つ 〔文法〕 現在形と現在進行形, 現在完了形と過去形	〔知識〕描写する, 相づちを打つときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 描写する, 相づちを打つときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, わかりやすく物事を描写している。また, 文脈に応じて, 適切な表現で相づちを打ったりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, わかりやすく物事を描写するために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 文脈に応じて, 適切な表現で相づちを打ったりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所	〔言語の働き〕 希望を述べる, 理由を述べる 〔文法〕 後置修飾, to不定詞と動名詞	〔知識〕希望を述べる, 理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 希望を述べる, 理由を述べるときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の立場や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的かつ一貫した繋がりを持たせ希望を述べている。また, 相手が納得できるよう論理を一貫させて理由を述べたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 相手の立場や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的かつ一貫した繋がりを持たせ希望を述べるために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手が納得できるよう論理を一貫させて理由を述べたりして, 自分の言葉で考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる	〔言語の働き〕 誘う, 誘いを受ける, 誘いを断る 〔文法〕 未来表現	〔知識〕誘う, 誘いを受ける, 誘いを断るときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 誘う, 誘いを受ける, 誘いを断るときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 計画などの魅力を伝えて誘ったり, 計画などに対する期待感を伝えたりしている。また, 誘いを受けたり, 相手に配慮した形で理由を述べて誘いを断ったりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 適切な表現を用いて, 計画などの魅力を伝えて誘ったり, 計画などに対する期待感を伝えたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 誘いを受けたり, 相手に配慮した形で理由を述べて誘いを断ったりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。

Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談	〔言語の働き〕 状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案する, お礼や感謝を伝える 〔文法〕 (how)やwhyを用いた文	〔知識〕状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案をする, お礼や感謝を伝えるなどの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 状況を説明する, 手助けを申し出る, 助言・提案をする, お礼や感謝を伝えるなどの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 状況を整理して説明したり, 手助けを申し出たりしている。また, 助言・提案をしたり, お礼や感謝を伝えたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 状況を整理して説明したり, 手助けを申し出たり, 助言・提案をしたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, お礼や感謝を伝えたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介	〔言語の働き〕 映画や本のあらすじを要約したり, 登場人物などを紹介したりする, 感想や批評を述べる 〔文法〕 前置修飾, 後置修飾	〔知識〕映画や本のあらすじを要約する, 登場人物などを紹介する, 感想や批評を述べるなどの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 映画や本のあらすじを要約する, 登場人物などを紹介する, 感想や批評を述べるなどの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の知識や発言を理解し, 適切な表現を用いて, あらすじなどを順序だてて要約して紹介したり, 内容に関連する感想や批評を述べたりしている。また, 聞き手や読み手にわかりやすく, 自分の考えや気持ちなどを表現している	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, あらすじなどを順序だてて要約して紹介したり, 内容に関連する感想や批評を述べたりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを, 聞き手や読み手にわかりやすく表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻	〔言語の働き〕 相手に謝る, 相手を許す, 相手を励ます 〔文法〕 使役動詞, to不定詞と動名詞	〔知識〕謝る, 許す, 励ますときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 謝る, 許す, 励ますときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の状況を理解し, 適切な表現を用いて, 具体的な内容や理由を添えて謝罪の気持ちを伝えている。また, 相手を許す気持ちを伝えたり, 相手を励ましたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 具体的な内容や理由を添えて謝罪の気持ちを伝えるために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手を許す気持ちを伝えたり, 相手を励ましたりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッション	〔言語の働き〕 共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案する 〔文法〕 仮定法	〔知識〕共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 共感を述べる, 残念な気持ちを述べる, 解決策を提案するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 共感〔賛成・反対〕を述べたり, 残念に思う気持ちを伝えたりしている。また, 相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 共感〔賛成・反対〕を述べたり, 残念に思う気持ちを伝えたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 相手の抱える問題に対する解決策を提案したりして, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿	〔言語の働き〕 要望や主張を述べる, 理由を述べる 〔文法〕 仮定法	〔知識〕要望や主張を述べる, 理由を述べるなどの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 要望や主張を述べる, 理由を述べるなどの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の意見や立場を理解し, 適切な表現を用いて, 要望や主張〔自身の意見〕を述べたり, 要望や主張をサポートする理由を述べたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 要望や主張〔自身の意見〕を述べたり, 要望や主張をサポートする理由を述べたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート①	〔言語の働き〕 理由を述べる, 例を挙げる 〔文法〕 to不定詞と動名詞	〔知識〕理由を述べる, 例を挙げるなどの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 理由を述べる, 例を挙げるなどの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, 相手を説得するために自説を補強する理由を述べたり, 自説に合った例を挙げたりしている。また, 考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 相手を説得するために自説を補強する理由を述べたり, 自説に合った例を挙げたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート②	〔言語の働き〕 相手の意見に反駁する, 相手の意見を引用する 〔文法〕 否定語の使い方	〔知識〕相手の意見に反駁する, 相手の意見を引用するときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, 相手の意見に反駁する, 相手の意見を引用するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の意見を理解し, 適切な表現を用いて, 反駁したり, 相手の発言を引用したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 反駁したり, 相手の発言を引用したりして, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ	〔言語の働き〕 できごとをいきいきと描写する, 経験からアドバイスをする 〔文法〕 後置修飾, 受動態	〔知識〕できごとを生き生きと描写する, 経験からアドバイスをするときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, できごとを生き生きと描写する, 経験からアドバイスをするときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, できごとを生き生きと描写したり, 自分の経験に基づくアドバイスをしたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 場面や状況を理解し, 適切な表現を用いて, できごとを生き生きと描写したり, 自分の経験に基づくアドバイスをしたりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介	〔言語の働き〕 ルールや手順を順序だてて説明する, 聞き手の知識に合わせて説明する 〔文法〕 現在完了形と過去形	〔知識〕ルールや手順を順序立てて説明する, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 〔技能〕学んだ知識を用いて, ルールや手順を順序立てて説明する, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現を適切に運用している。自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の理解に配慮し, ルールや手順を順序立てて説明したり, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, ルールや手順を順序立てて説明したり, 聞き手や読み手の知識に合わせて説明したりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。

Unit 2 Lesson 5 日本をPR	[言語の働き] 事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明する [文法] and, but, so	[知識]事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能]学んだ知識を用いて, 事実と意見を区別して述べる, 文化や習慣を説明するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	事実と意見を区別して述べたり, 相手の認識に配慮し, 客観的に説明したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 事実と意見を区別して述べたり, 相手の認識に配慮し, 客観的に説明したりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 6 物語の両面を伝える	[言語の働き] 利点と欠点を述べる, 話題を発展させる, 話題を変える [文法] 名詞と無生物主語	[知識]利点と欠点を述べる, 話題を発展させる, 話題を変えるときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能]学んだ知識を用いて, 利点と欠点を述べる, 話題を発展させる, 話題を変えるときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	適切な表現を用いて, 利点と欠点の両方を述べたり, 話題を発展させたり, ディスコースマーカ―を適切に用いて話題を変えたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 利点と欠点の両方を述べたり, 話題を発展させたり, ディスコースマーカ―を適切に用いて話題を変えたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 7 読み手を納得させる	[言語の働き] 自分の主張について理由を説明する, 理由を要約してまとめる [文法] (分詞構文)	[知識]自分の主張の理由・根拠を説明する, 理由を要約して述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能]学んだ知識を用いて, 自分の主張の理由・根拠を説明する, 理由を要約して述べるときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	適切な表現を用いて, 相手が納得できるように, 自分の主張の理由・根拠を説明したり, 相手の意見を理解し, 理由を要約して述べたりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら, 適切な表現を用いて, 相手が納得できるように, 自分の主張の理由・根拠を説明したり, 相手の意見を理解し, 理由を要約して述べたりするために繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。
Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	[言語の働き] 人の発言を直接引用する, 条件を出して意見を述べる, 説得する [文法] 名詞と無生物主語	[知識]人の発言を直接引用する, 条件を出して意見を述べる, 説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。 [技能]学んだ知識を用いて, 人の発言を直接引用する, 条件を出して意見を述べる, 説得するときの表現を適切に運用し, 自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につけている。	相手の意見や主張を理解し, 適切な表現を用いて, 自分と他者の意見や発言を区別してそれを引用したり, 条件を出して意見を述べたり, 相手を説得したりしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現している。	自身の活動を振り返りながら適切な表現を用いて, 自分と他者の意見や発言を区別してそれを引用したり, 条件を出して意見を述べたり, 相手を説得したりするために, 繰り返し活動に取り組もうとしている。また, 自分の考えや気持ちなどを表現しようとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
外国語	論理・表現Ⅱ	論Ⅱ701	東京書籍	NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅡ

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 単位認定試験	レポート 単位認定試験 行動観察 課題プリント
		【知識】訂正する/心配する/感謝する/驚く/繰り返す/言い換える/注意を引く/同意を求める/望む/褒めるときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、訂正する/心配する/感謝する/驚く/繰り返す/言い換える/注意を引く/同意を求める/望む/褒める際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、訂正する/心配する/感謝する/驚く/繰り返す/言い換える/注意を引く/同意を求める/望む/褒める際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。
Unit1 Lesson1 友達に報告する Lesson2 日本での初登校 Lesson3 経験についてのスピーチ Lesson4 ファンレター	日常使用する英語表現(訂正する/心配する/感謝する/驚く/繰り返す/言い換える/注意を引く/同意を求める/望む/褒める)を身に付ける。	【知識】誘う/説明する/聞き直す/依頼する/要約する/言い換える/困ったことを伝える/控えめに依頼するときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、誘う/説明する/聞き直す/依頼する/要約する/言い換える/困ったことを伝える/控えめに依頼する際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、誘う/説明する/聞き直す/依頼する/要約する/言い換える/困ったことを伝える/控えめに依頼する際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。
Unit1 Lesson9 タクシーに乗る Lesson10 友達とディスカッション Lesson11 比較結果のプレゼンテーション Lesson12 就きたい職業	日常使用する英語表現(依頼する/提案する/仮定する/反対する/報告する/比較する/説明する/理由を述べる)を身に付ける。	【知識】依頼する/提案する/仮定する/反対する/報告する/比較する/説明する/理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、依頼する/提案する/仮定する/反対する/報告する/比較する/説明する/理由を述べる際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、依頼する/提案する/仮定する/反対する/報告する/比較する/説明する/理由を述べる際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。
Unit2 Lesson1 クラスでディベート① Lesson2 クラスでディベート② Lesson3 クラスでディベート③	日常使用する英語表現(推論する/賛成・反対する/主張する/説得する)を身に付ける。	【知識】推論する/賛成・反対する/主張する/説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、推論する/賛成・反対する/主張する/説得する際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、推論する/賛成・反対する/主張する/説得する際の、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。
Unit2 Lesson4 調査結果のプレゼンテーション Lesson5 社会問題についてのスピーチ	日常使用する英語表現(報告する/望む/説明する/主張する/提案する)を身に付ける。	【知識】報告する/望む/説明する/主張する/提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、報告する/望む/説明する/主張する/提案する際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、報告する/望む/説明する/主張する/提案する際の、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。
Unit2 Lesson6 仮定して推論する Lesson7 比較して説明する Lesson8 読み手を説得する	日常使用する英語表現(仮定する/推論する/比較する/類似点と相違点を説明する/主張する/説得する)を身に付ける。	【知識】仮定する/推論する/比較する/類似点と相違点を説明する/主張する/説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。 【技能】学んだ知識を用いて、表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身につけている。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、仮定する/推論する/比較する/類似点と相違点を説明する/主張する/説得する際の自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	自分の活動を振り返りながら、適切な表現を用いて、仮定する/推論する/比較する/類似点と相違点を説明する/主張する/説得する際の、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
家庭	家庭総合(家庭総合a)	家総002-901	東京書籍	家庭総合 自立・共生・創造

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 視聴報告書	レポート 単位認定試験 行動観察
第1章 生涯を見通す 1.人生を展望する 2.目標を持って生きる	自立した生活を営むために、生涯発達 の視点からライフ ステージの特徴と課題 を理解する。	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 ・自立した生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源についての課題に対応し、情報の収集・整理を重ねたうえで意思決定をしていくことの重要性について理解している。	・ライフスタイルと将来の家庭生活などの生涯を見通した自己の生活及び職業生活について、主体的に思考できる。 ・生活資源を活用した生活設計について課題設定・解決策の構想から、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組み、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと興味をもって学習できている。
第2章 人生をつくる 1.人生をつくる 2.家族・家庭を見つめる 3.これからの家庭生活と社会	生涯を見通して、自分のライフスタイル を考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。	・生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題や、意思決定の重要性について理解している。 ・家族・家庭の機能と家族関係、法律及び意義について理解している。 ・男女の平等と協力について理解を深めている。 ・家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。	・家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力しあい、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性及び自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することの重要性について、課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭及び社会について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を向上させようと主体的に習得しようとしている。
第3章 子どもと共に育つ 1.命を育む 2.子どもの育つ力を知る 3.子どもと関わる 4.子どもとの触れ合いから学ぶ 5.これからの保育環境	子どもの育つ力を理解するとともに、親になったとき、あるいは地域や社会の一員として、子どもとどう関わり、育んでいくかを考える。	・青年期の課題である自立及び親の役割と保育について理解している。 ・乳幼児期の心身の発達と生活及び子供の遊びと文化について理解している。 ・子供の発達に応じて適切に関わるための技能を理解している。 ・子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉や子育て支援について理解している。	・子供の健やかな発達を支えるために、子供との適切な関わり方について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供との関わりと保育・福祉について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第4章 超高齢社会を共に生きる 1.超高齢・大衆長寿社会を迎えて 2.高齢者の心身の特徴 3.高齢者の自立を支える 4.これからの超高齢社会	超高齢社会を生きる者として、充実した毎日を送ることができる社会のあり方について考える。	・高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している。 ・高齢期の心身の特徴について理解している。 ・高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護及び高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能について理解している。 ・高齢者福祉について理解している。	・高齢者の自立生活を支えるために、高齢者の心身の状況に応じた適切な支援の方法や関わり方について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢者との関わりと福祉について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第5章 共に生き、共に支える 1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる	誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	・家庭と地域との関わりについて理解している。 ・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ・高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解している。	・家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもち、様々な人々との関わり方について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第6章 食生活をつくる 1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食品の選択と安全 4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 6.食生活の文化と知恵 7.これからの食生活	よりよい食習慣を身に付けるための知識を学び、生活の質を高める視点と生活習慣病予防の視点を持つ。	・食生活を取り巻く課題など、食と人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、健康や環境に配慮した食生活について理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴及び栄養的特質について理解している。 ・食品の調理上の性質について科学的に理解している。 ・食の安全と衛生など、食と人との関わりについて理解している。 ・食品衛生について科学的に理解している。	・主体的に食生活を営むことができるよう健康に配慮した自己と家族の食事について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
家庭	家庭総合(家庭総合b)	家総002－901	東京書籍	家庭総合 自立・共生・創造

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 単位認定試験	レポート 視聴報告書	レポート 単位認定試験 行動観察
第7章 衣生活をつくる 1.被服の役割を考える 2.被服を入手する 3.被服を管理する	健康で快適に装うために、どのように被服計画を立てていけばよいかを考え、身に付ける。	・ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解している。 ・被服と人との関わり及び健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理について理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能及び被服材料について科学的に理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能及び被服衛生・被服管理について科学的に理解している。	・主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を向上させようと主体的に習得しようとしている。
第7章 衣生活をつくる 4.被服を作る 5.衣生活の文化と知恵 6.これからの衣生活	目的に合った被服を製作するために、被服の構成を理解する。	・被服構成及び被服製作について科学的に理解している。 ・衣生活の自立に必要な技能及び日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解している。 ・衣生活を取り巻く課題など、被服と人との関わりについて理解している。 ・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理について理解している。	・主体的に衣生活を営むことができるよう日本の衣文化の継承・創造について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 ・主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第8章 住生活をつくる 1.住生活の変遷と住居の機能 2.安全で快適な住生活の計画 3.住生活の文化と知恵 4.これからの住生活	安全で快適な住居を整え、地域の住文化に溶け込み、街並みや周囲の自然環境と調和した持続可能な住生活を営むために必要な知識を身に付ける。	・住生活を取り巻く課題など、住まいと人との関わりについて理解している。 ・ライフステージの特徴や課題に着目し、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解している。 ・住生活の計画・管理に必要な技能及び家族の生活や生活様式に応じた持続可能な住居の計画について理解している。 ・快適で安全な住空間を計画するために必要な情報の収集・整理について理解している。 ・日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解している。 ・家族の生活やライフスタイルに応じた持続可能な住居の計画及び住生活を取り巻く課題など、住まいと人との関わりについて理解している。	・主体的に住生活を営むことができるようライフステージと住環境及び防災などの安全に配慮した住生活とまちづくりに応じた住居の計画について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 ・主体的に住生活を営むことができるよう日本の住文化の継承・創造及び環境に配慮した住生活とまちづくりについて課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活の科学と文化について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第9章 経済生活を営む 1.情報の収集・比較と意思決定 2.購入・支払いのルールと方法 3.消費者の権利と責任 4.生涯の経済生活を見通す 5.家計をマネジメントする 6.これからの経済生活	自立した消費者として適切に意思決定を行い、消費生活をマネジメントする力を身に付ける。	・消費行動における意思決定及び消費生活の現状と課題について理解している。 ・生活情報の収集・整理について適切に理解している。 ・契約の重要性及び消費者保護の仕組みについて理解している。 ・責任ある消費の重要性及び消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解している。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画及び家計の構造について理解している。 ・リスク管理の考え方やそれに伴う情報の収集・整理について適切に理解している。 ・生涯を見通した生活における社会との関わり及び経済の管理や計画について理解を深めている。	・生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいた、自立した消費者としての責任ある消費行動について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などに関連付けた課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。
第10章 持続可能な生活を営む 1.持続可能な社会を目指して 2.一人一人の力で社会を動かす 第11章 これからの生活を創造する 1.生活をデザインする	地球全体で起こっているさまざまな問題の課題について学び、生活者として何ができるか考え、取り組み、持続可能なライフスタイルを実現する。	・持続可能な消費及び生活と環境との関わりについて理解している。 ・持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 ・人の一生は、他者や社会との関わりから成り立ち様々な生き方があることを理解している。 ・生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解している。	・持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、ライフスタイルについて課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。 ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について思考できる。 ・生活資源を活用した生活設計について課題設定・解決策の構想を行い、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けることができる。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上させようと主体的に習得しようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準				
相生学院高等学校				
教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
情報	情報 I	情 I 901	東京書籍	新編情報 I
学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 視聴報告書 課題プリント 単位認定試験	レポート 課題プリント
1章 情報で問題を解決する	情報メディアの特性を理解する。問題解決の手順を理解する。著作権や産業財産権についての理解を深める。	・情報やメディアの特性を理解している。 ・問題解決のプロセスを理解している。 ・インターネットを利用する際に守るべき決まり事や、インターネットの適切でない使い方で起こる問題を理解している。	・発想法を使って表現することができる。 ・自分の個人情報を、どのように扱うのが適切かを考えることができる。 ・著作権の利用について適切に判断することができる。 ・電子マネーの利点と欠点を考えることができる。 ・サイバー犯罪の対策を考えることができる。	・身近な問題について、問題解決のプロセスを当てはめようとしている。
2章 情報を伝える	ネットコミュニケーションについて、理解を深める。アナログとデジタルの特徴を理解する。	・コミュニケーション手段の変化について理解している。 ・ネットコミュニケーションの特徴を理解している。 ・デジタルとアナログの違いを理解している。 ・数値のデジタル化の方法を理解している。 ・色と動画のデジタル化の方法を理解している。 ・ユニバーサルデザインとは何かを理解している。	・状況に応じて適切なメディアを選択することができる。 ・情報の圧縮方法の違いについて考えることができる。 ・情報を可視化して表現することができる。	・ユーザ分析をして、効果的なコミュニケーションのために情報デザインを行うようとしている。
3章 コンピュータを活用する	コンピュータの五大装置について確認する。プログラムとシミュレーションの作成手順について確認する。	・コンピュータの仕組みを理解している。 ・ソフトウェアの働きを理解している。 ・アルゴリズムを表現する方法を理解している。 ・乱数や関数を用いたプログラムを理解している。 ・モデル化の技能を身につけている。	・論理回路を真理値表に表現することができる。 ・プログラムに表現することができる。	・コンピュータの仕組みに興味を持とうとしている。 ・よりよい情報社会を築くための情報環境について、どのようなことに気を付けたらよいか考えようとしている。
4章 データを活用する	インターネットのしくみについて理解し、情報セキュリティの特性を確認する。	・インターネット接続について理解している。 ・インターネットの接続の仕組みについて理解している。 ・インターネット上のサービスの仕組みを理解している。 ・データの形式について理解している。 ・データ分析の際に注意することを理解している。	・認証後に使えるようになるサービスについて考えることができる。 ・情報セキュリティを高める技術について、具体的な活用例を考えることができる。 ・関係データモデルの利点を考えることができる。	・情報セキュリティを高める技術を実践しようとしている。
5章 活動して提案する 巻末	ワープロソフト・表計算ソフトなど、様々なソフトウェアの活用方法を確認する。プログラミングについての理解深める。	・ブレンストーミングで意見を出す技能を身につけている。 ・プレゼンテーションソフトウェアを活用する技能を身につけている。 ・Webページの構造を理解している。 ・情報を検索する技能を身につけている。	・複数の情報の中から目的に合った選択を判断することができる。 ・データのサイズを考えることができる。 ・自分の問題を解決するためのプログラムを考えることができる。	・作成した作品を見せ合い、相互評価しようとしている。
巻末 1章～5章の振り返り	1章からの学習を踏まえ、様々な問題について手順を確認し、理解を深める。	・発想法の基本的な考え方を理解している。 ・色と動画のデジタル化の方法を理解している。	・著作権の利用について保護されているかどうか適切に判断することができる。 ・サイバー犯罪の対策を考えることができる。 ・文字コードに当てはめて文字をコンピュータで表現することができる。 ・プログラムに表現することができる。 ・色や光の三原色を調整して、コンピュータで色を表現することができる。 ・情報の圧縮方法の違いについて考えることができる。	・発想法を活用しようとしている。
〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する				

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	ボランティア	-	-	-

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント 行動観察	レポート 課題プリント 行動観察	レポート 課題プリント 行動観察
		・ ボランティアの意義や役割について説明できる。 ・福祉とは何かを理解している。	・福祉とは何か、どのように考えて行動すべきかを自分の言葉で説明できる。	・福祉やボランティアに対して関心を持ち、学習を深めようとしている。
ボランティアの言葉の意味やその目的、種類について学ぶ。福祉について学ぶ。	ボランティアの定義や意義を理解している。 様々な種類のボランティアがあることを理解している。			
紙上に再現された点字を読んだり、紙面で再現したりする練習をし、点字になじむ。 認知症について学ぶ。 障害のある人とのコミュニケーション手段について考える。	点字のしくみや打ち方、読み方を学び、視覚障害者についての理解を深める。 障害のある人とのコミュニケーションについて考えられるようになる。	・点字の仕組みや目的を理解している。 ・認知症に関する基礎知識(症状・対応・社会的課題など)を理解している。	・点字体験や講話を通して、福祉の課題を自分事として捉えて考察している。	・点字体験や講話に積極的に参加し、学ぼうとする姿勢が見られる。
スクーリングで学んだことや自ら調べたことをふまえて、ボランティアや福祉についての考えをまとめ、自分にできることを考える。	ボランティアや福祉について理解し、自分の行動を振り返り、次に生かそうという意欲がみられる。	・福祉やボランティアにまつわる課題について理解している。	・ボランティア活動における自分の役割やできることを論理的に考えて、適切に表現できる。	・体験を通して、自分の行動を振り返り、今後の人生に生かそうとしている。 ・ボランティアのあり方、実施における注意点について積極的に考える姿勢がみられる。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	漁業体験	—	—	—

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート内容・実習行動観察	レポート内容・当日の集合の様子・実習行動観察	レポート内容・実習時の行動観察
1, 校外での体験学習の為、事前案内を基に、現地集合。	・指定された場所・時間に集合できる。(集合できない場合は連絡を入れる)	事前に案内を読み、現地情報集合時間を理解しておく。 天気予報を確認している。	集合時間から逆算し、家を出発する時間・起床時間を考える。 当日の天候に合わせての服装・持ち物を準備する。	事前に現地の事について下調べをしている。 不明な点について事前に質問をする、等実習当日に向けて能動的に不安材料を解消している。
2,担当教員の指示(注意事項)に従う。 3, 担当教員による釣り道具の正しい使い方の説明。	・海での事故にあわない行動をとる。 ・魚を素手で触らない。 ・正しい釣り道具の使い方と、注意事項を守り楽しく釣りをを行う。	担当教員による注意事項・道具の扱い方法などを理解し実行できる。	周りに注意しながら安全に釣りが出来るように行動できる。道具の使い方を理解している。	グループ内で知識・注意事項の共有が出来るよう積極的にコミュニケーションを取ろうと行動している。 消極的な生徒に対する声掛けなどが出来る。
4,安全に気を付けると共に、みんなと協力し、工夫をしながら楽しく釣りをする。	・生徒間どうしてコミュニケーションを取り、助け合い協力する。	メゴチバサミの使い方、釣り糸・竿の動かし方・エサの入れ方、釣れた時の竿やリールの使い方をり開始行動出来ているか。	魚が釣れた時にどのように行動し何に注意するべきか判断し・行動できる。	周りにいる一般の釣り人に迷惑をかけないで、みんなで楽しく、且つ安全に釣りができるように気を使う事が出来る。
5,防波堤の清掃活動 6, 後片付け	・各自飲食後に出たゴミの持ち帰り。 ・防波堤など、実習で汚した後の掃除を行う。 ・ほかの釣り人が出して放置しているごみを集め美しい環境を作る。 ・使用した道具を片づける。	環境を整える事によって、継続的に釣りが出来、安全が確保できることを認識する。	何のために清掃活動を行うのかを理解し、行動できる。	清掃活動や後片付けをし、協力を促す事が出来る。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
体験学習	農業	-	-	-

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習
片山農園で現在の農業の状況と将来の展望を考える	農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
	私たちと情報社会 I			

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント	レポート 課題プリント	レポート 課題プリント グループディスカッション
情報技術を支える基礎的理論	2進数、8進法、10進法、16進数とそれらの基数変換を理解する。アナログデータとデジタル化、またデジタル化のメリットとデメリットを理解する。	・基数の考え方を理解している。 ・2進法、8進法、10進法、16進法の違いを理解している。 ・基数変換の方法について理解している。 ・アナログデータとデジタルデータの違いを理解している。 ・デジタル化の方法について理解している。	・2進法、8進法、10進法、16進法の違いを表記できる。 ・基数にあわせ、適切に計算ができる。 ・デジタル化について説明できる。	・デジタルを支える理論に興味を持とうとしている。
情報社会を支える技術と法律	コンピュータの仕組みやセキュリティの意識と必要性を理解する。法律や規則などの考え方を理解する。	・コンピュータの構成要素や仕組みを理解している。 ・セキュリティと安全意識の必要性について理解している。 ・法律の考え方や、知的財産権に関わる法律を理解している。	・コンピュータの仕組みを、身近な例に置き換えて説明できる。 ・安全意識をもった行動ができる。 ・法律に則った行動について説明ができる。	・セキュリティや安全意識、また法律について興味を持とうとしている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
	私たちと情報社会Ⅱ			

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント	レポート 課題プリント	レポート 課題プリント グループディスカッション
社会を支える組織とその活動	企業活動や代表的な企業組織について理解する。経営の考え方、および資源管理について理解する。	・企業活動について理解している。 ・代表的な企業組織、組織構成を理解している。 ・経営と経営資源について理解している。	・企業の活動について説明できる。 ・組織の仕組みや、その歴史を説明できる。	・社会の仕組みや企業組織を理解し、自らが将来働く姿を想像して行動しようとしている。
組織とパーソナリティの可能性	経営資源の運用とマーケティングについて理解する。高度情報社会における自らの可能性と価値を理解する。	・経営資源の有限性と無限性について理解している。 ・マーケティングの基本的な考え方を理解している。 ・主体的に未来を創る姿を想像し、可能性と価値を理解している。	・経営資源の例を、身近な例に置き換えて説明できる。 ・マーケティング理論を簡単に説明できる。	・マーケティングや資源運用を理解し、可能性と価値を高める行動をしようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
総合的な探求の時間	私たちと伝統文化Ⅰ	—	—	—

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート内容・作品制作活動	レポート内容・作品制作活動	受講態度・レポート内容・作品製作活動
インターネットなどによる事前学習,陶芸家による陶芸についての歴史などと作品制作に向けての講義。	(1)探究の過程において,課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け,課題に関わる概念を形成し,探究の意義や価値を理解するようにする。	土と作業道具などの適切な取り扱いや注意事項、基礎技法の習得が事前学習に於いて出来ているか。	事前学習において作品のテーマ設定、構想、形や模様の工夫が自分なりに出来ているか。	事前学習・陶芸の先生の講義を含め、主体的、協働的、に取り組む姿勢を行動や態度で見受ける事が出来る。
	(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし,自分で課題を立て,情報を集め,整理・分析して,まとめ・表現することができるようにする。			
作品制作実習	(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに,互いのよさを生かしながら,新たな価値を創造し,よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	技法を理解し応用も出来る。	完成した作品を使う相手に対する意図が明白でありまた、独自性があるか、作品の仕上がり状態(サイズ観等)を持ちながら制作活動を進行しているか。	主体的・共働的な姿勢が顕著であり、周りに良い影響を与えている。

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
総合的な探求の時間	私たちと伝統文化Ⅱ	—	—	—

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート内容・作品制作活動	レポート内容・作品制作活動	受講態度・レポート内容・作品製作活動
インターネットなどによる事前学習，陶芸家による陶芸についての歴史などと作品制作に向けての講義。	(1)探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解するようにする。	事前学習に於いて、陶芸の基礎知識を吸収できているか。村尾先生の講義を通じて、絵付けに関する新たな知識や技術を理解できたか。	事前学習に於いて自己表現のイメージなどが出来ているかレポート上、受講態度などを通じて評価する。	事前学習の段階に於いて、レポートなどに意欲的に取り組んでいるか、
	(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。			
作品制作実習	(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	村尾先生による講義を受けての、道具の使用方法や、事前学習で学んだ、知識が活かされているか。	作品にオリジナリティーが表現できているか、事前にイメージしたものに近づいているか。制作活動及びレポートを通じての評価	作品制作に於いて、表現したいものと実際の作品の乖離をどのようになくそうとしているか。またほかの生徒と協調しながら作業が進めようとしているか、作業態度・レポートを通じて観察。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
総合的な探求の時間	文化交流と国際理解 I	-	-	-

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習
子どもの人権と世界の環境問題	地球で生きる者として、日本のみならず他国の人々のことも考え、行動できる人間となる	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
総合的な探求の時間	文化交流と国際理解Ⅱ	-	-	-

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習	レポート スクーリングプリント 実習
世界の水の現状	世界の水の現状を知り、今後の人類の水への取り組みを考える	探究の過程において，課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け，課題に関わる概念を形成し，探究の意義や価値を理解している	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし，自分で課題を立て，情報を集め，整理・分析して，まとめ・表現している	探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに，互いのよさを生かしながら，新たな価値を創造し，よりよい社会を実現しようとしている

[評価基準] A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する

評価規準

相生学院高等学校

教科	科目	教科書番号	出版社	教科書名
総合的な探究の時間	私たちとこれからの社会	-	-	-

学習内容	到達目標	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(評価方法)	(評価方法)	(評価方法)
		レポート 課題プリント 行動観察	レポート 課題プリント 行動観察	レポート 課題プリント 行動観察
(1) 社会と職業	社会の多様な職業構造や労働に関する基礎知識を理解できる。	・産業構造や職業分類、サービス業等の特徴を理解している。 ・労働時間や働き方に関する基礎知識を身に付けている。	・社会には多様な職業があることを理解し、言語化できる。 ・労働に関する基礎知識を元に、社会の多様な職業構造について幅広く思考できる。	・社会の多様な仕事に関心を持ち、主体的に職業調査に取り組んでいる。
(2) 職業観の形成	働く意義について自分の考えを持つことができる。	・自らの興味・関心に基づく職業調査を行なっている。 ・仕事に必要な資質・能力を理解している。	・自らの興味・関心に基づき、職業に必要な資質を多面的に考察している。 ・働くことの意義や価値観を言語化して表現できる。	・対話を通じて他者の職業観を尊重し、学びを深めようとしている。
(3) 将来設計と社会変化	・将来の生き方について考え、言語化できる。	・ライフステージの概念と、社会変化(AI・少子高齢化等)の概要を理解している。	・将来の社会変化が自分に与える影響を予測し、適切な判断を行っている。 ・自分の将来像や人生設計を具体的かつ適切に表現している。	・社会の変化を自分事として捉え、将来の目標設定に積極的に向き合っている。 ・AIの普及や少子高齢化等の社会変化を踏まえ、自らのライフステージや将来像を具体化できている。
(4) 自己理解(エゴグラム)	・自分の性格や強みに気づく。	・エゴグラムによる性格特性の分析方法を正しく理解している。	・自己分析結果から自らの強みや行動傾向を客観的に考察している。 ・自分の望む状況に向けた行動計画を論理的に考えている。 ・より良い人間関係の築き方を考える。	・自己理解を深める活動に主体的に取り組む、自己の在り方や生き方を考えようとしている。

〔評価基準〕 A:十分達成している B:概ね達成している C:努力を要する